



小紋新法

全

2820



叙	自	諄	語	而	木
六	小	而	次	次	綿
藝	學	以	以	而	而
不	者	古	古	次	次
講	必	文	文	以	以
而	先	金	金	小	小
世	以	撥	撥	紘	紘
之	孟				



藏書

2820

~ 13  
2820

旧  
遠  
2132  
47

前より小紋裁を著しとて肩は假名子の  
反古染河糸も裾は所縁の色を染ると  
新造乃仕着小袖は縫ふ肩裾は  
物の枝才御所乃反摺をわくも  
留あまや或は戀といふ字を金縁  
縫也裾は青黄赤白黒小紋蔓草

散々紋浅黄廉子の鴉廉子と注  
盡せし小袖模様は色柄は藤迷廬の  
山と張場と會初川は濯揚と  
再三百餘員乃小紋を染出  
書肆何某浴衣を染るは金  
と撫ん歎心と是といふ系の朱乃

如く大集取て後編小紋新法  
と云ふ

小紋新法門部

天文類

地理類

人物類

食物類

氣形類

木竹類

草花類

器財類

文字類

部外

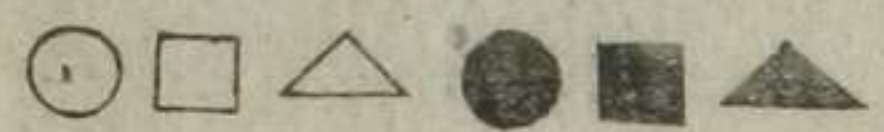
凡三百余品

案者

山東京傳

畫工

北尾政演



山色模樣  
白紙模樣  
深淺模樣  
青紅模樣  
鐵線模樣  
總括模樣

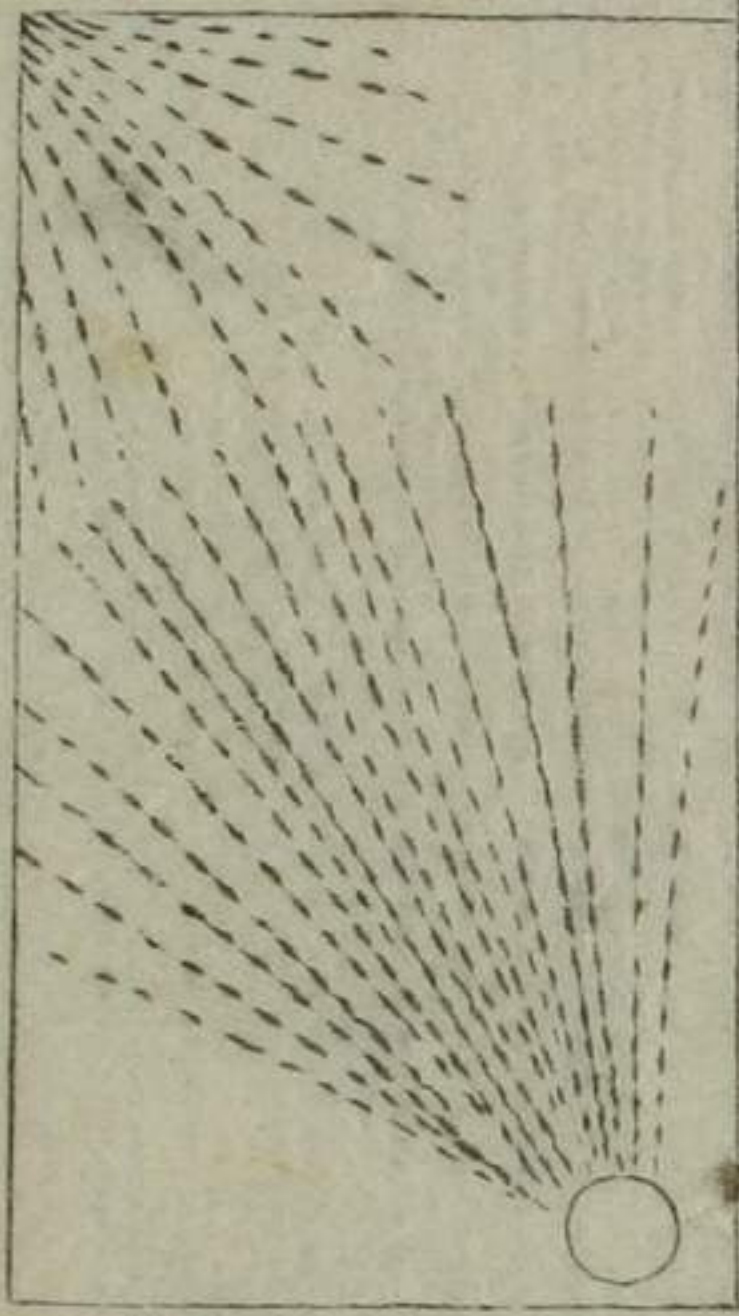


天文地理部



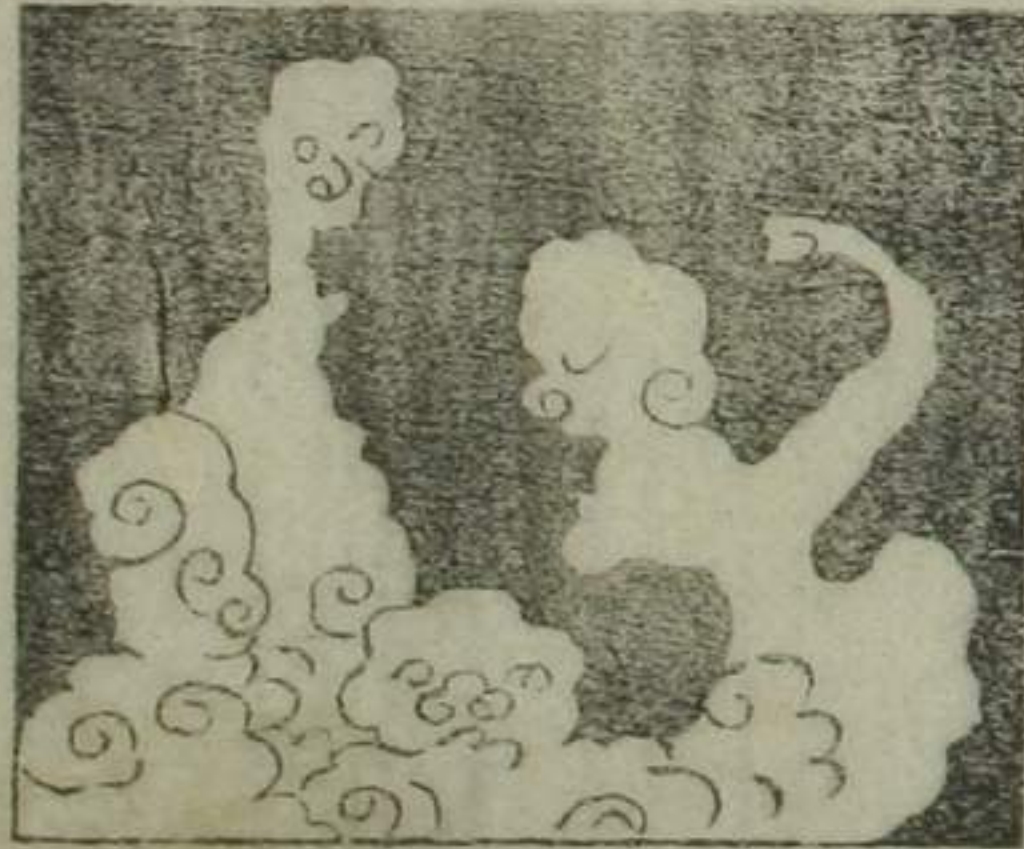
うせどくは... 宸殿のくへ... 影... 一...  
 鶴雲云頼政も賜...  
 ...

みな星を何う



此地...  
 ...

...  
 ...



...

...

新 家

新川

...



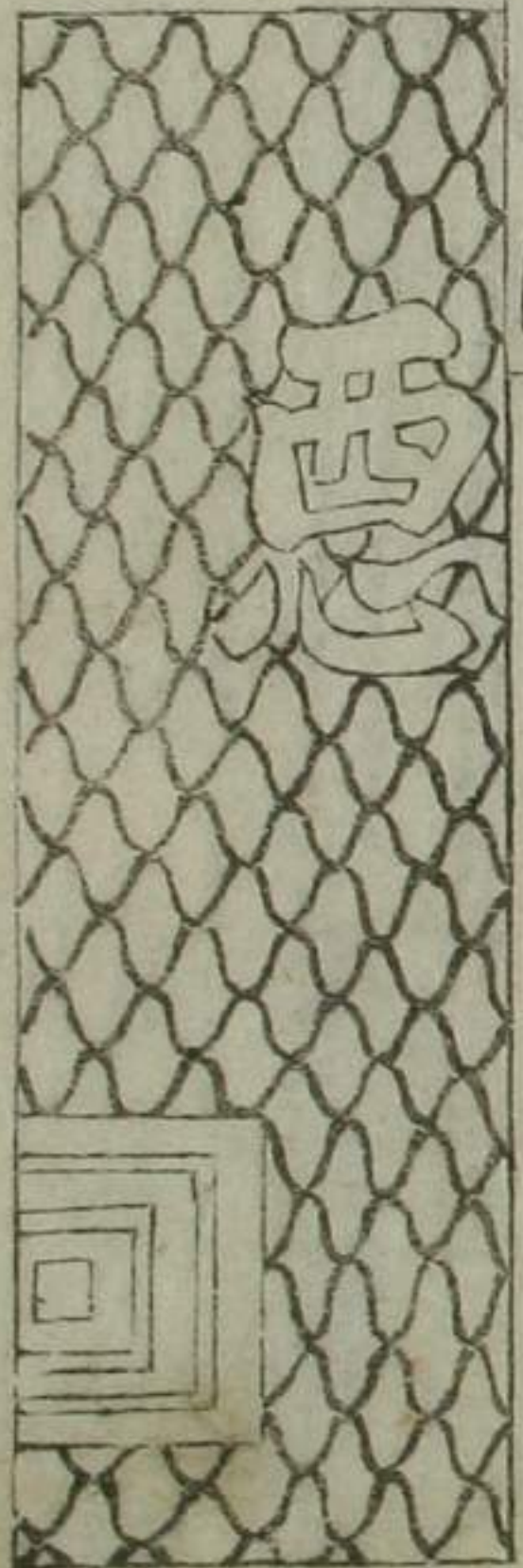
うはさきとめ

とち余

人物部

谷風 海り

おろしハ伊達深とつ羽州  
しるし深出を地合おつこ



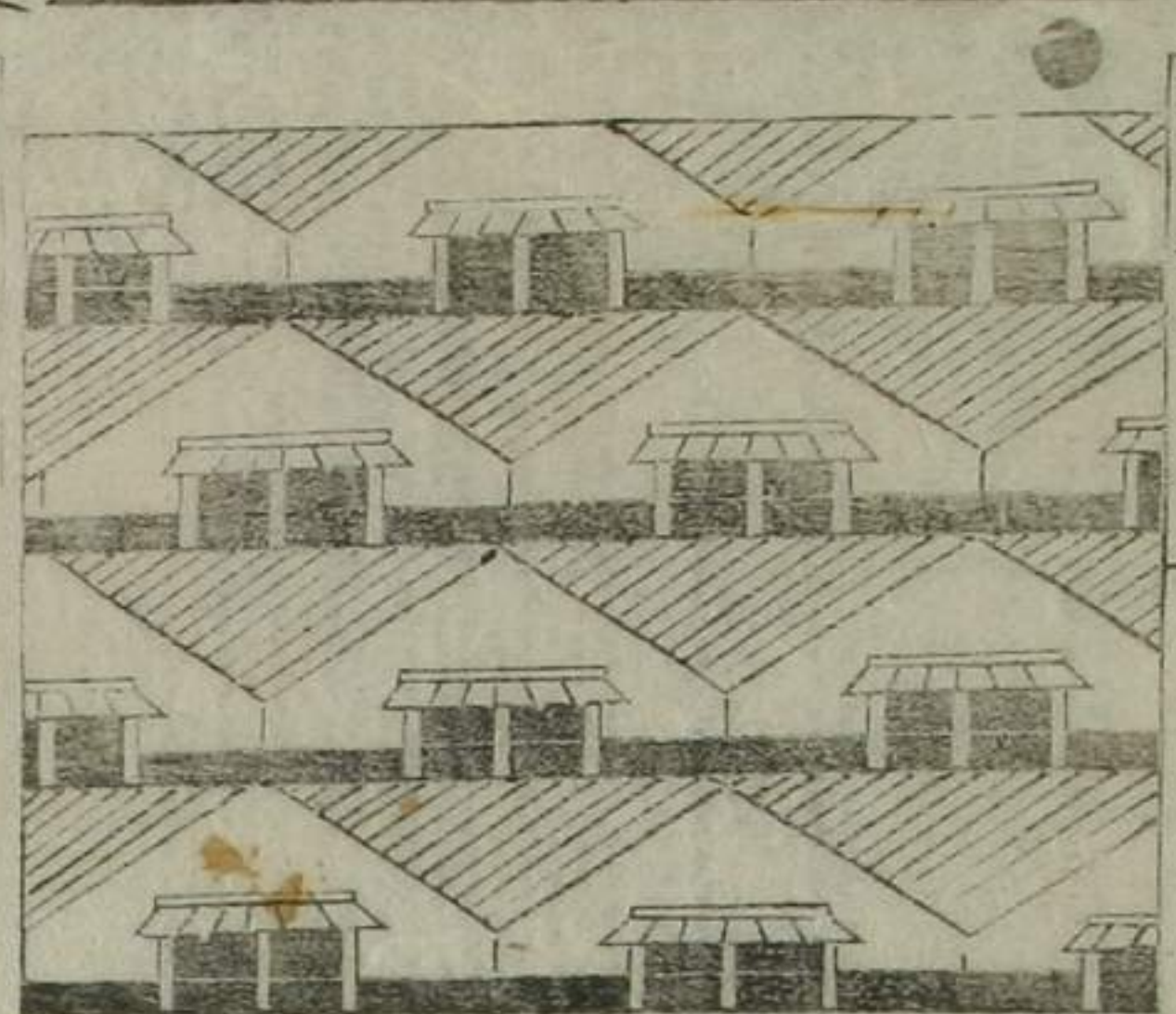
之糸 袴

かけおしよがなまのまてし



よりとも

富士の牧まねし



お母ぐり

七のるおつちき



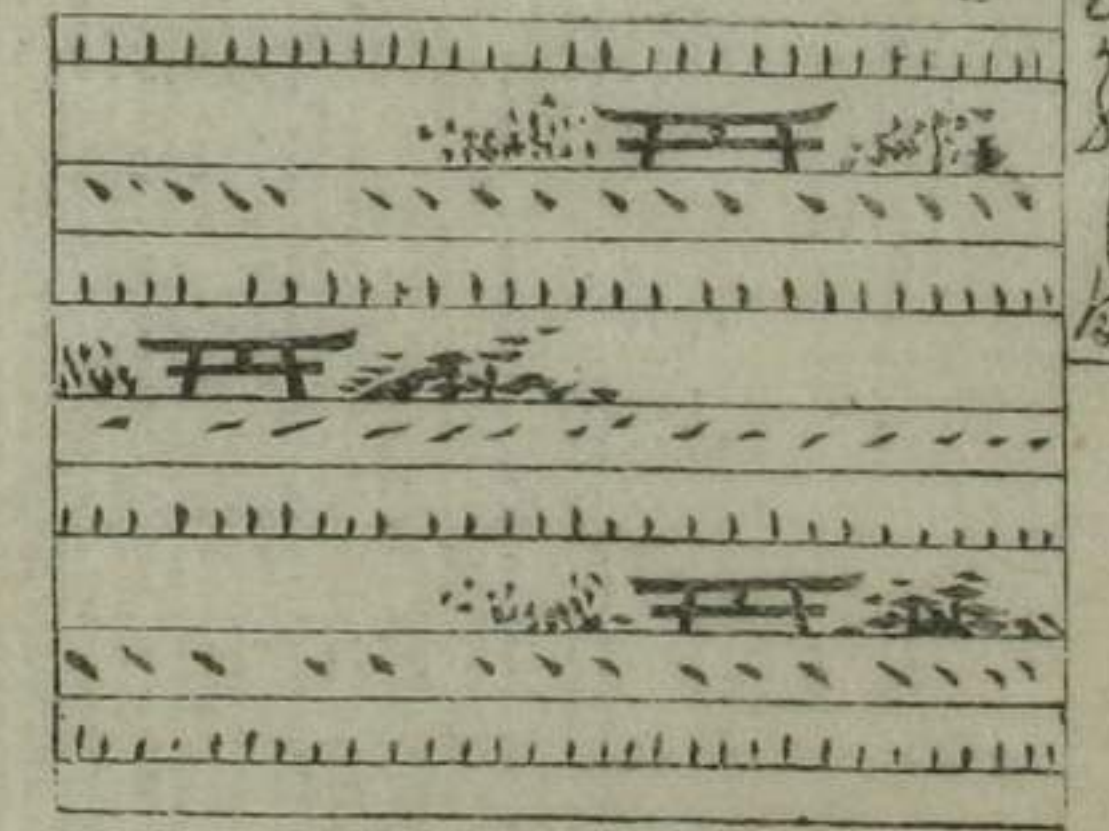
丸のけ  
丸の  
丸の  
丸の  
あり

一名  
五百疋  
又半疋  
といふ  
ち海之

之糸 ち



おめぢり川の敷あり



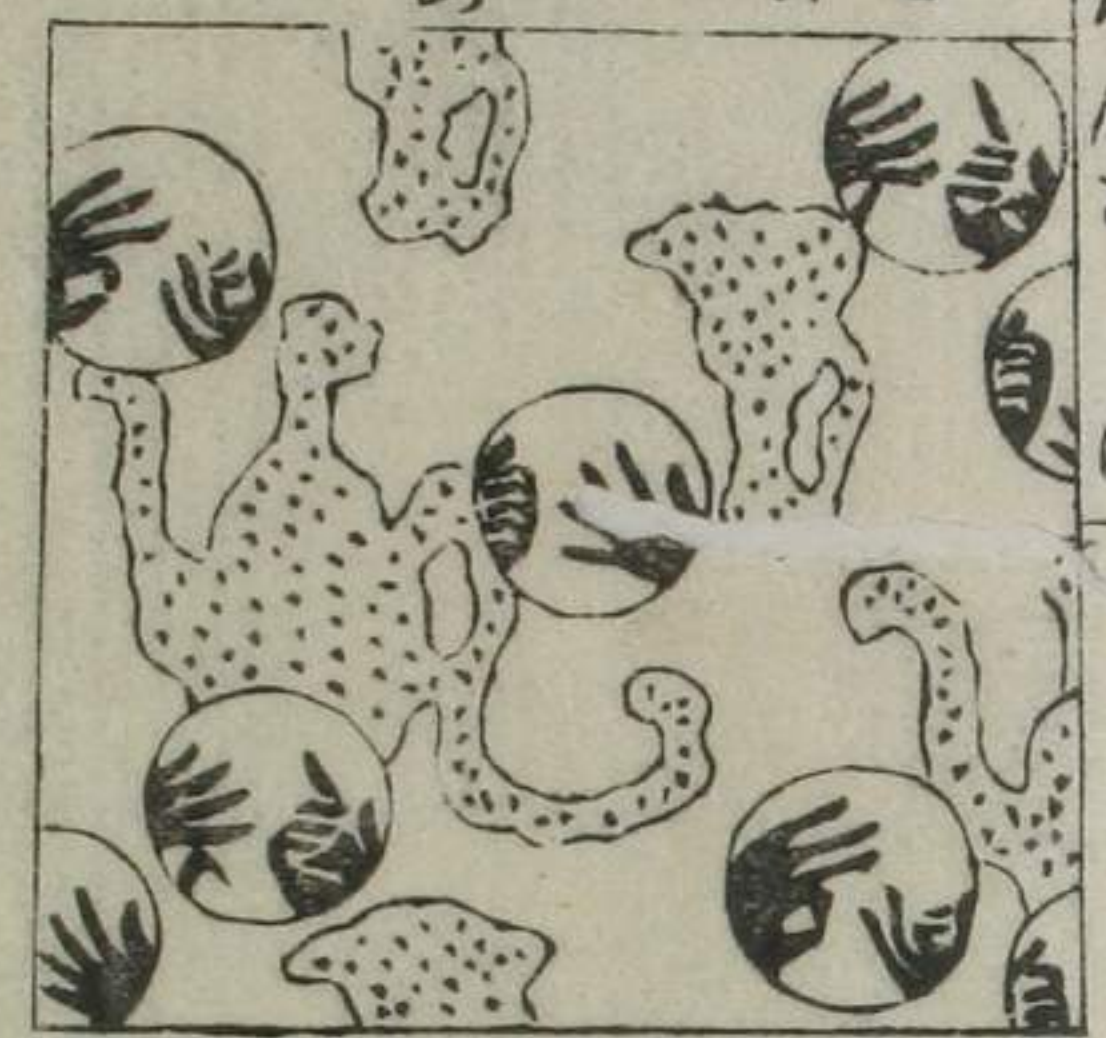
おめぢり

ちり 案 葉 命 休 梅 出

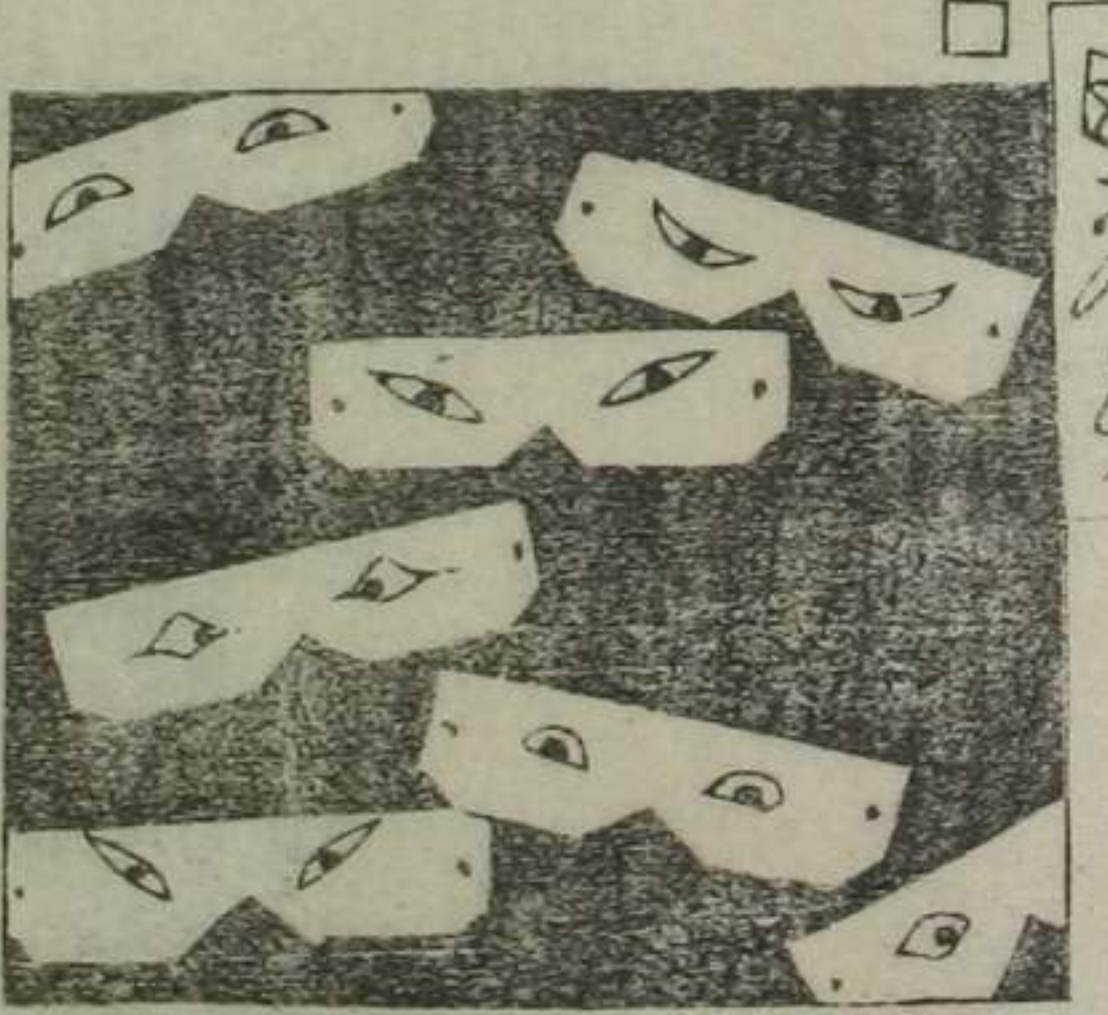


田んぼのうさぎ

地をめぐり色は赤く

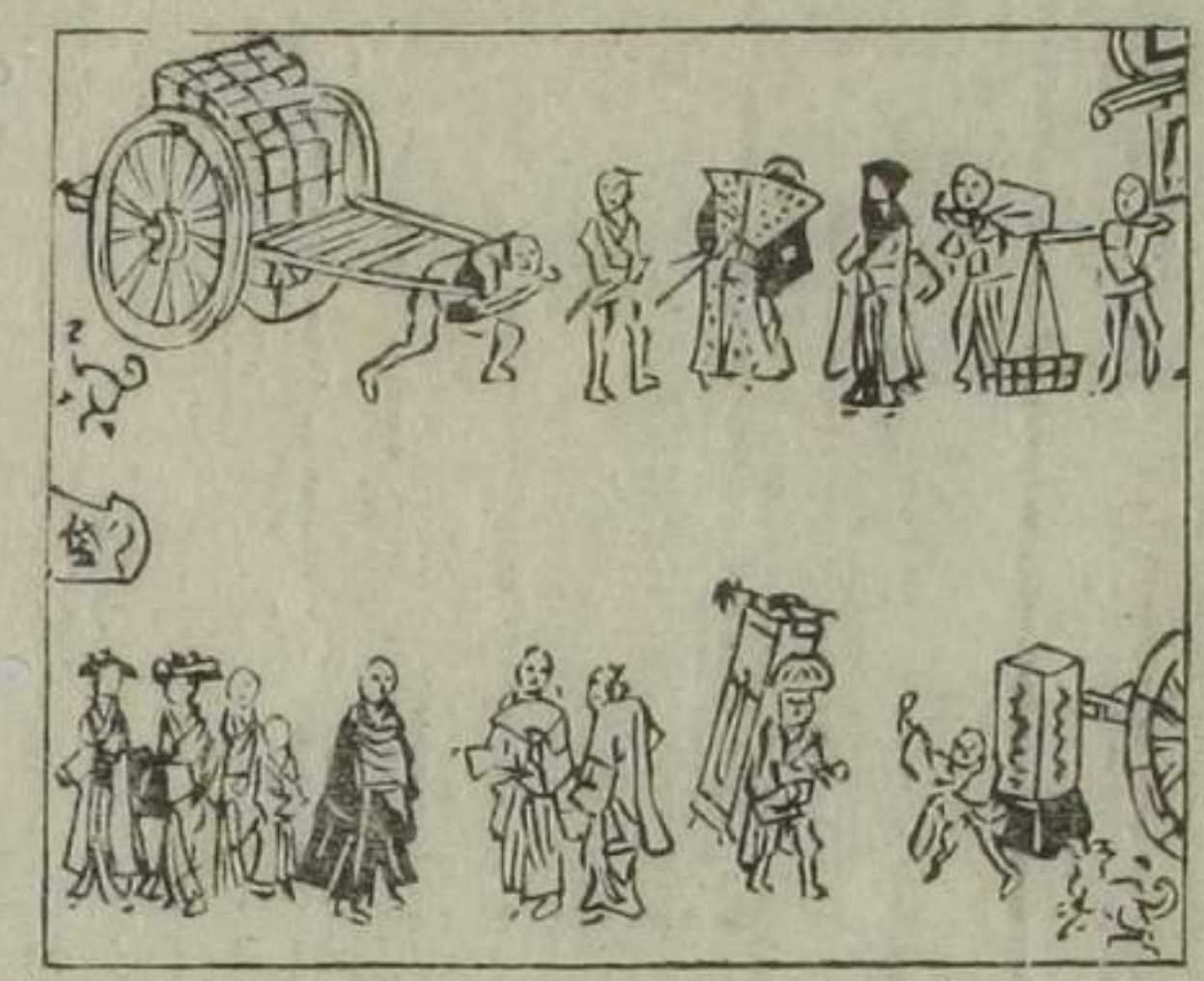


田んぼのうさぎ



目こぼし

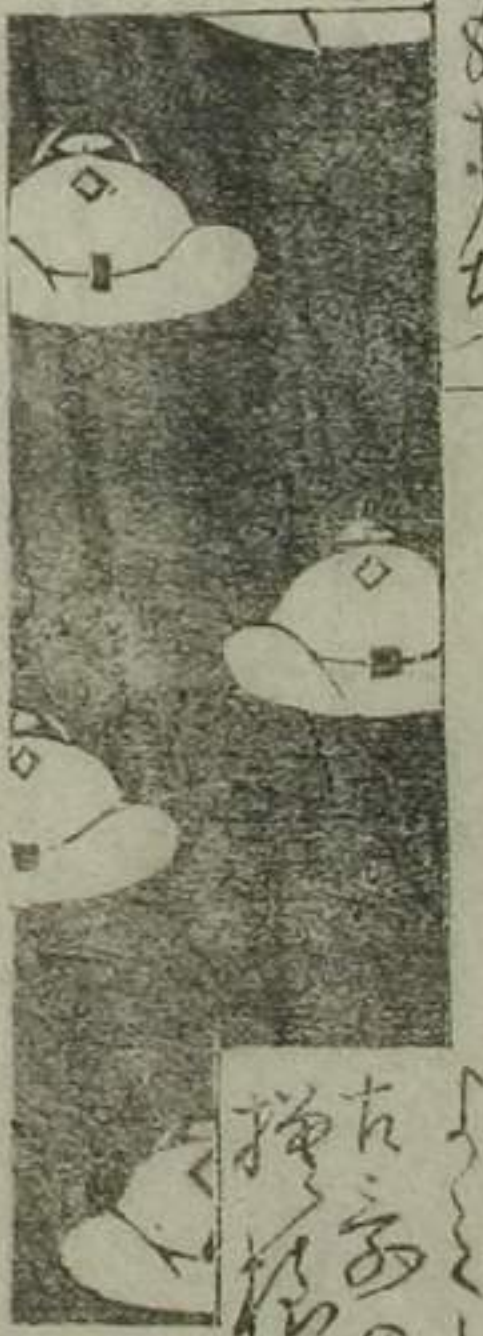
一名七面八目



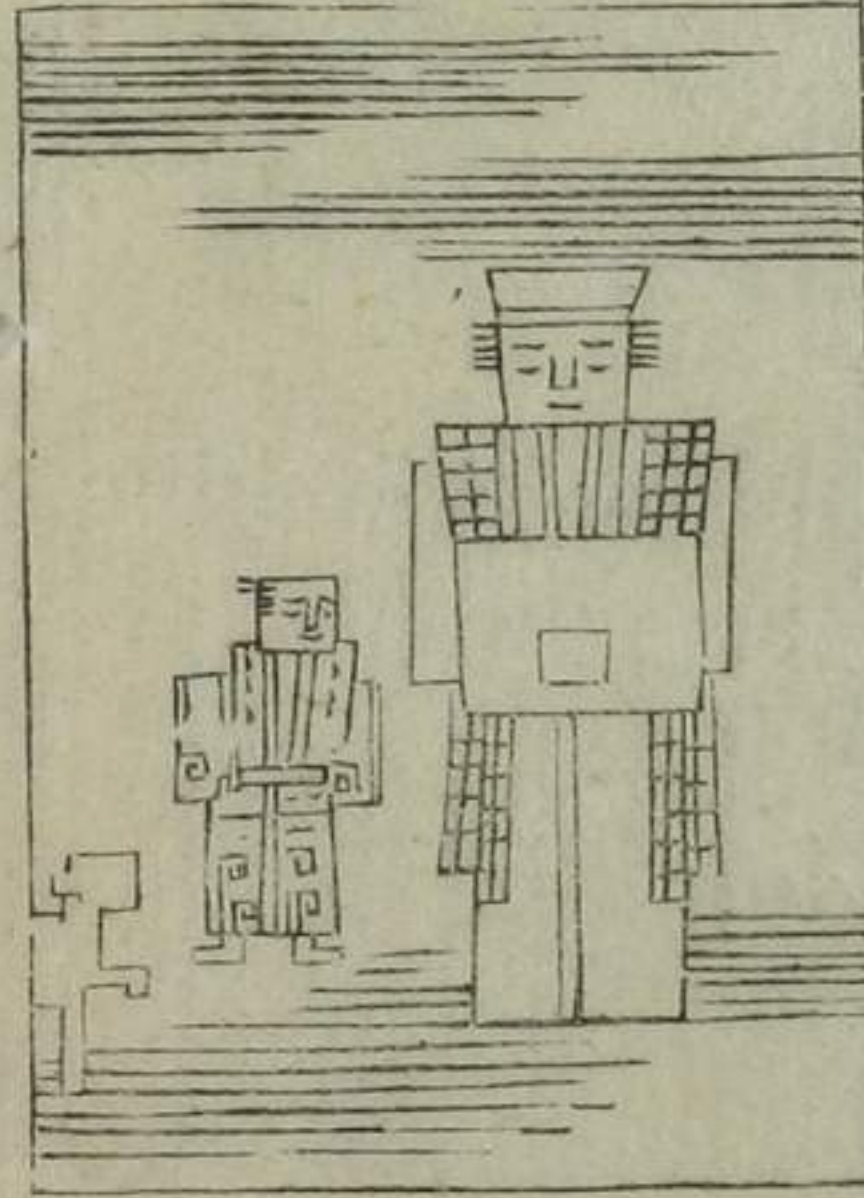
田所小豆

一名大を小紋

とらふ  
之は 猿人といはる日本橋  
とらふといはるにまんくの  
地をめぐり



言はれぬあまのぬのへときげを  
くられぬさききのきとてき  
らりやうち



おやぬまひし

一名 傀儡師  
まじくまじく  
まじりまじり





食物部

京都 出 上品



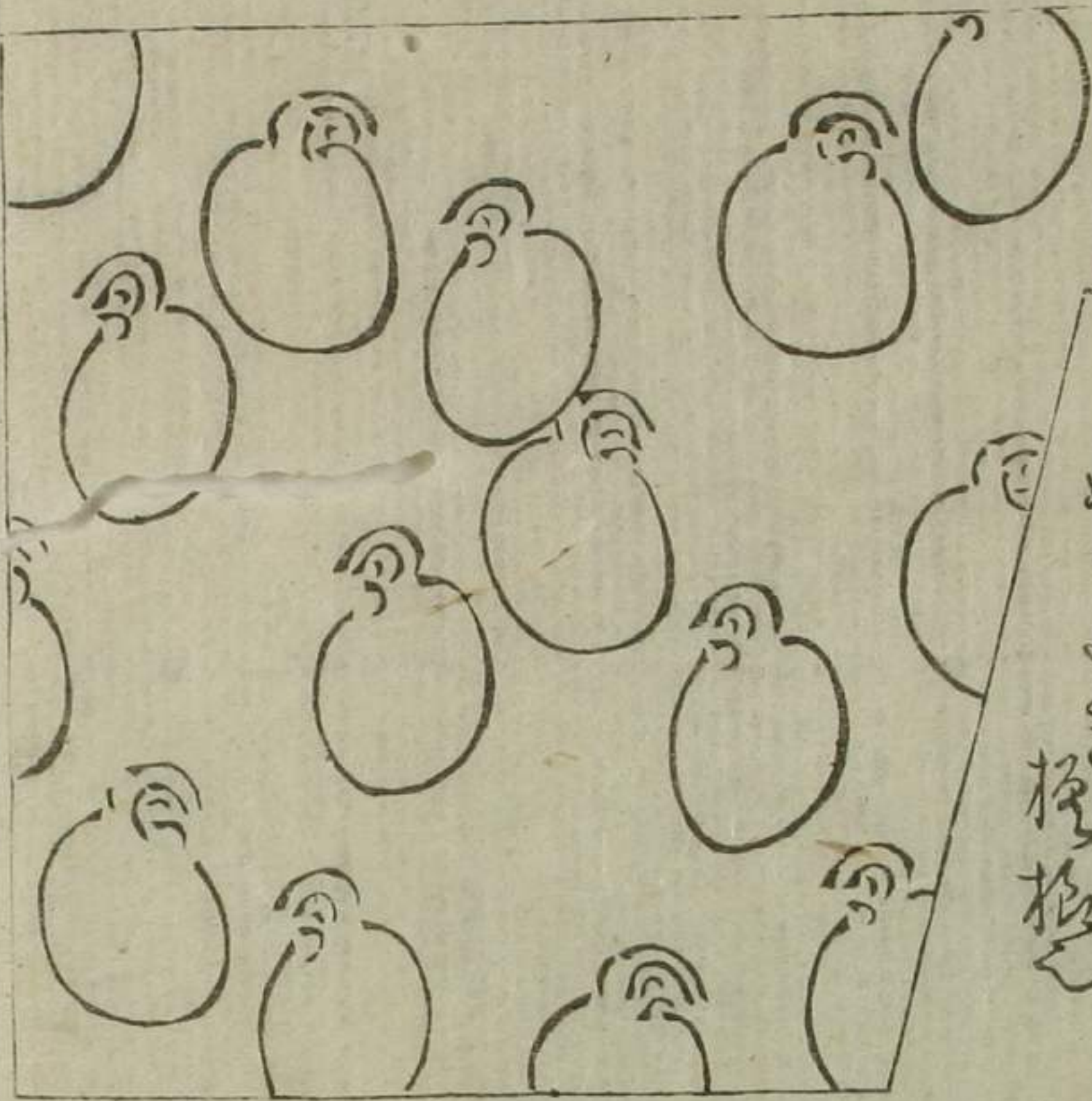
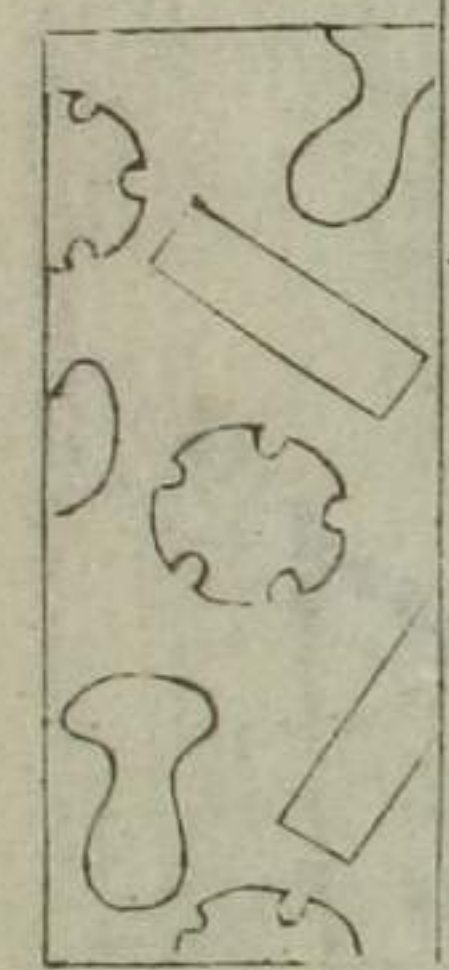
千...

柚...  
長...

柚...

抄...

地...



ふく...

七福神...

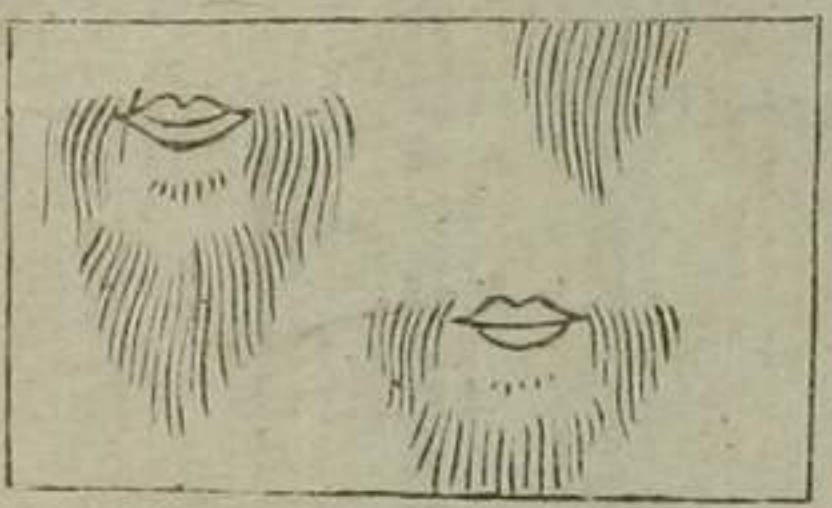
め...

お...



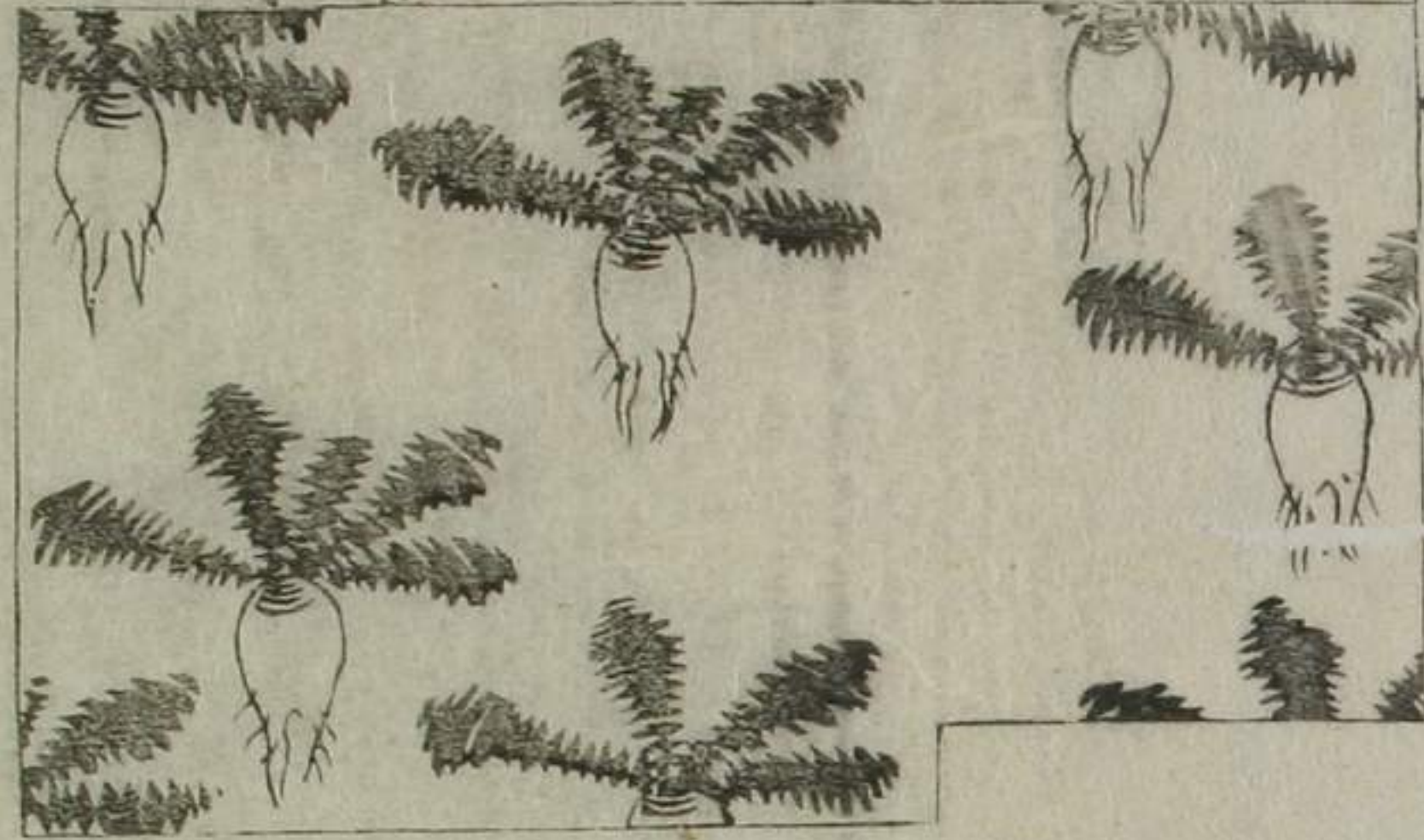
あ...

あ...



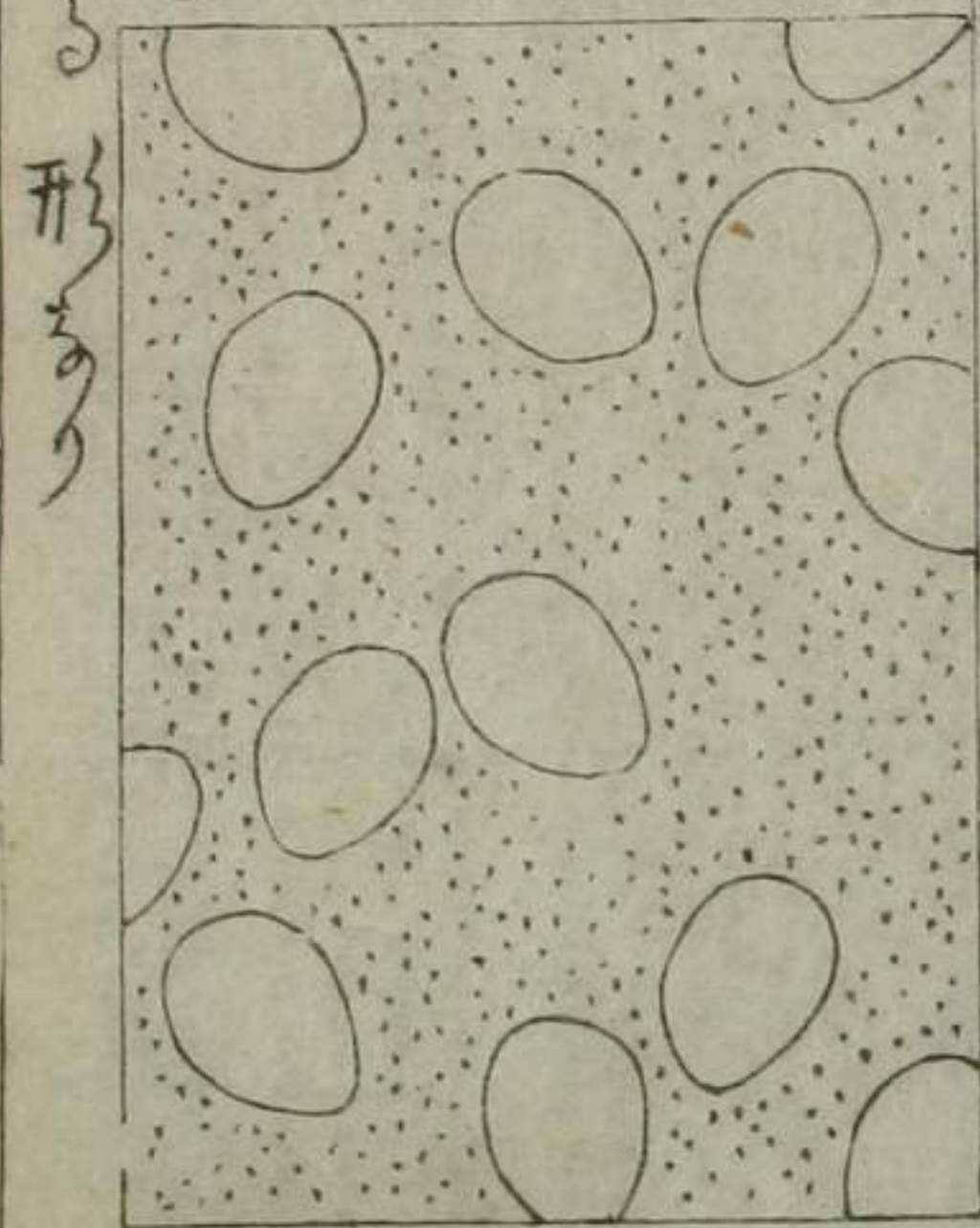
ヨ...

天王 寺聖 愚太 子御 戸帳 也裁



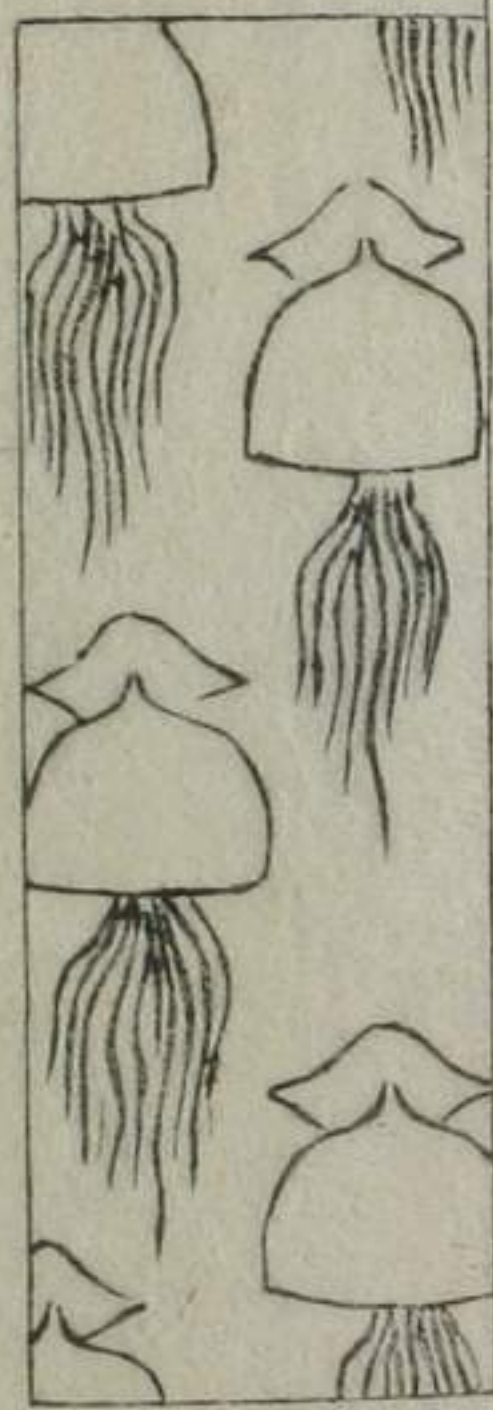
くぼく

子とをみ



形あり

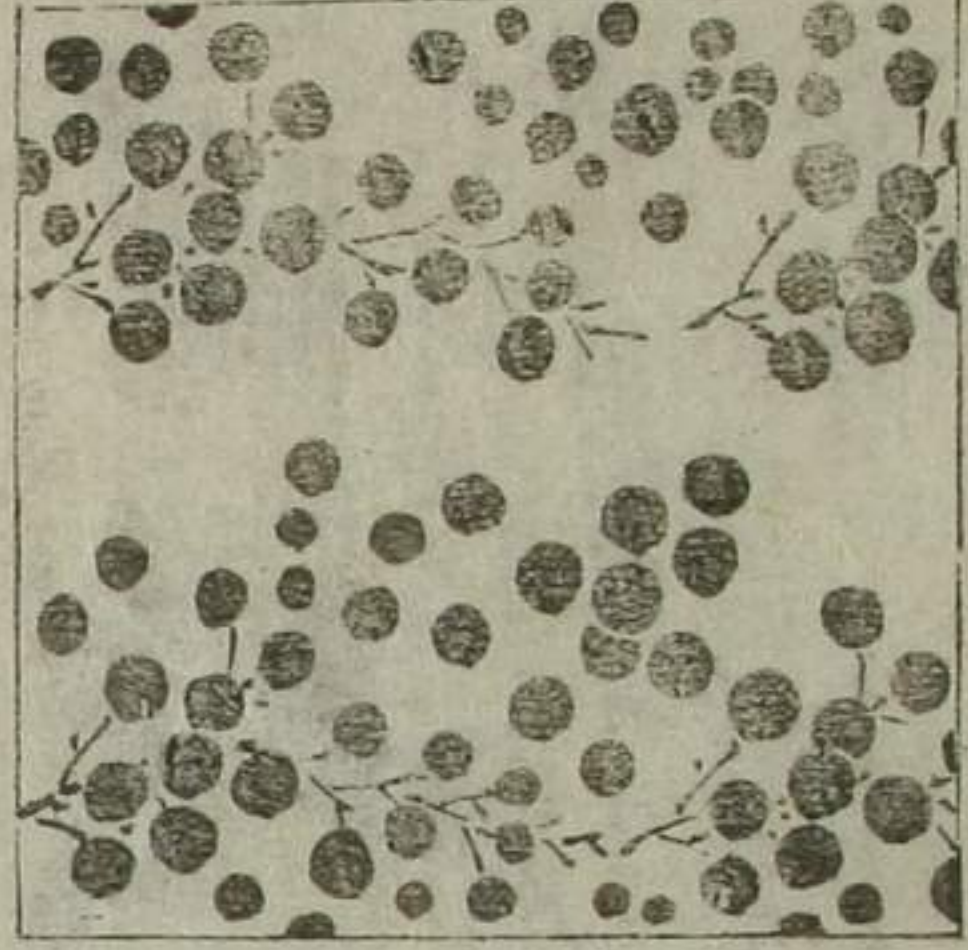
子とをみ



すのり

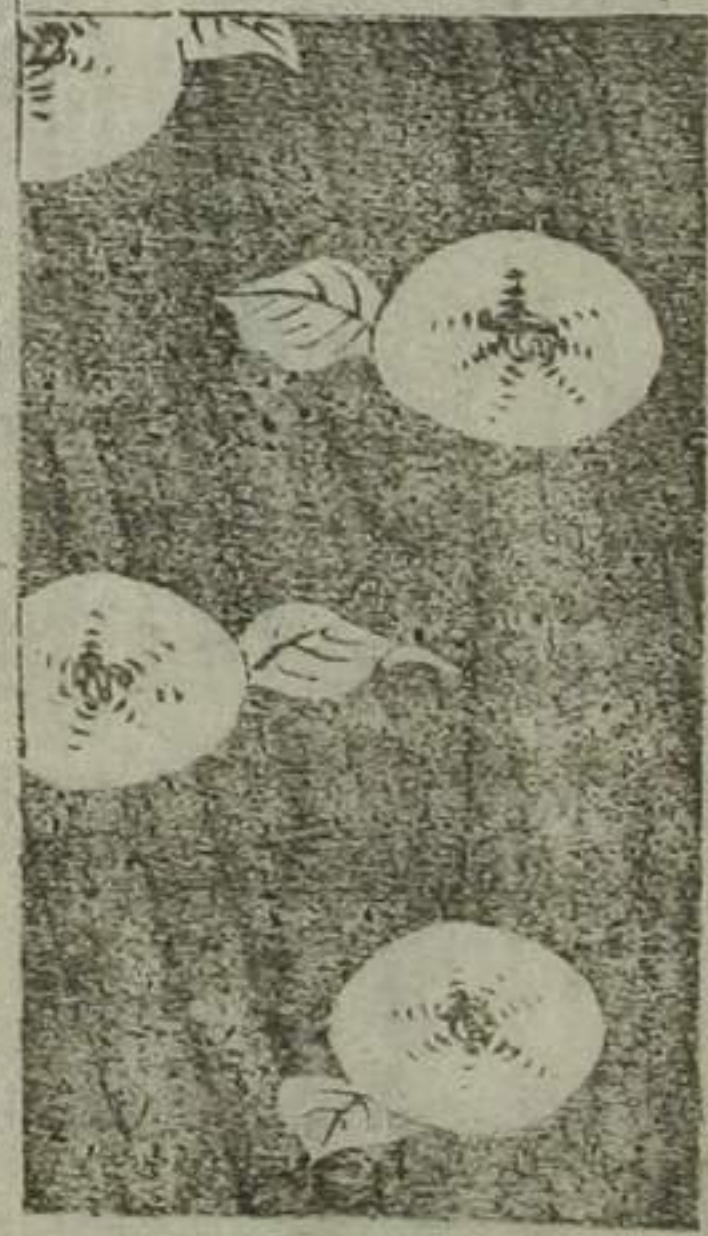
地山外

一名 蒲菊 染紫 地紫 深し



ふど

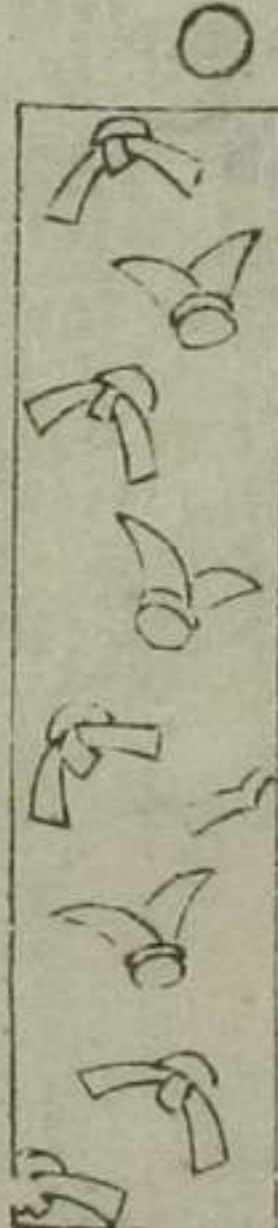
地紫 深し



かき



くん



地紫

此のほらあし

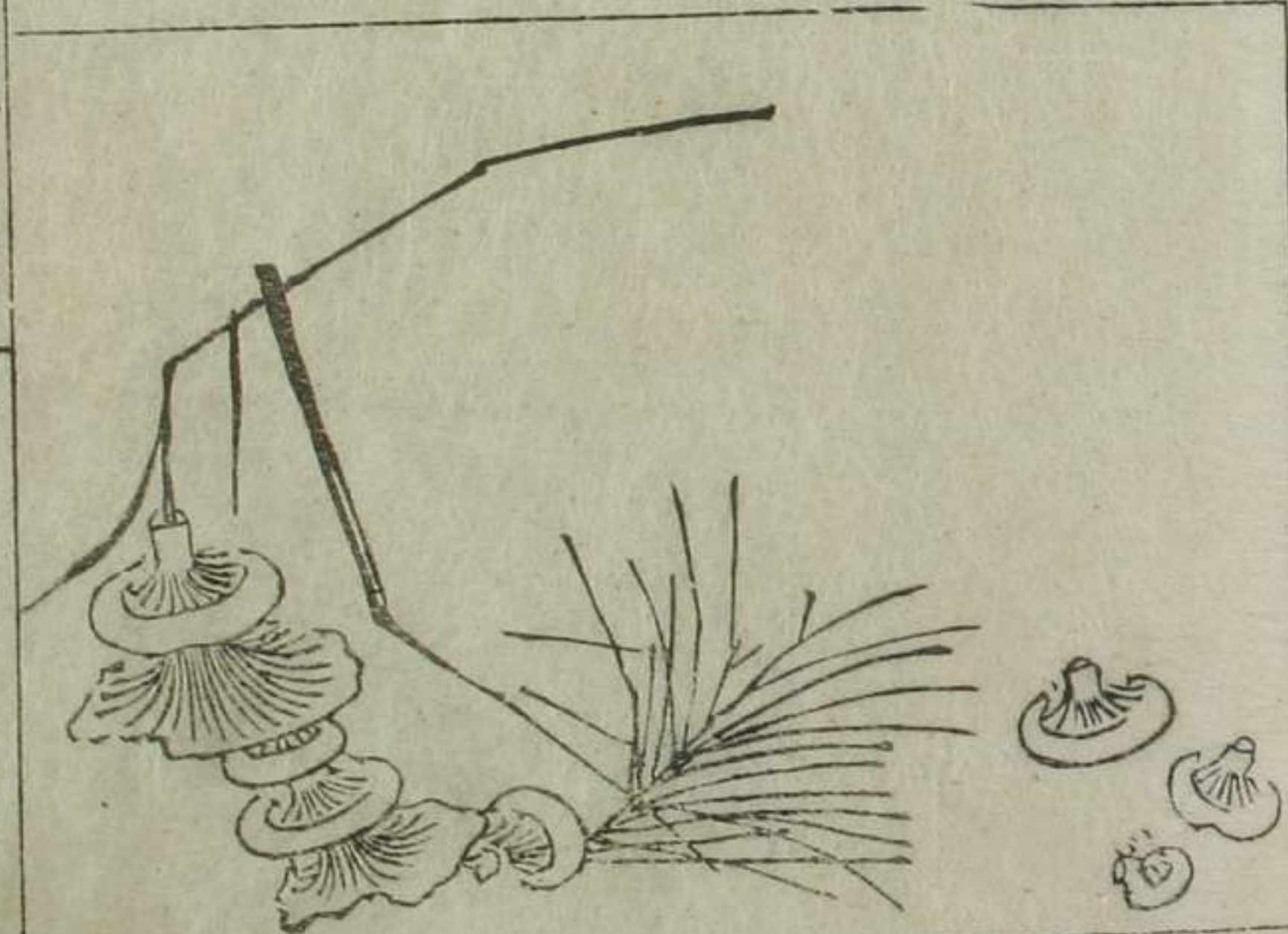


よく  
ゆる  
ゆる  
ゆる

鉢葉のちり



草器



盛久の草のまのり

さ  
ん  
さ  
ん  
の  
り  
い  
る

紋  
よ  
ま  
の  
こ  
の  
こ  
え



ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま

御  
知  
弟  
の  
小  
さ  
ん  
あ  
り  
と  
う  
や

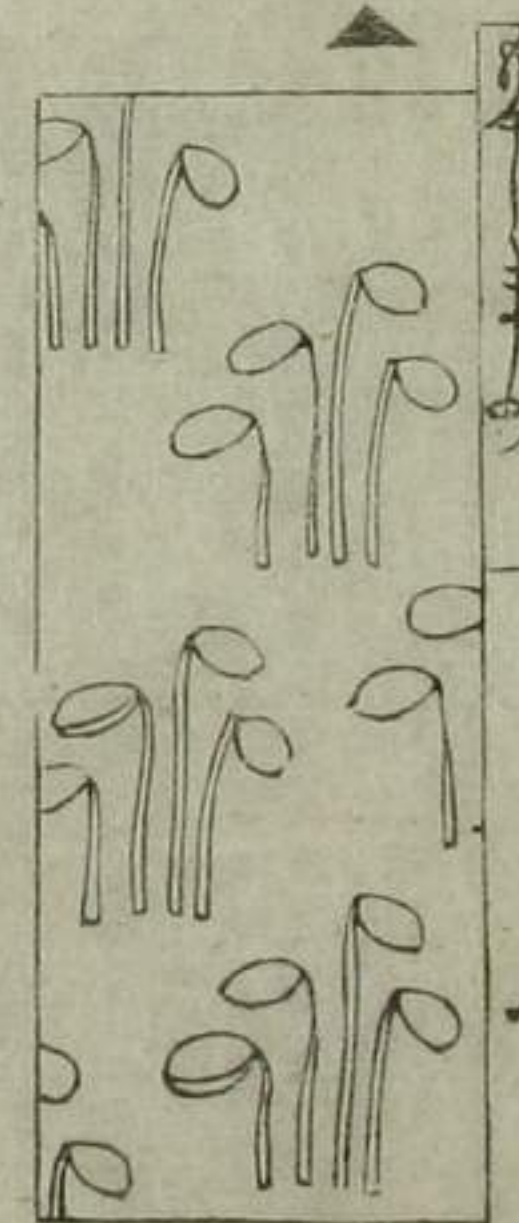
△



こ  
ま  
の  
子  
あ  
い  
と

あ  
ま  
い

一  
名  
淡  
雪  
又  
青  
海  
云



七  
八  
百  
の  
七  
う  
り  
神  
の  
ま  
い  
り

小原町之揃漆出



魚のりき

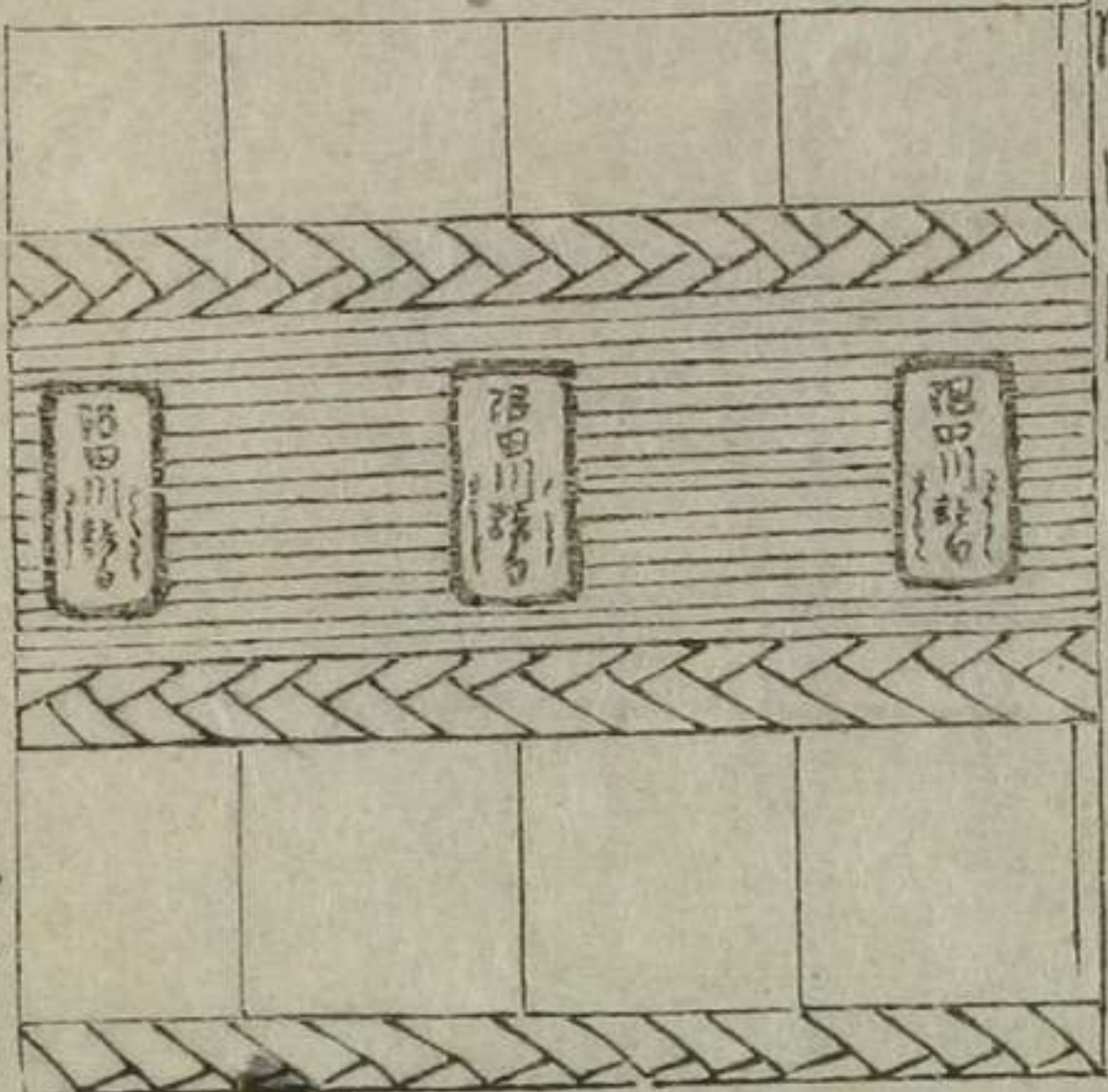
魚のりきを  
たのめろ  
きこへ  
地はいろ  
す



す

氣形部

アリス川レギ類又



淵田川

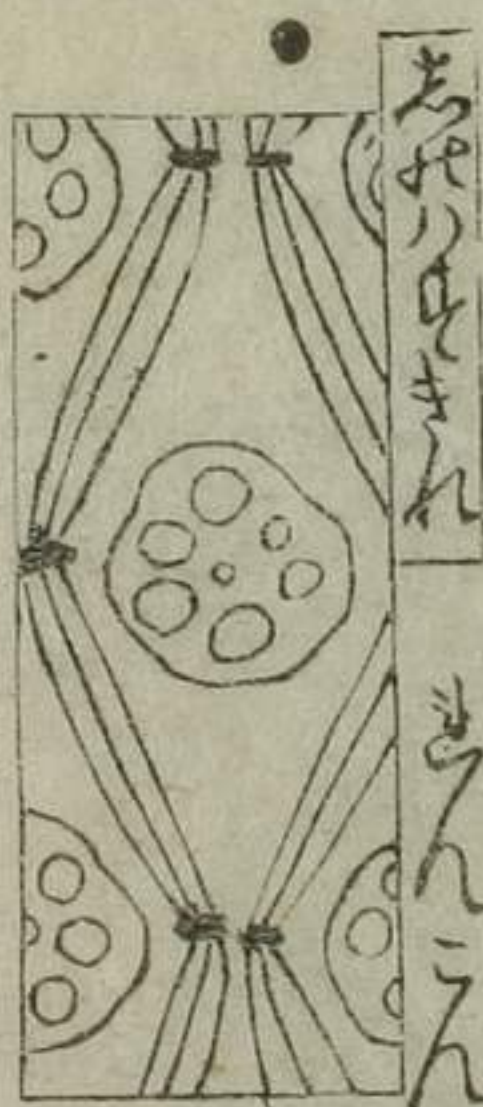
金羅カキマキレハ  
法をてあの子のす

万葉家  
りり  
い

あうのこいのぬこま

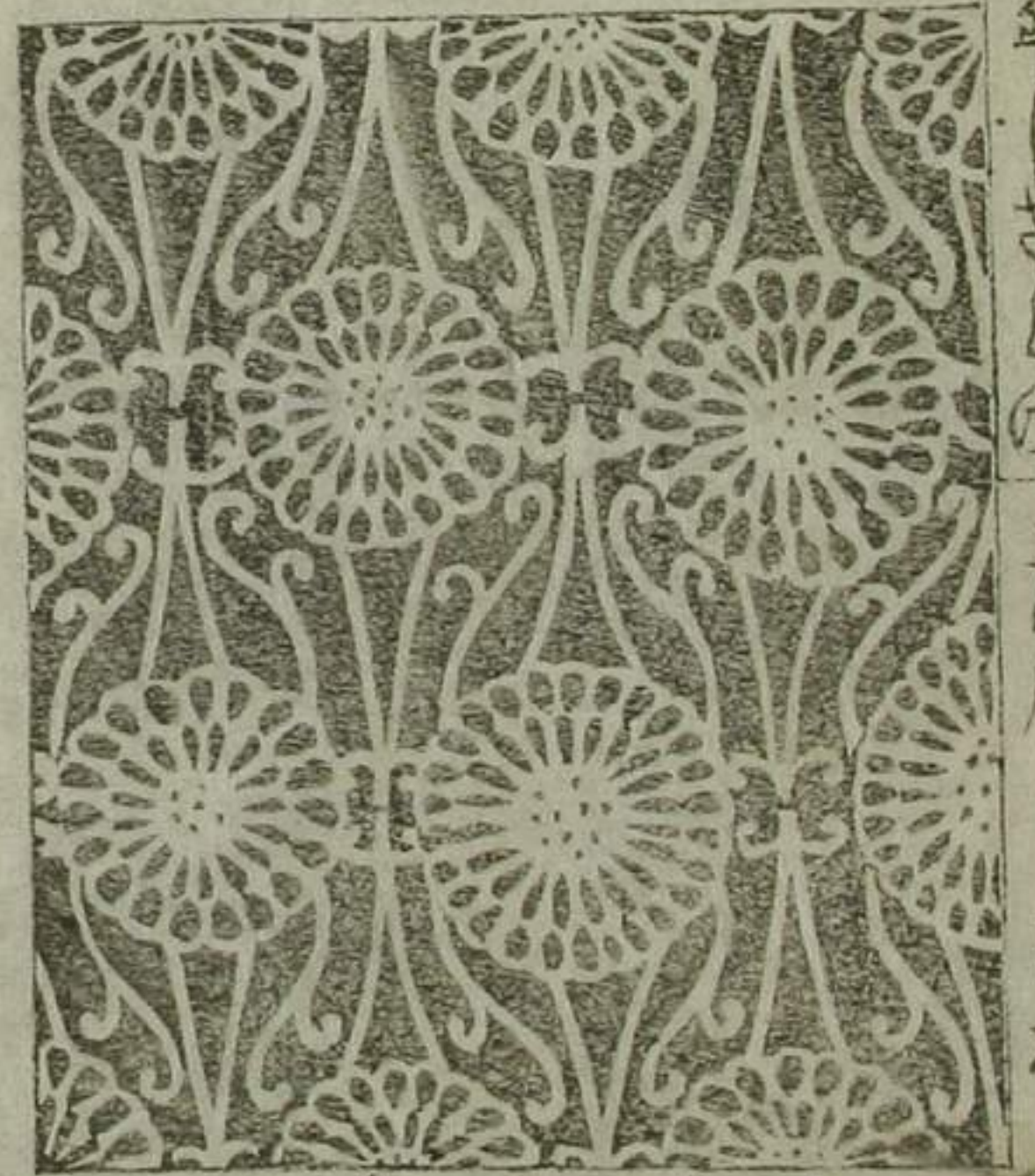


魚のりき



あいのりき

いん形



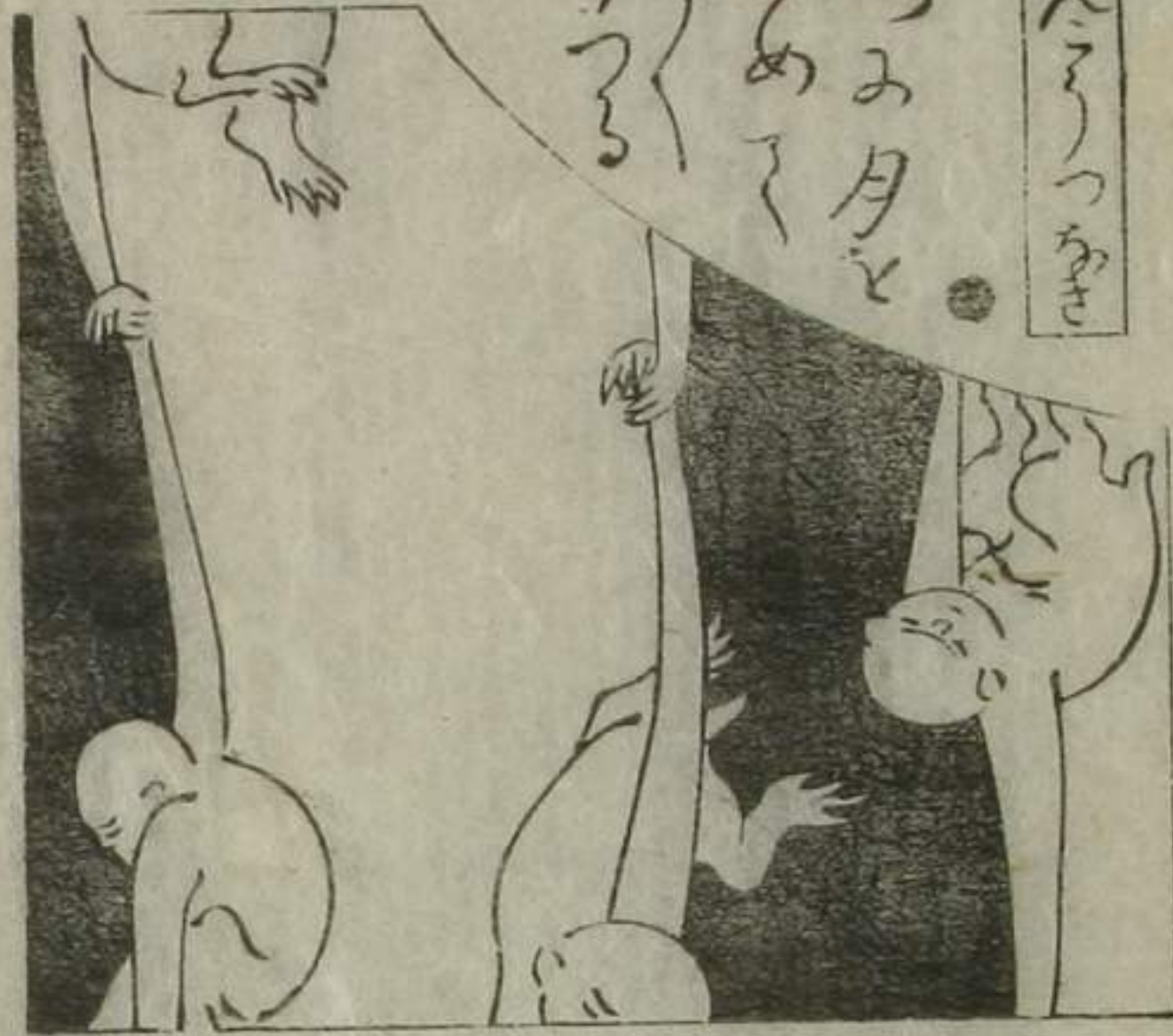
あいのりき

あいのりき

あいのりき

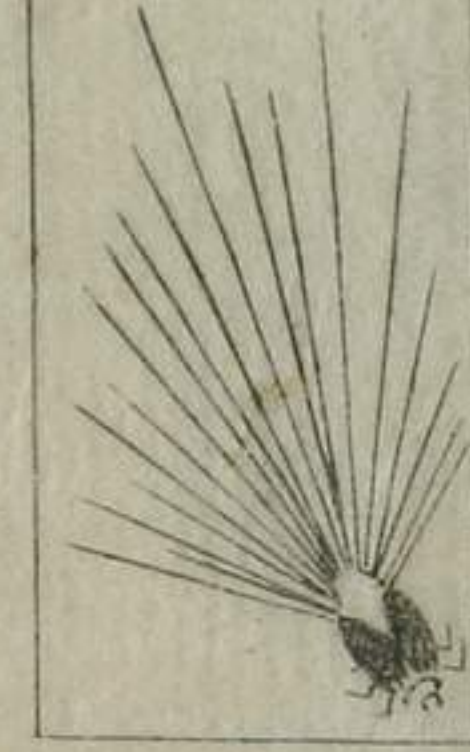
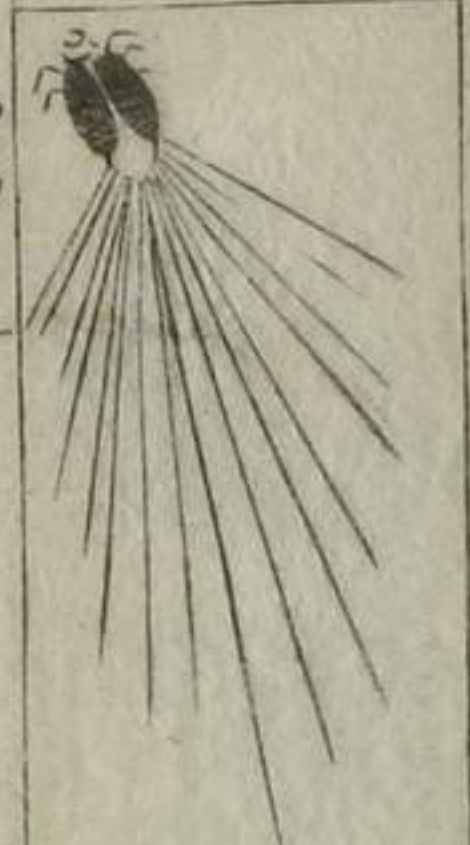
多入つつき

ふみ月と  
そめく  
うつく

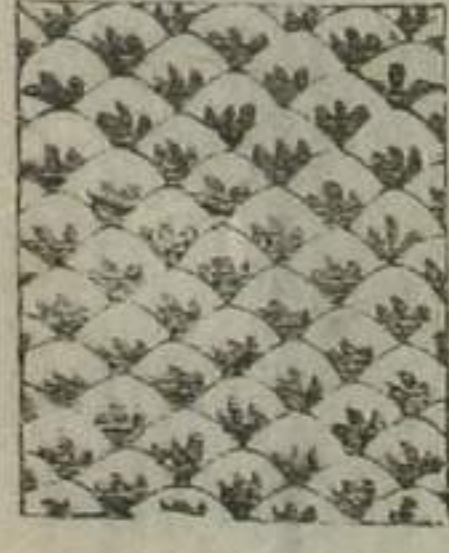


つが川  
さほ川  
より川  
いさ川

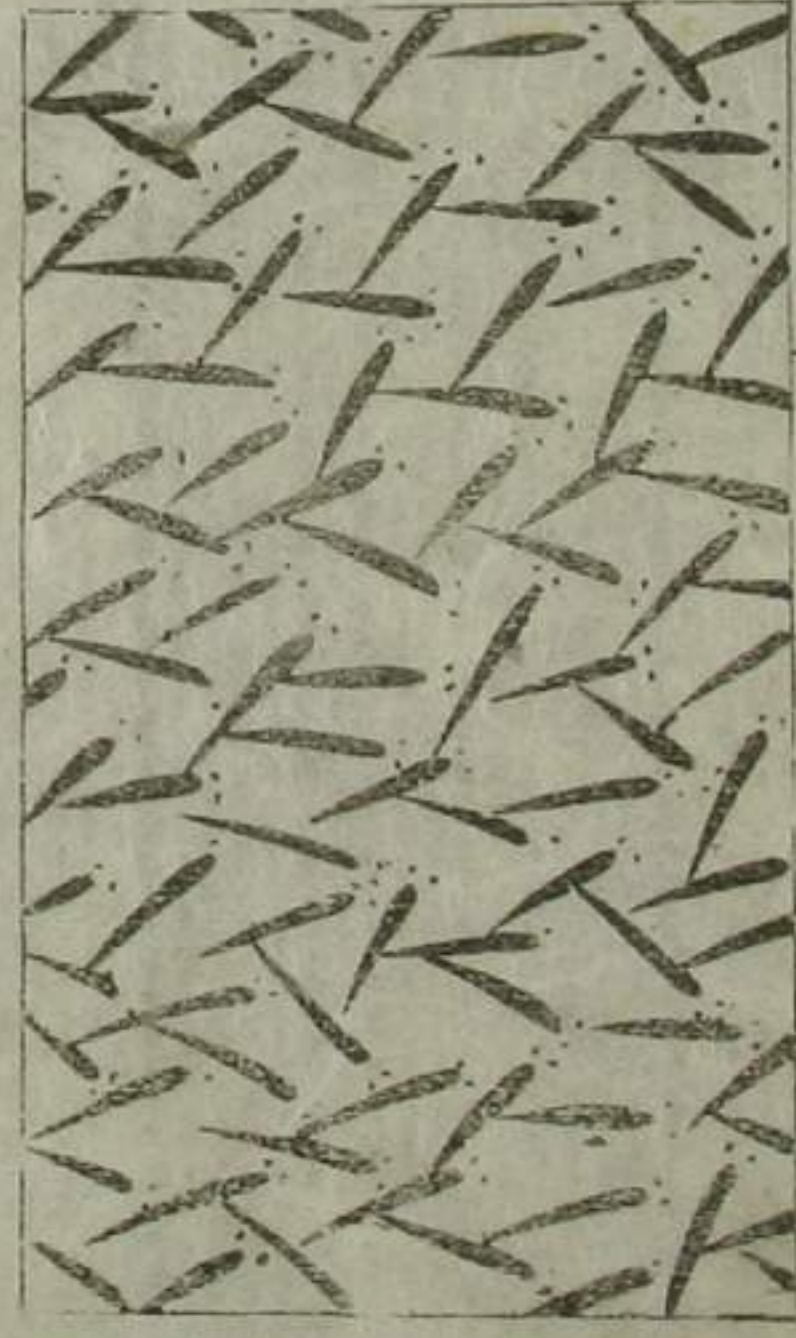
わつるてほり



鯉ころこ



鯉者諸魚之長。又能神變。



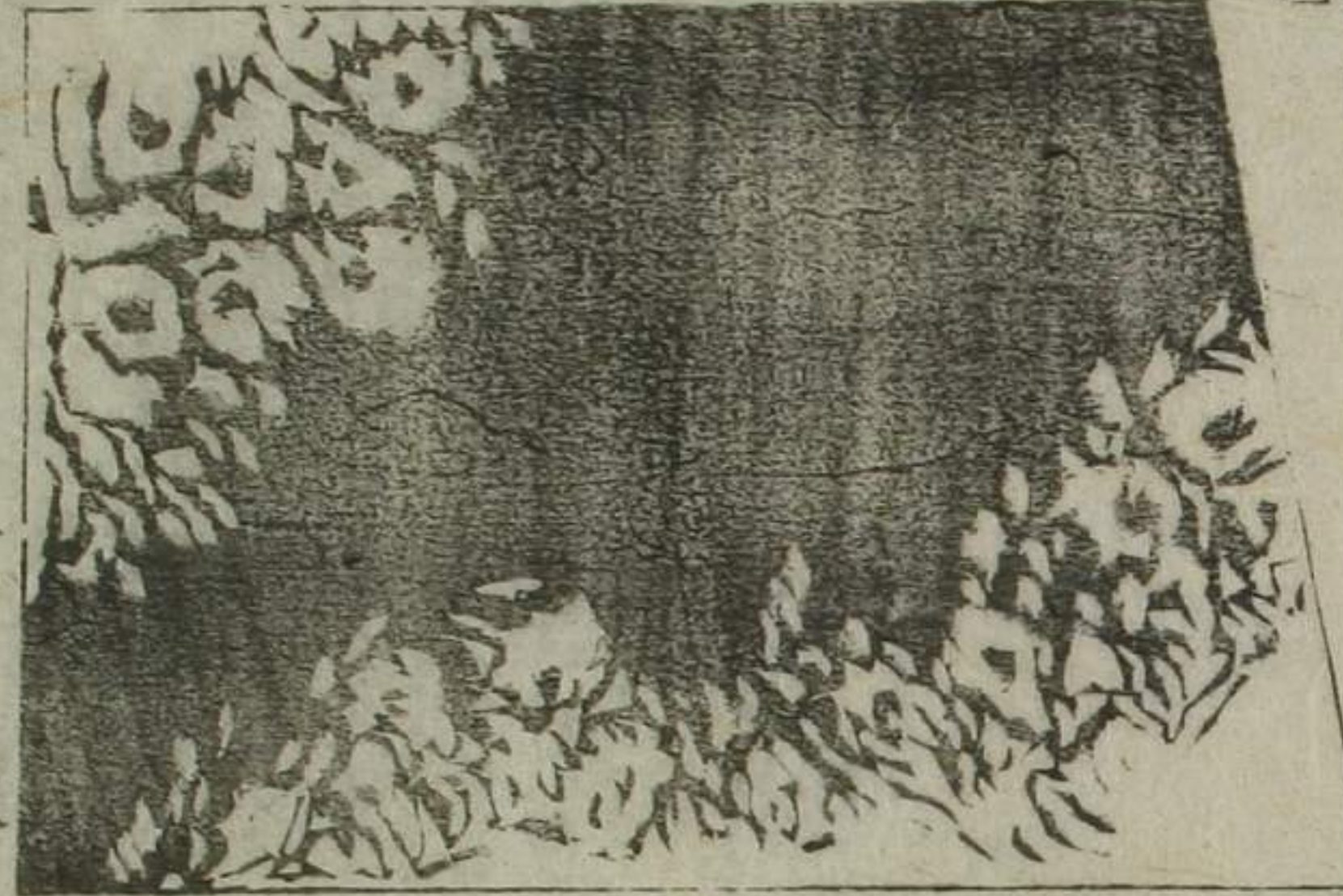
針やいり

松葉をさあいらい  
深くさし

九

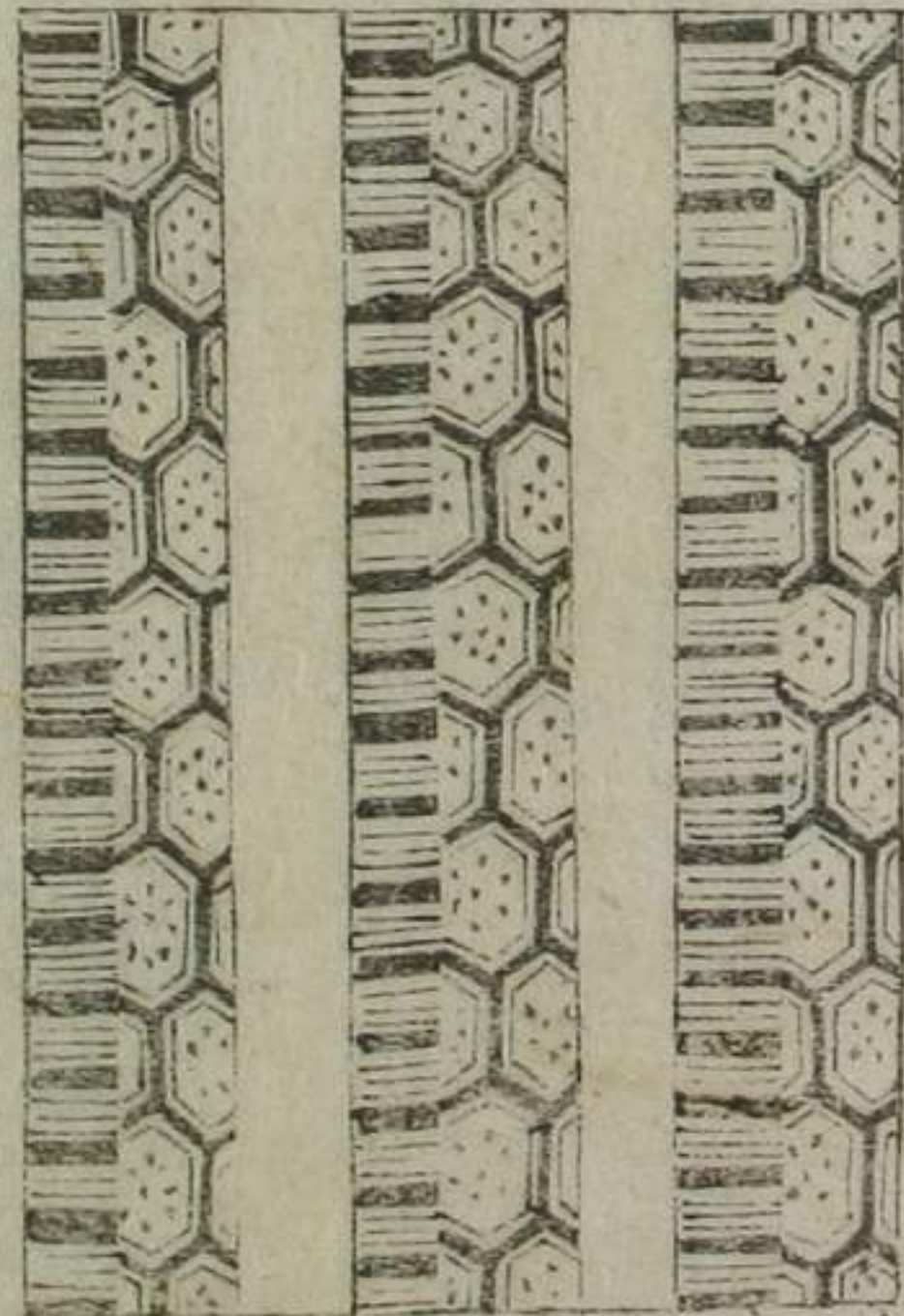
黒有文黠者名致魚

ふくのかり

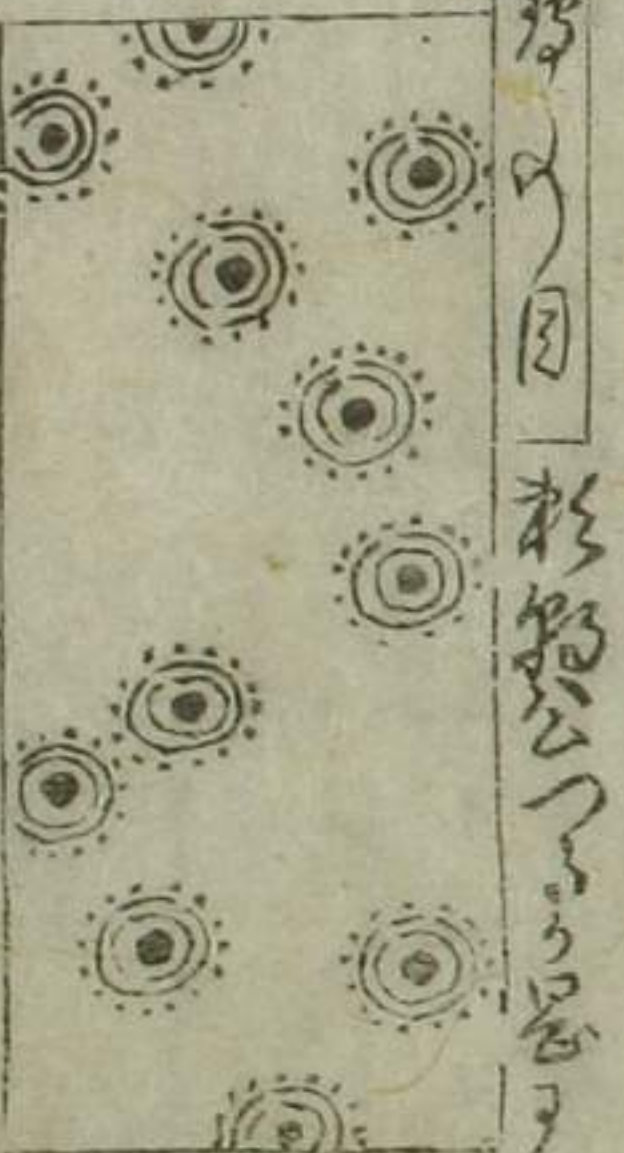


たすれをうらふふをたへよふのまねといふあり

みねへびあまのうはまねとてちんや



持め目 杉船をつうき



あんぢん町つうき

目をめふはむ

とてちんや 名り 乾 鯉 裁

あやういありの世はりちるうあこ  
 やういありの世はりちるうあこ



うとつと

あつちあつち  
 あつちあつち



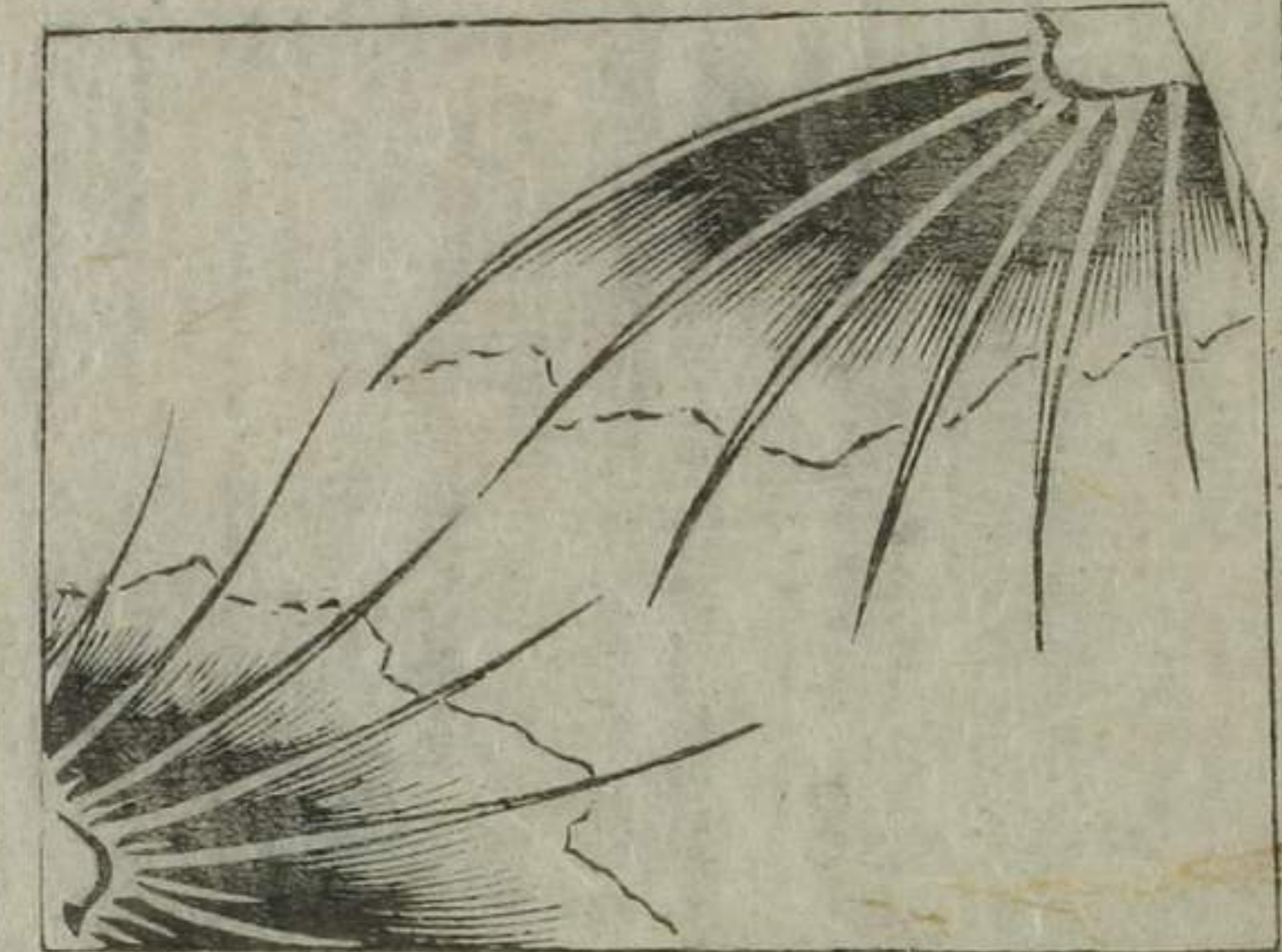
あつちあつち



鴨のとき

流れあへぬを第と  
 りあつちあつちあつち

あつちあつちあつち  
 あつちあつちあつち



魚のき

あつちあつち



やぶ蚊

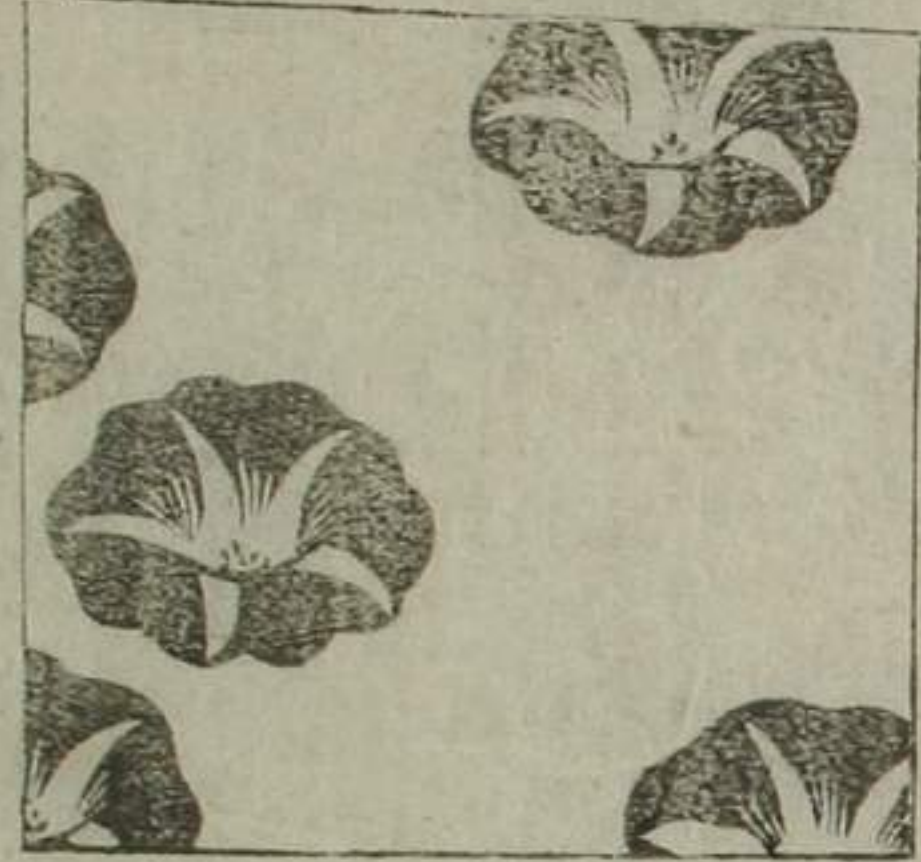
あつちあつちあつち



あつちあつち

地の何と形あつちあつち

地  
り  
えん

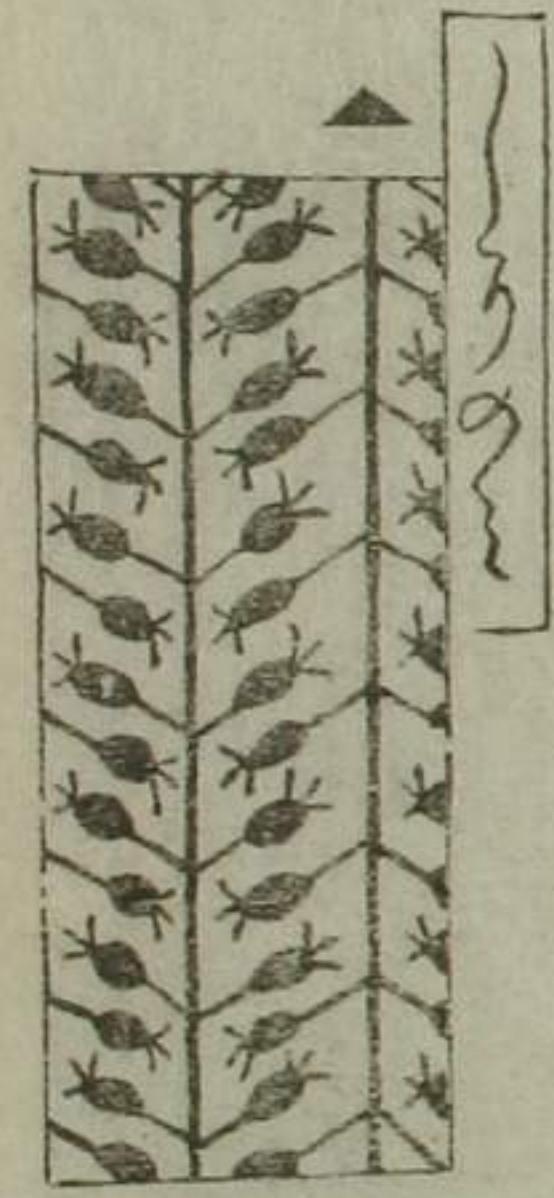


花染紋

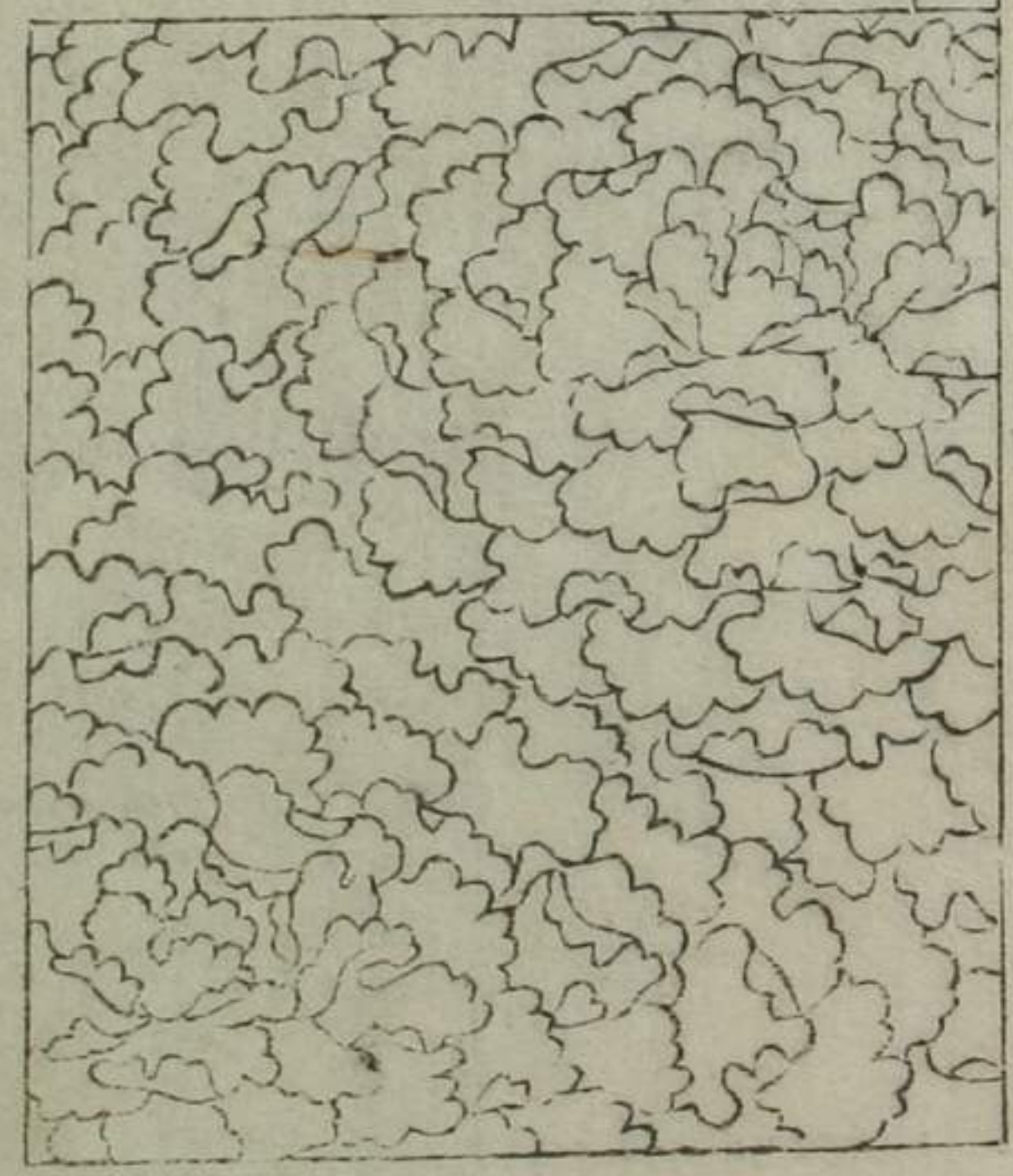
牡丹花の賞  
美  
賞美  
まきれ

草花木竹部

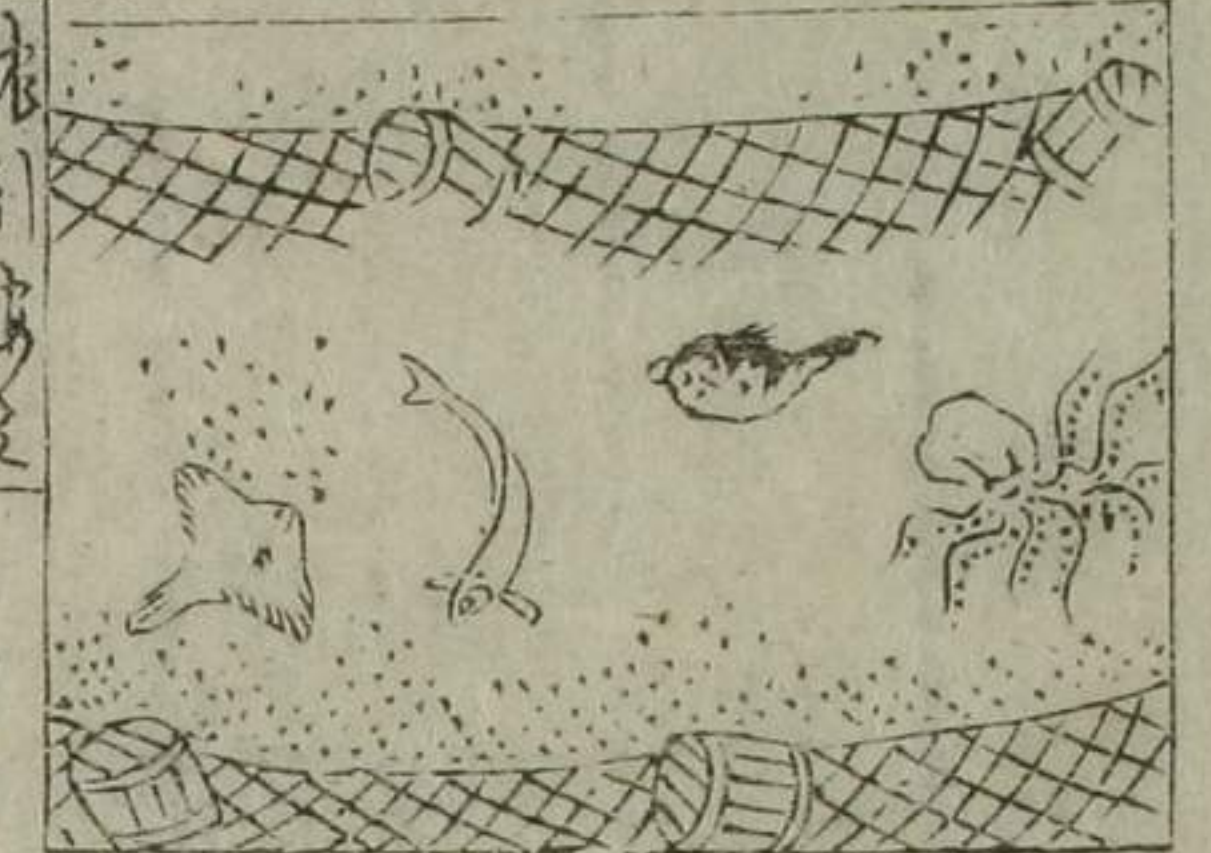
細いまきれ



地  
り  
えん

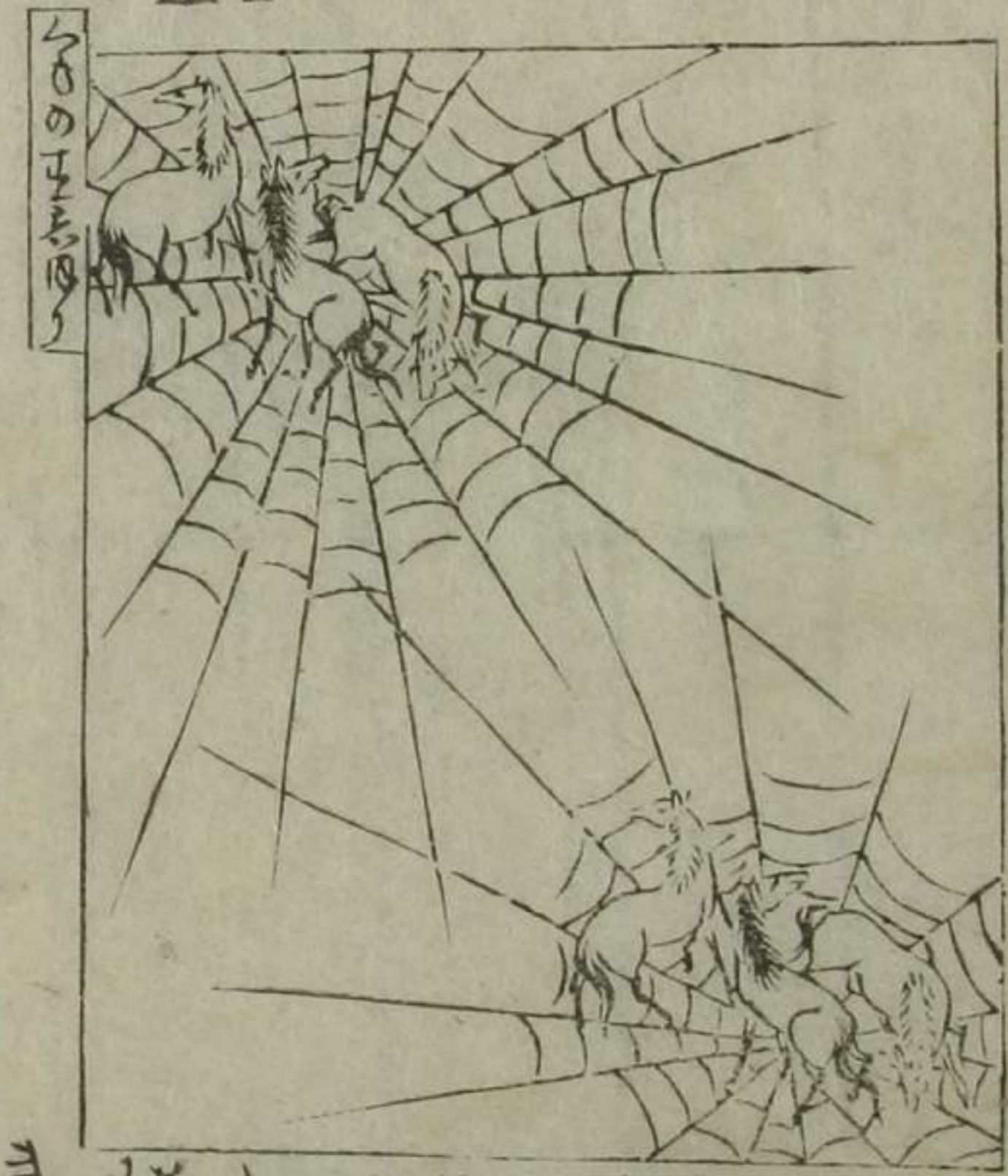


鮫子浦三深出入



鮫子浦

雀入廓  
中花扇  
寝地口ハ  
キツイカク

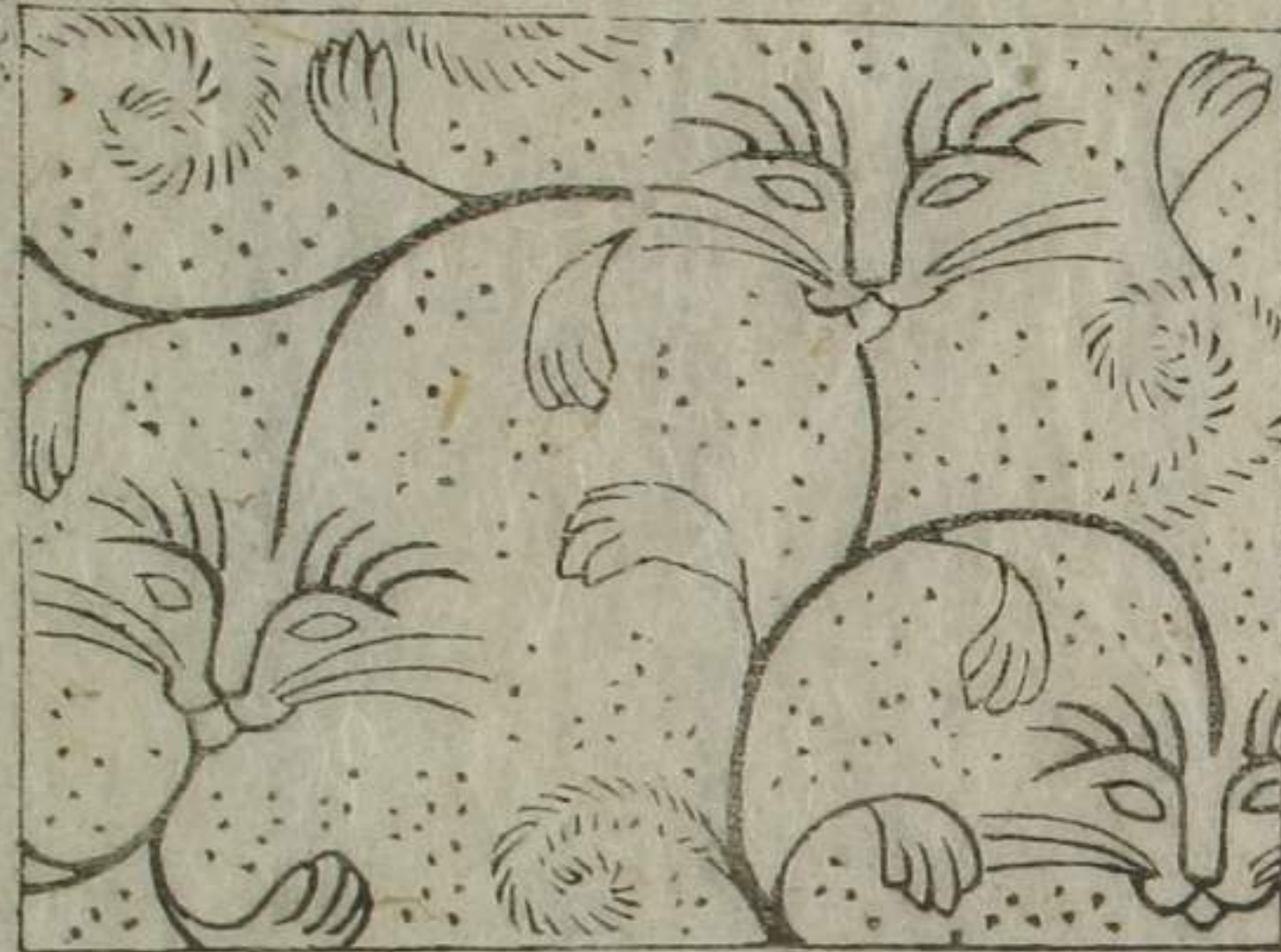


蜘蛛

江戶鮫子浦三深出入



級川 仕あつせやの三毛並とら女あ  
 急りきまて今ね土女川といふ



猫さ〜ん



鳥の糞子

ノキヤラチヤソ  
 地木伽羅茶深テカナリ  
 可也



い〜ん

い〜ん

地ふ  
 とろろ  
 ろろろ  
 ちりり

大木の切口



角力取ま

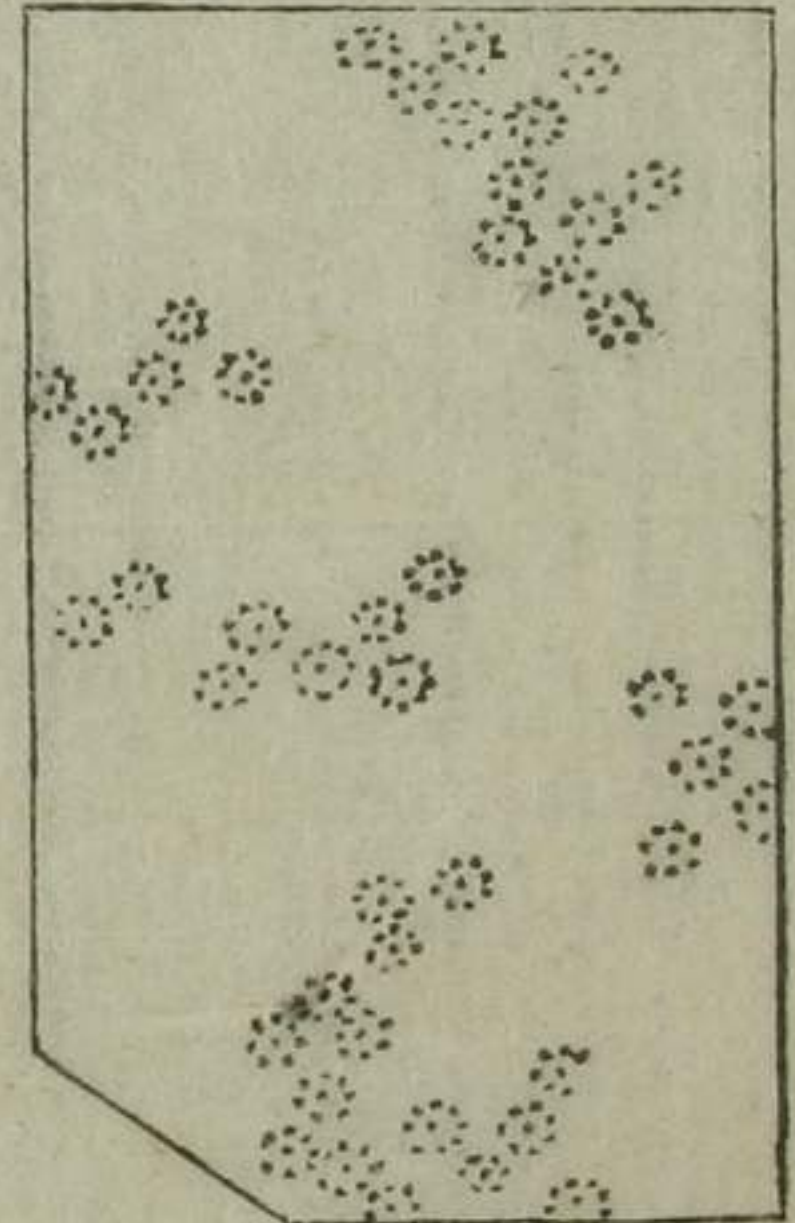


すやひ〜りまは回とあ〜ん

小ま〜ん  
 ちりり

狩  
 軍  
 あり

松のサ台



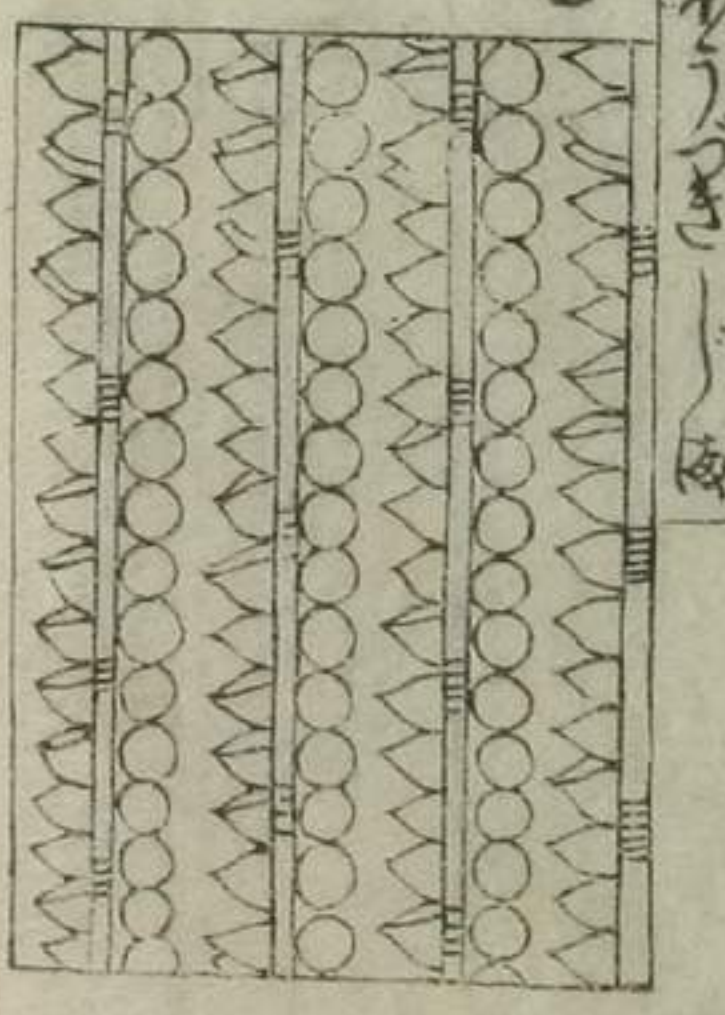


藤草名一△



一名墨河小  
紋とりふ  
あまきや  
伊ちりか  
かへふの  
きんれい  
よらけい  
たねありけ

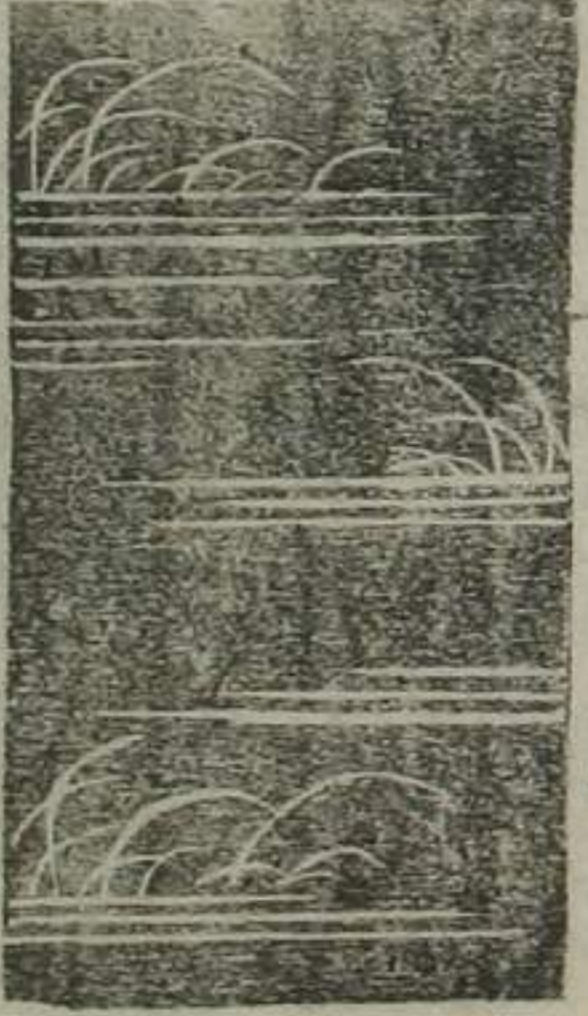
色紙名一△



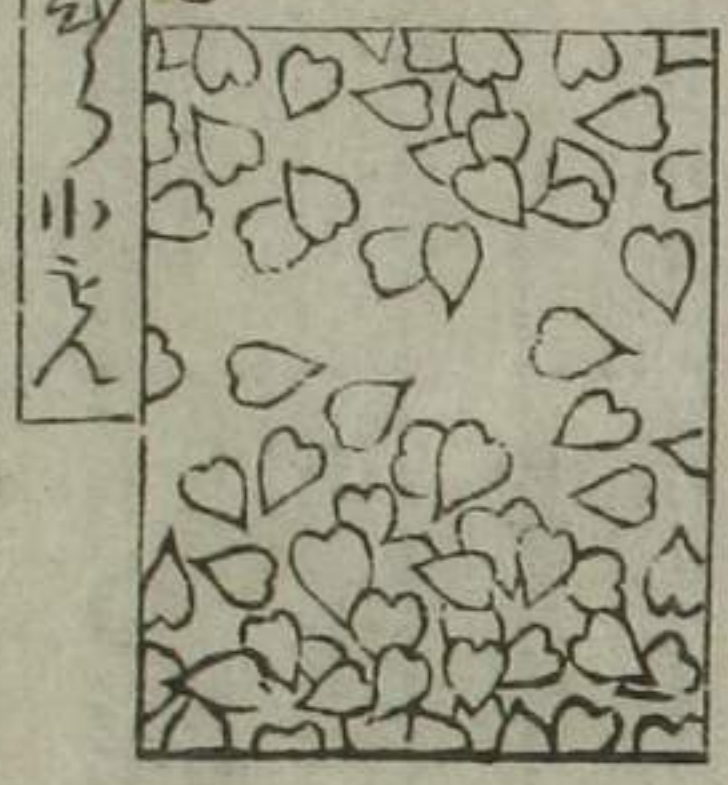
一名  
五手舟



地緋  
又浅黄



けき丸  
吹草の  
金入又  
こー  
らへ



地紫  
ハツ  
グ帯のまね



かこまろ

でいあぐこ

らあまの表紙なと  
こよくあり

かきつ

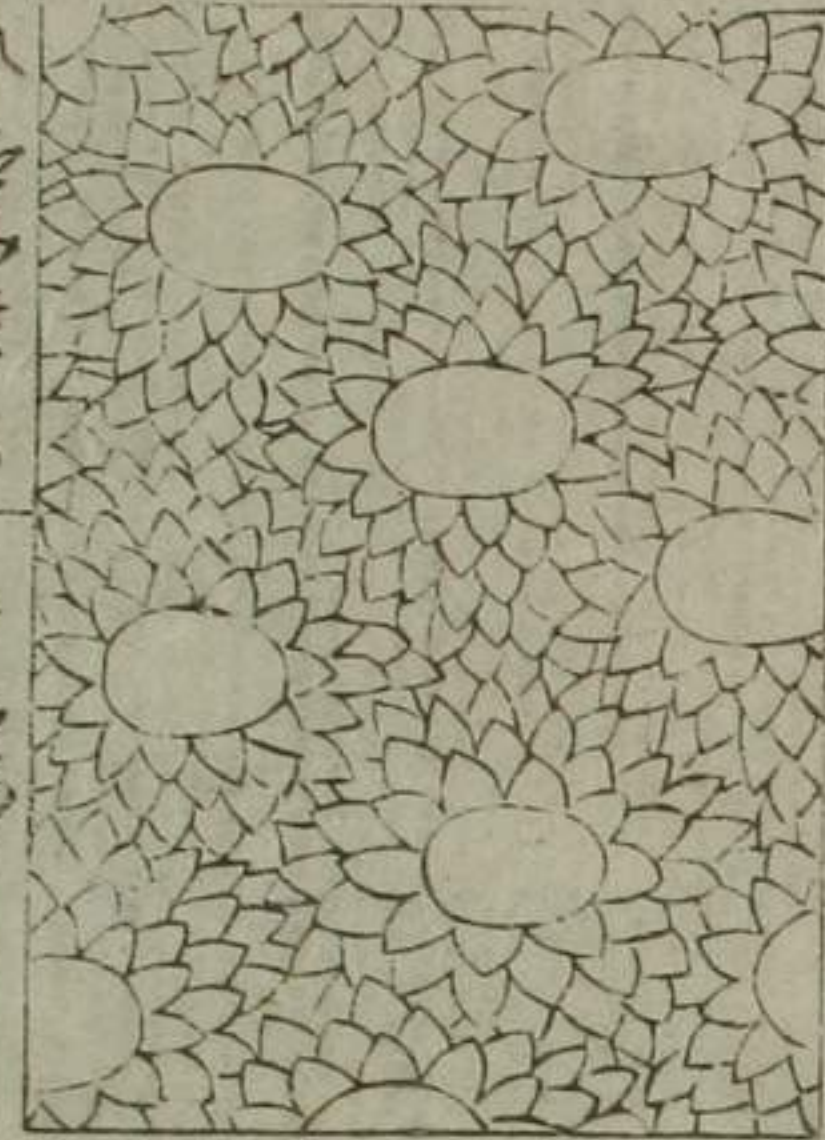
おろ

あまき

世

仕いれあ名の菊堯

八宝やんぱうきく  
よせよせくくて  
九條くじょう



が  
ぬ

△  
蝦蟆かま僊人之衣之裁也



くさくさいいちちご

□ 一名一名蛭むし覆ふく盆ぼん子



車くるまののむむつ

△  
小児こどものむむつ

てめてめたたままきき

伯耆国伯耆国深ふか淵ふち出で

△  
志し保ほり



△  
蓬よもぎ花はな志し保ほり

△  
蓬よもぎ花はな志し保ほり  
たにたにりりののふふかかとと玉たまととああららむむくくととまま

茶ちやききくく  
ああののああららむむくく  
ななくくももののああ  
嵐あらしののああ  
白しろととああららむむ  
をを地ちににああららむむ  
よよふふああららむむ

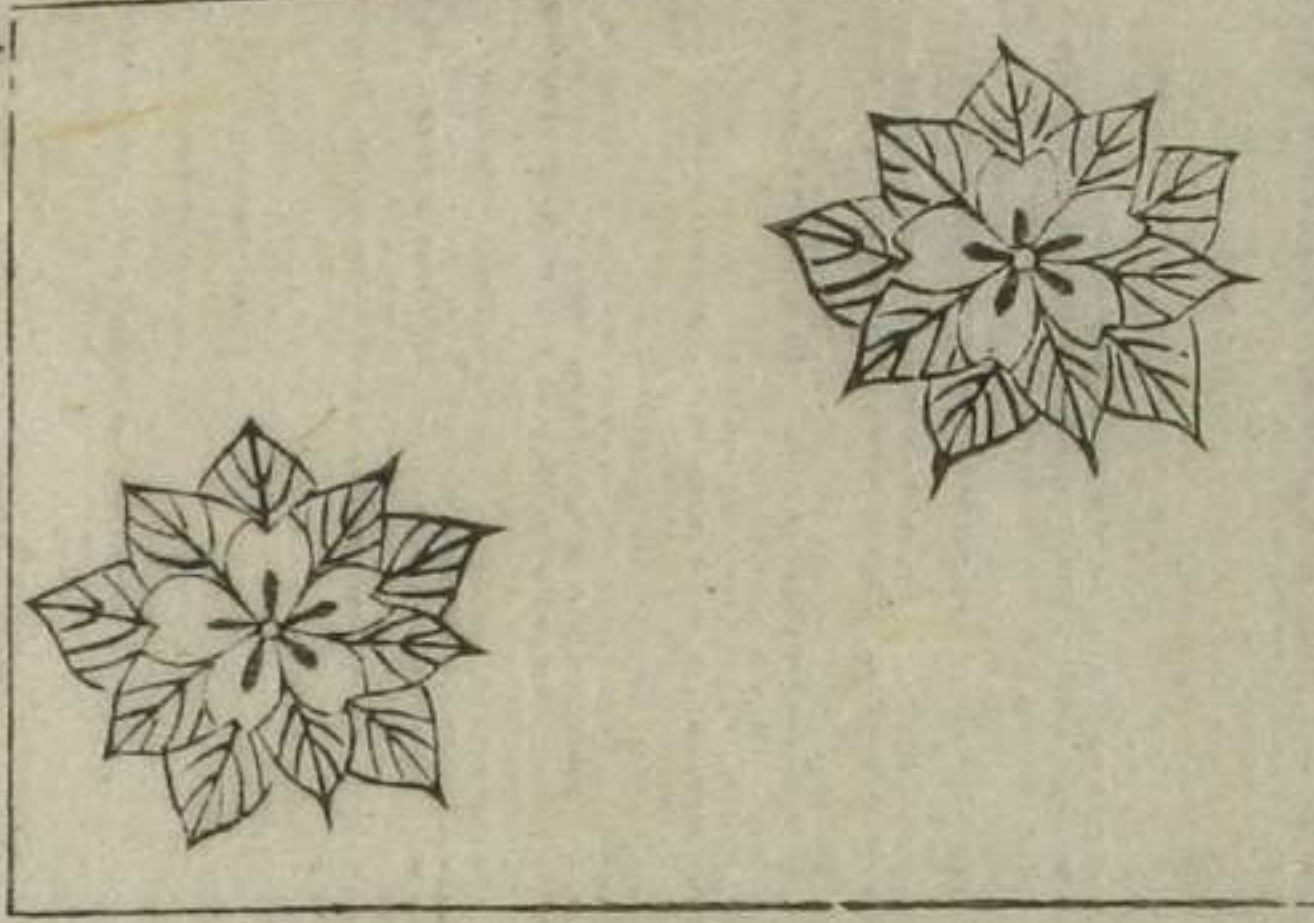
△  
ららんんるる菊きく



△  
松まつ花はなののああ

器財部

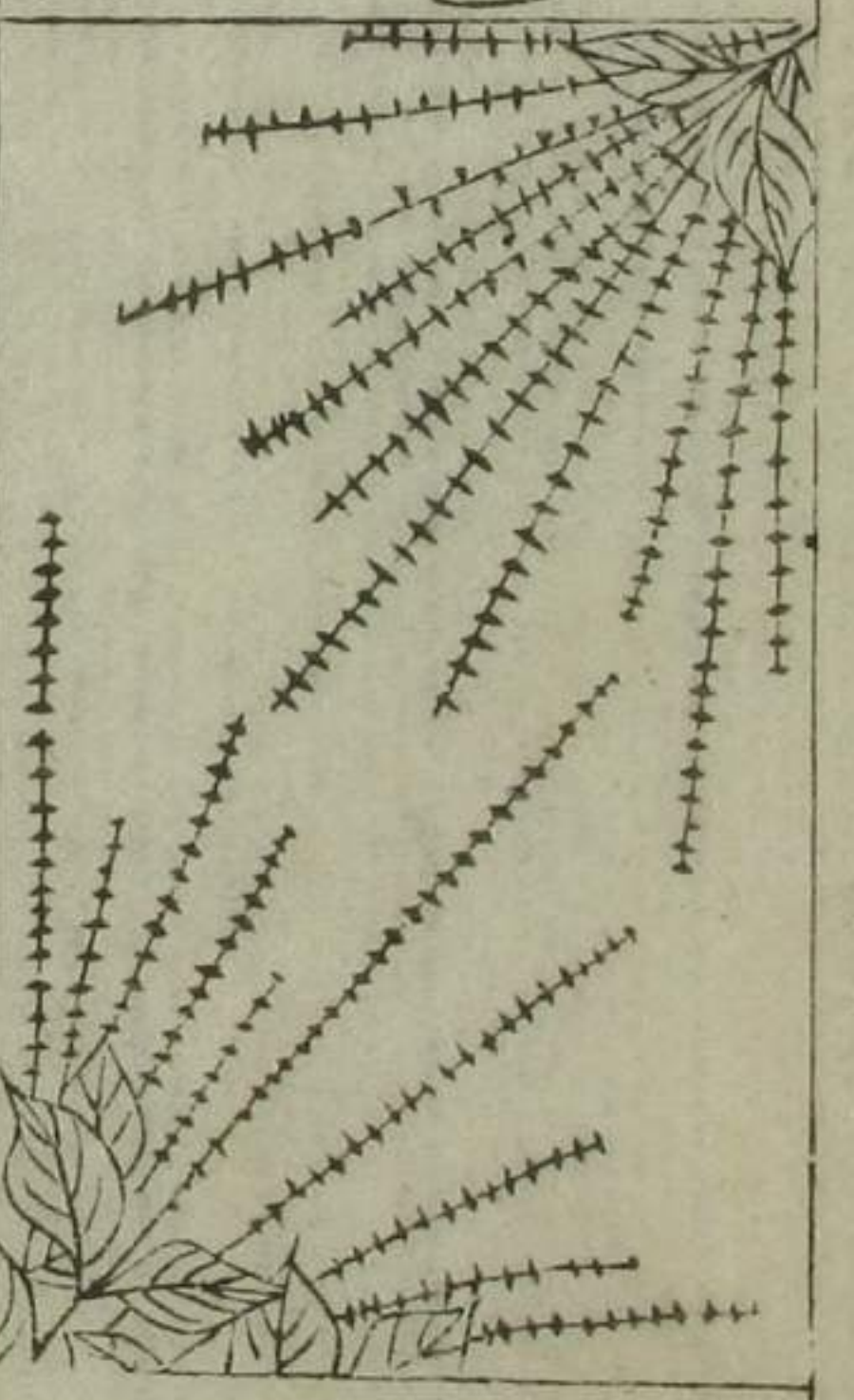
加賀紋所ナヨ



芒切

ゆあせん二條め  
色糸を縫入  
し

糸引



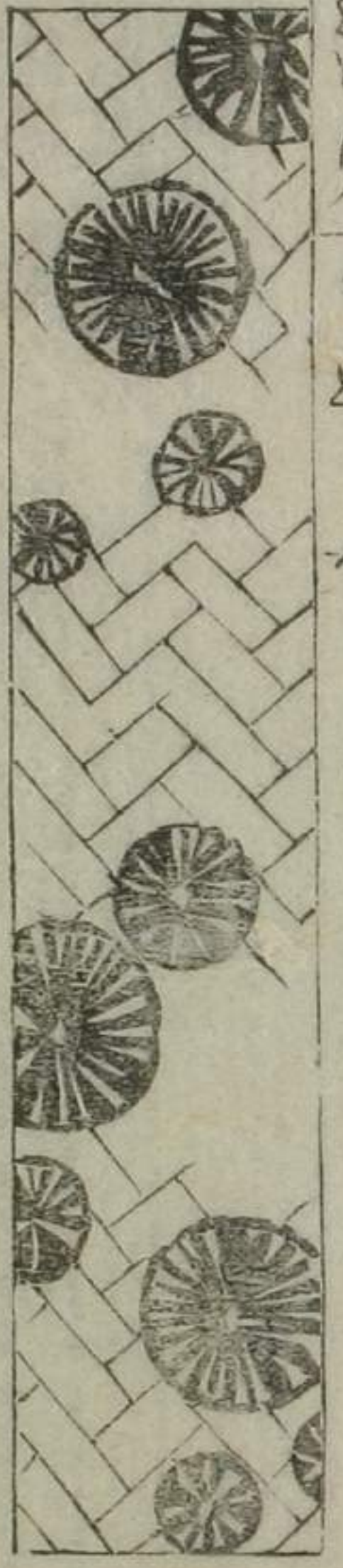
ちきり



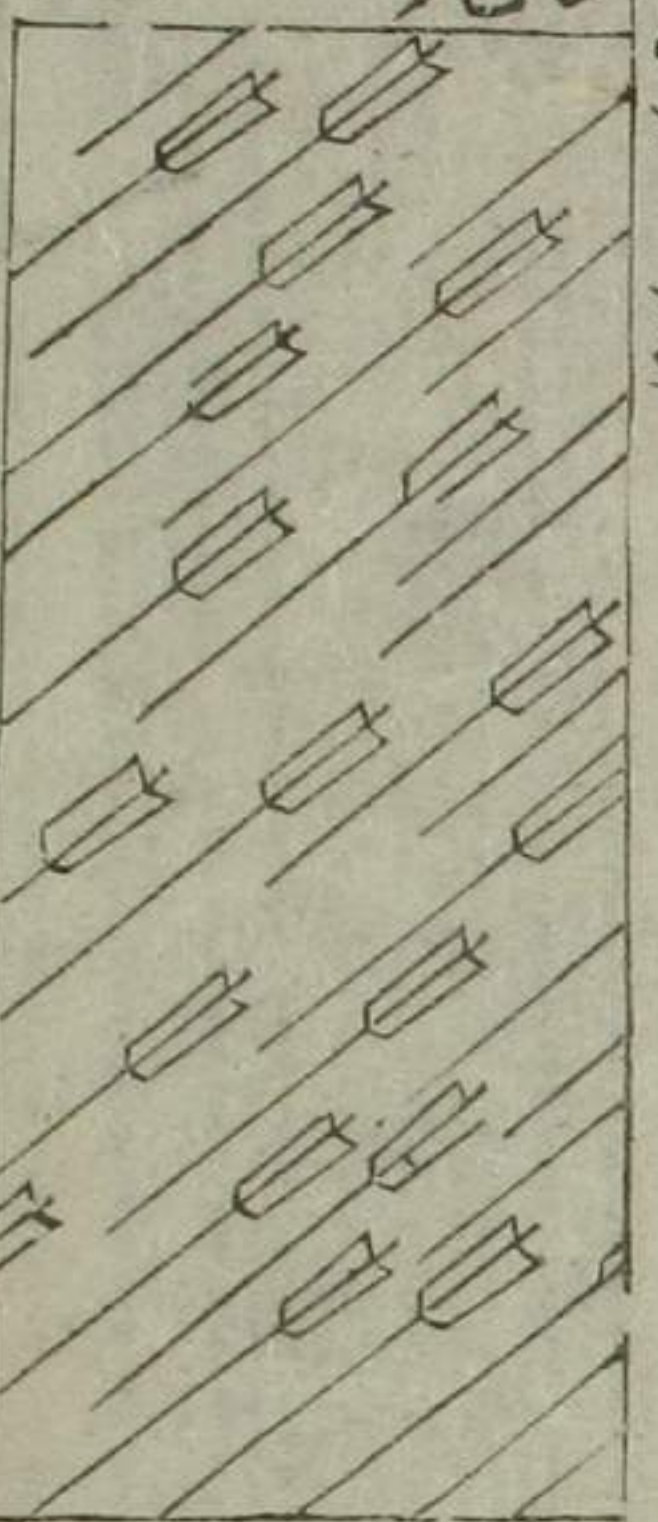
ふあがりみほろ  
又はあめくち

すま

すま横格の炭の赤口



あめあ



男  
いせのあとのとひ  
時

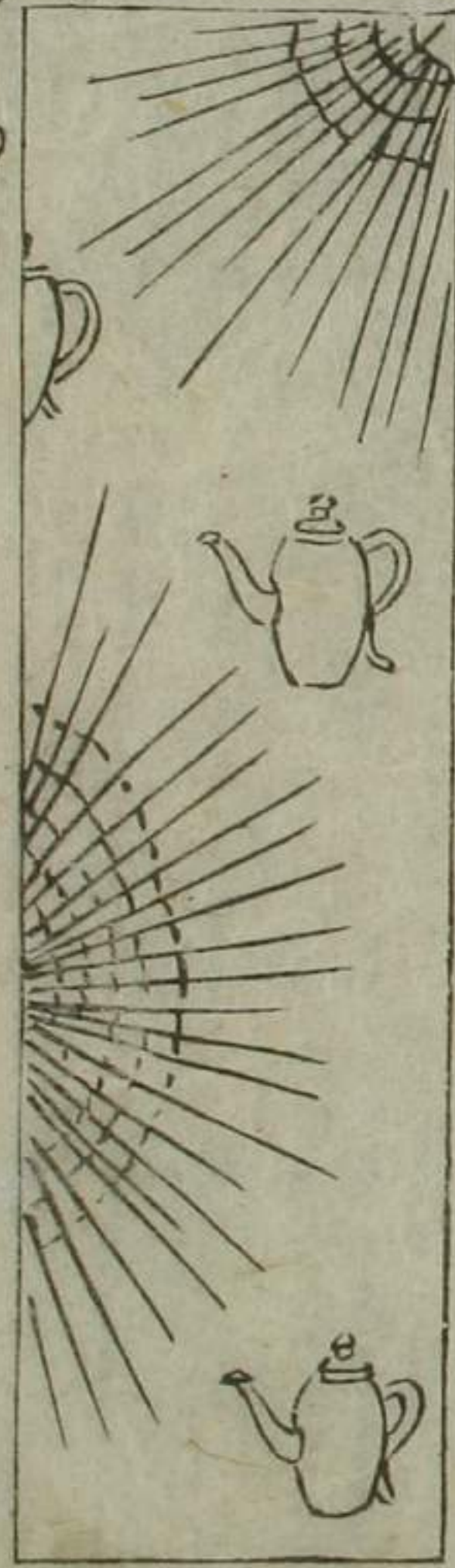
ぶとく

五徳大寺



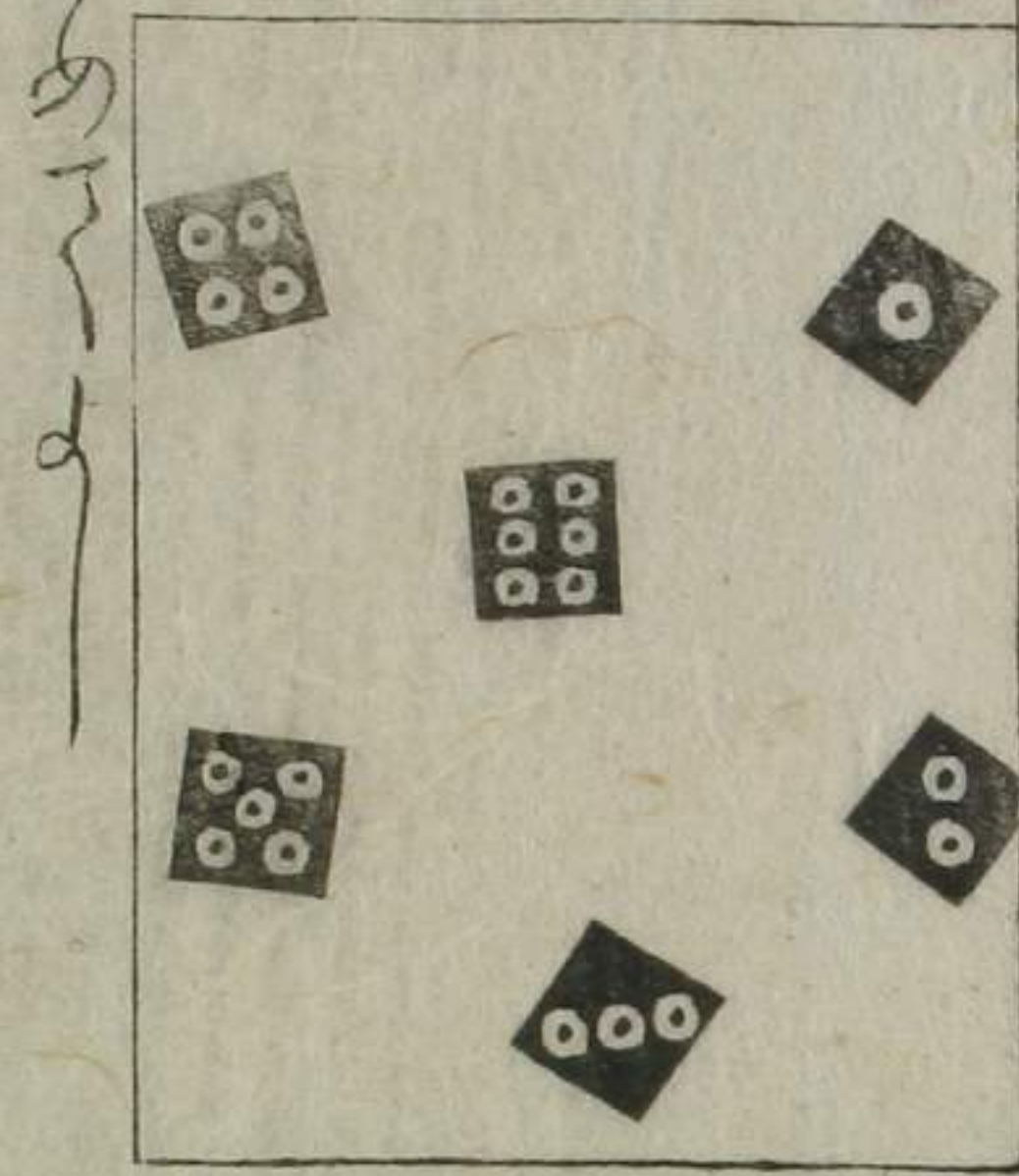
さり

けきれ人の  
 同くもたひ  
 と何のたひ  
 忠盛のやそふあり



大りまあり

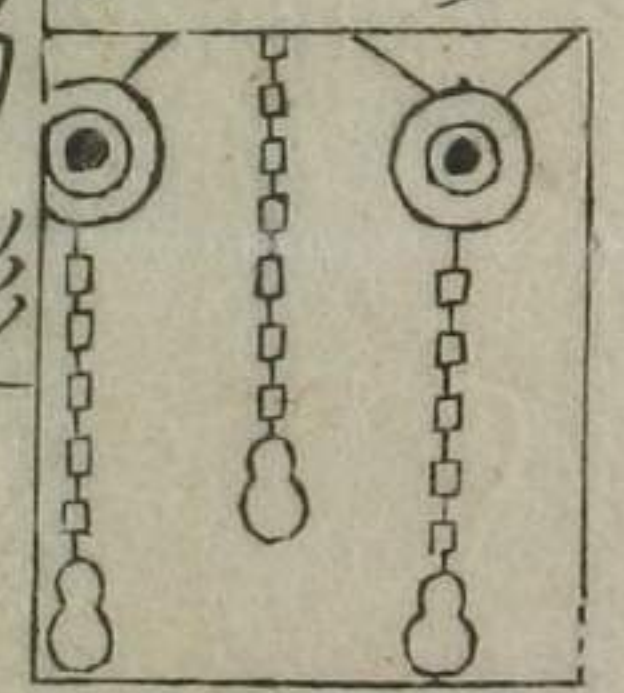
大振袖



丁のうの

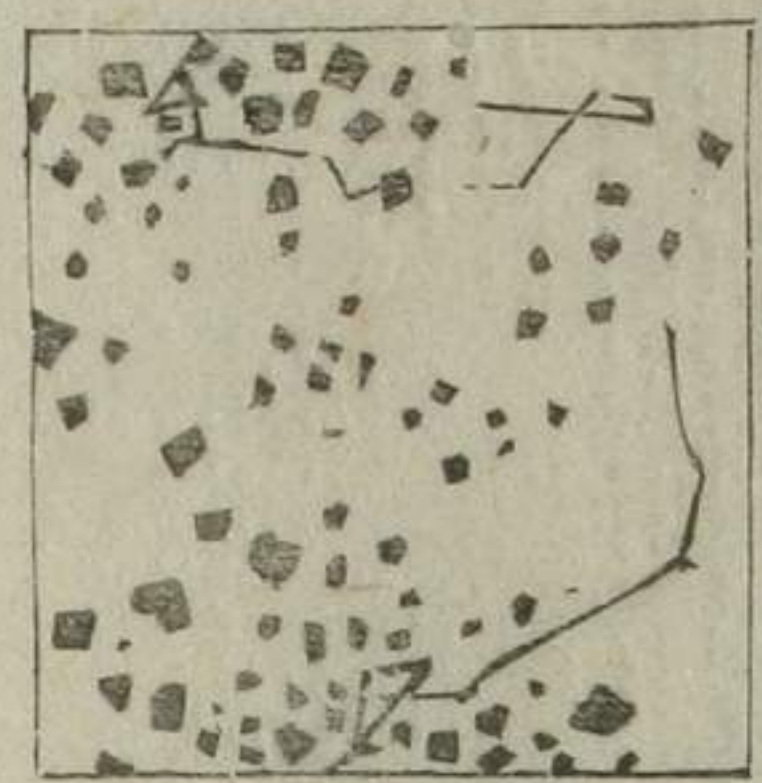
利久形の  
 三いこ

土弓形



我も久く

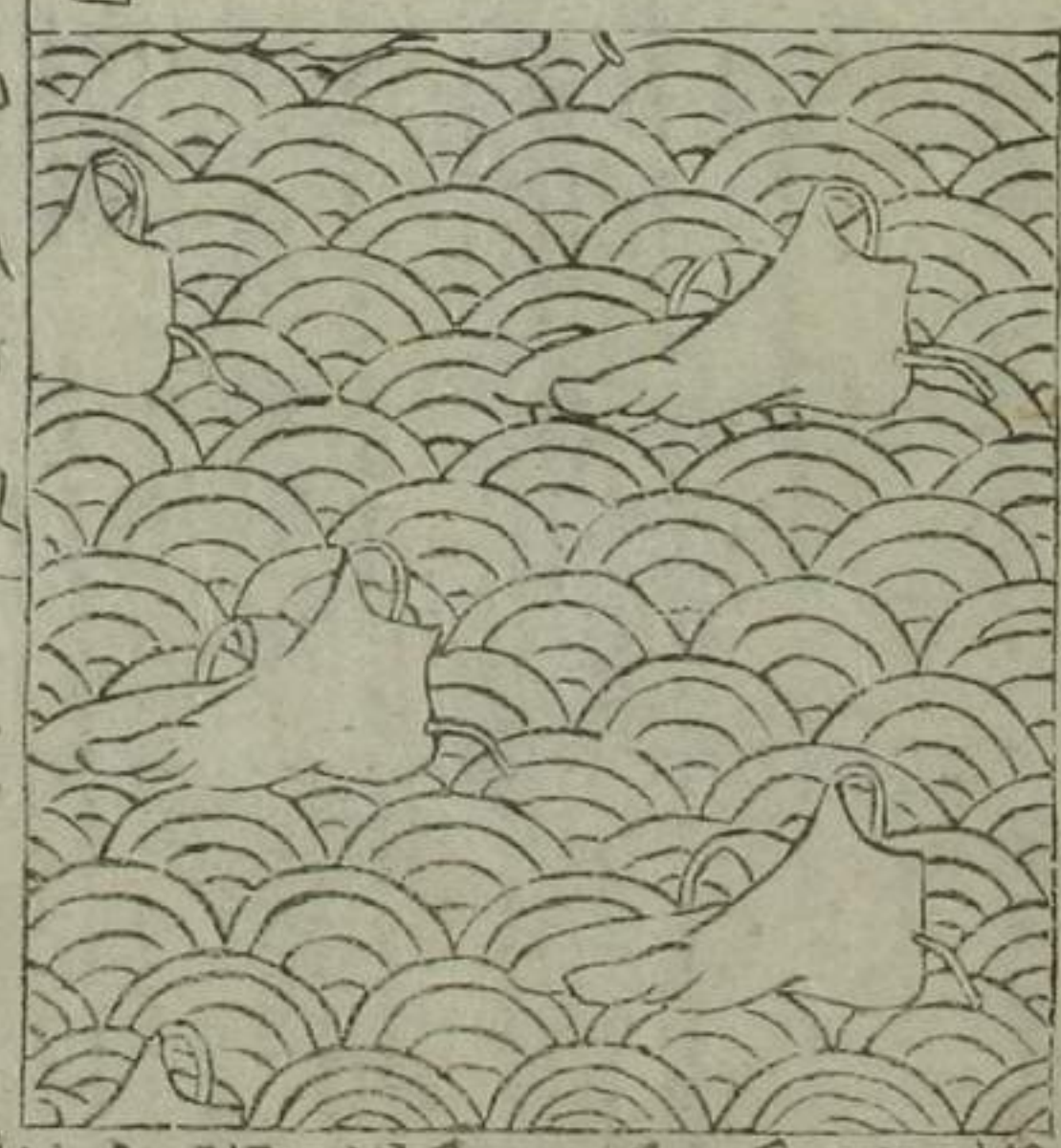
破子形



どうろあられ  
 すこり  
 きれと云



すいだり



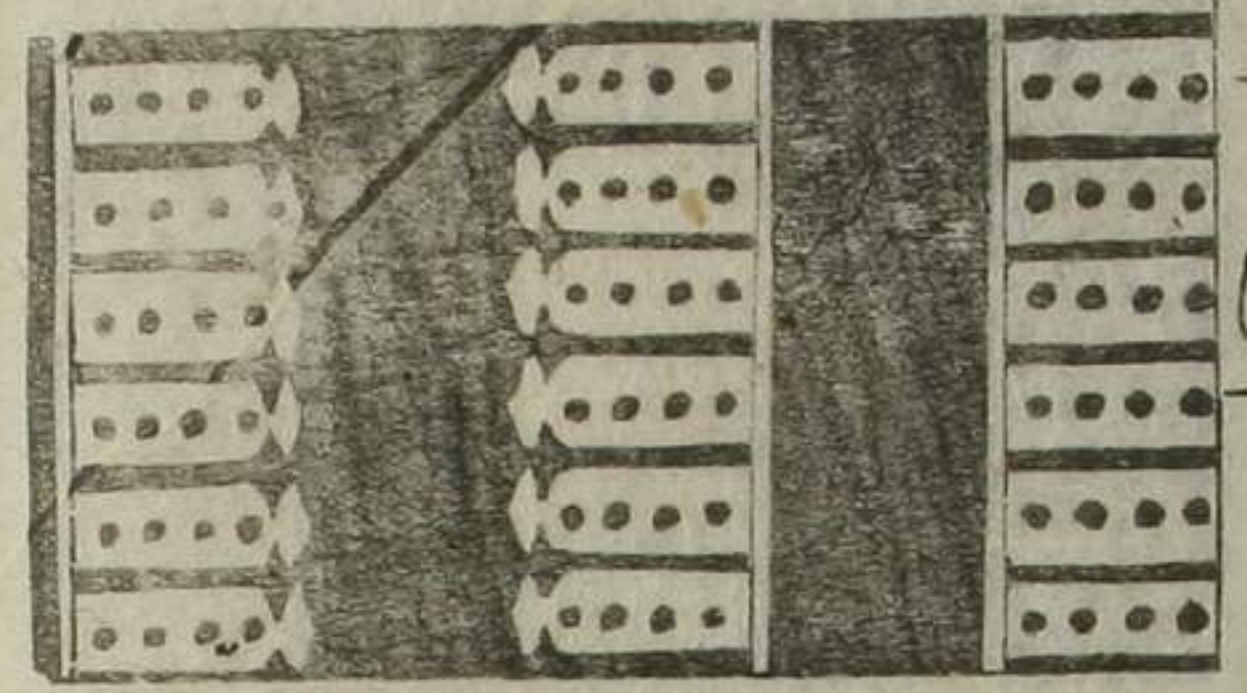
うらひきり  
 石公古事也云

きり  
 ころぎれのうりあり

黄良張ハるれ  
 袋はは  
 棒

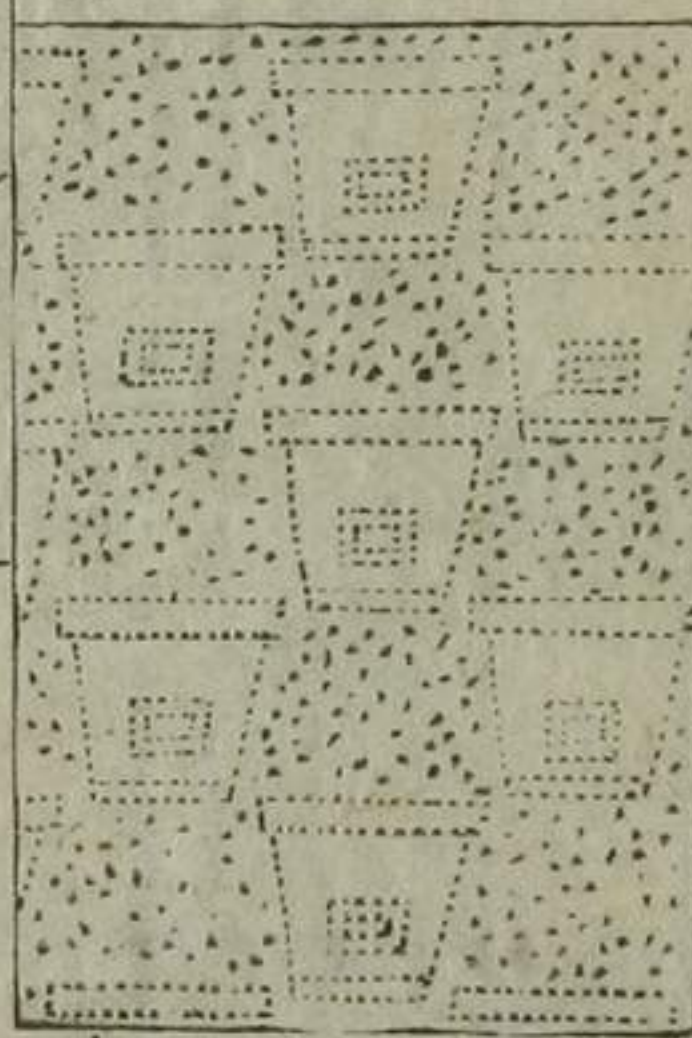
おとまちニのちちと  
りめ二人の頭城乃  
あまきの衣裳あは  
きしれあり

てつづい



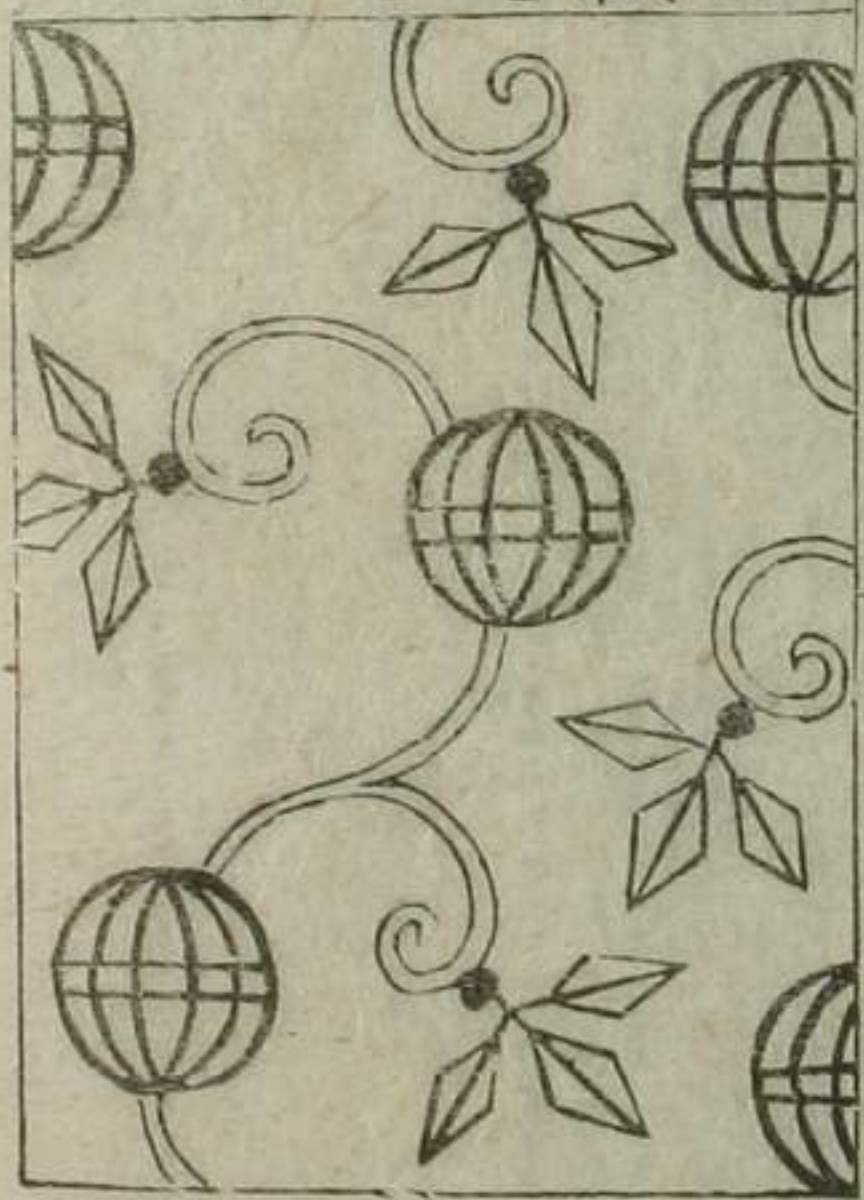
ちよと百つ  
つまりの殺  
んとあふを  
名やまんど  
のからしや  
が下ひもの  
きしれし

七まんあき

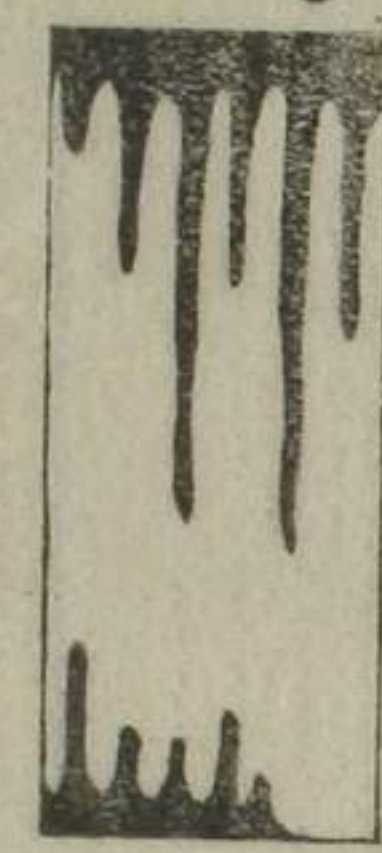


地ふん  
ほつ之  
る條と

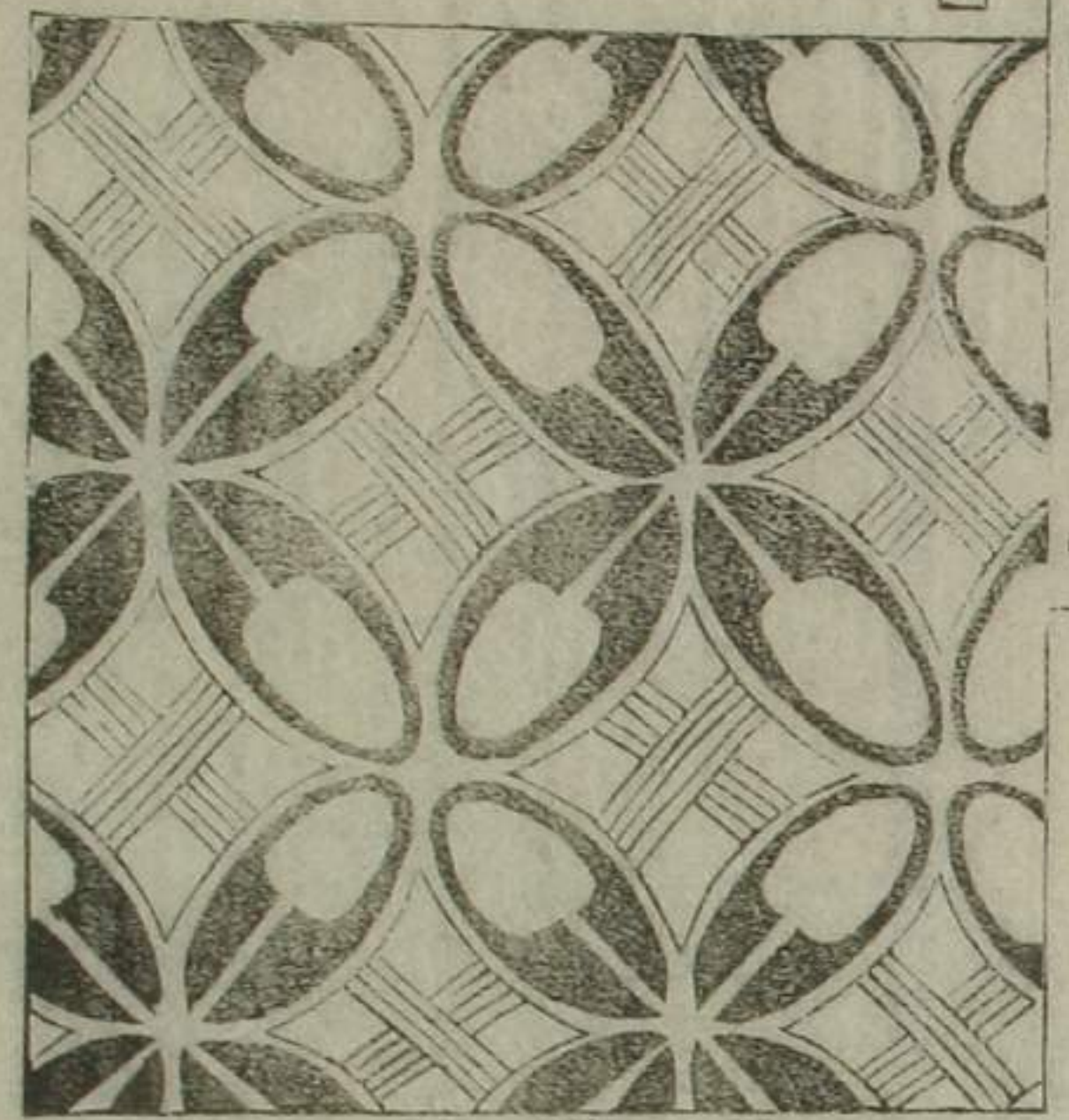
ヤりづる



赤焼

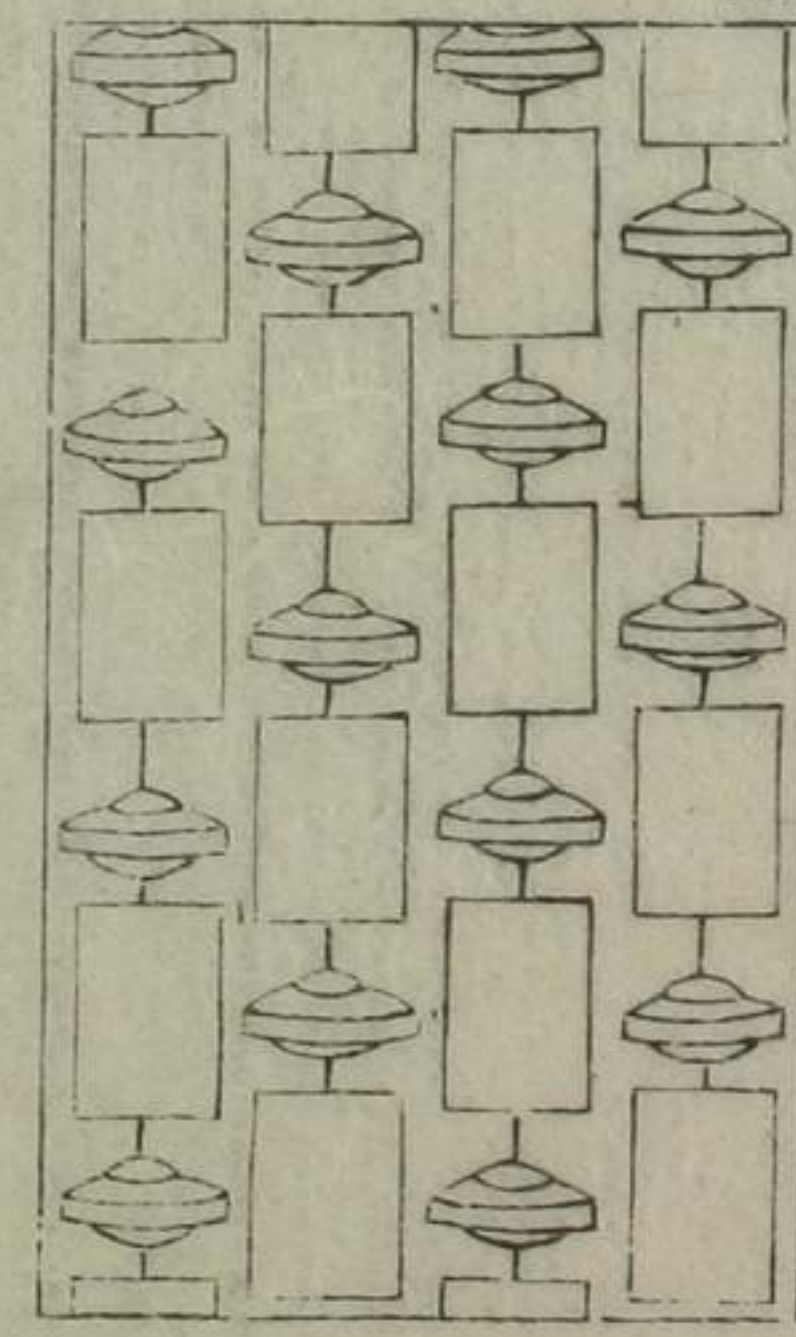


け



も

松井源氏織



一名娘形と云はれぬこのるれあり  
天ふの地まきき本いふん  
祐乘や

祐乘や



小柄のうらのやせりめ

十九

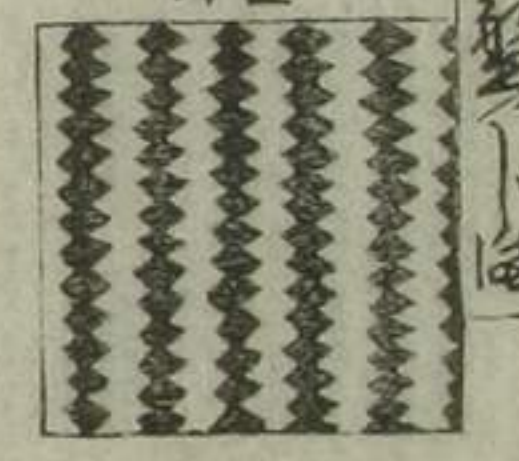
地定九郎 少之原 了

傘ちりり



かんそう  
ありのまへ  
のきれ

美盤小海

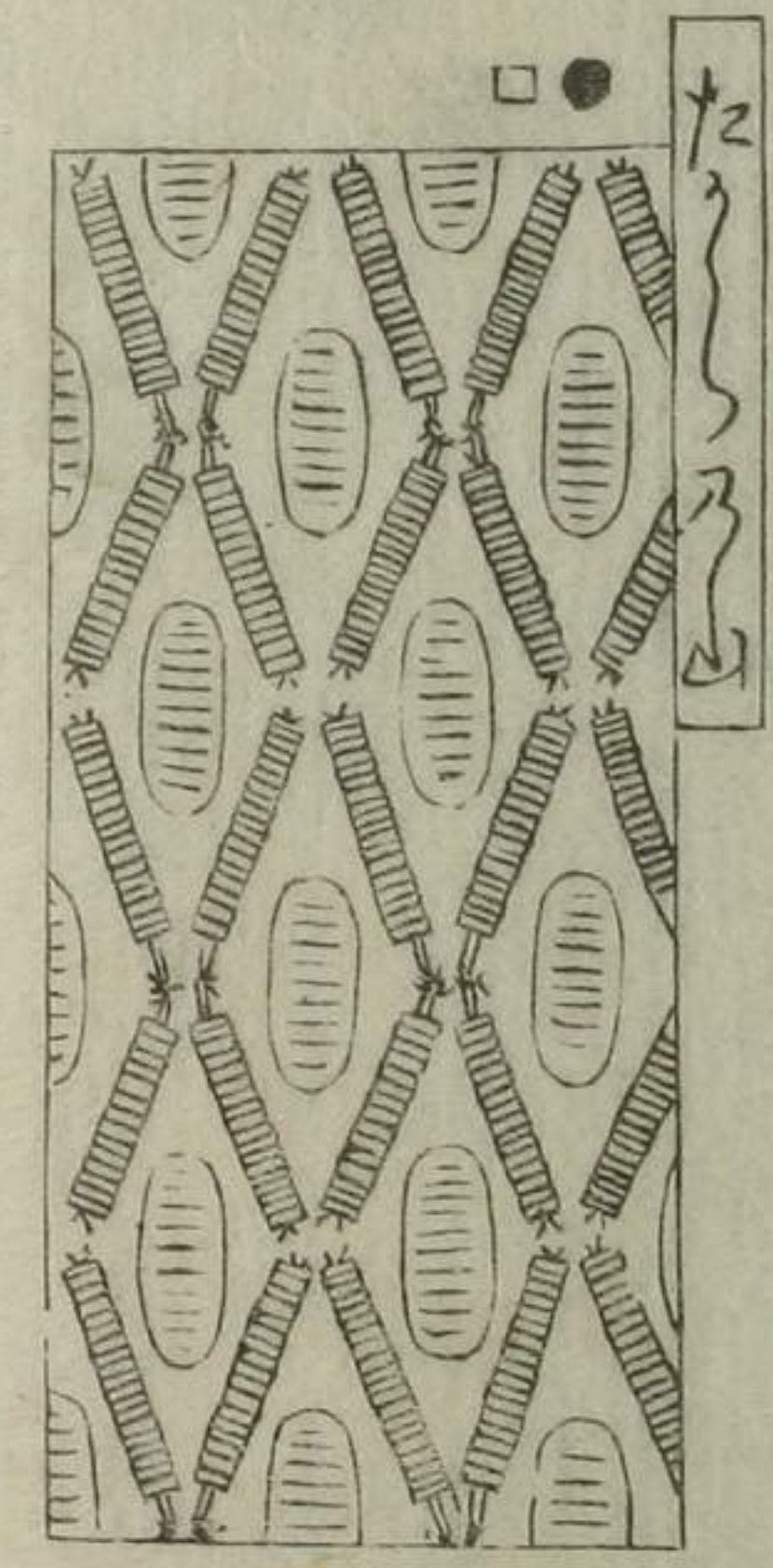


三保の松糸  
とくしゅう  
の文は  
きれ



色入  
の  
あ  
の  
ま  
の  
あ  
の  
あ  
の  
あ  
の  
あ

地色 後茶 大し ぼろ



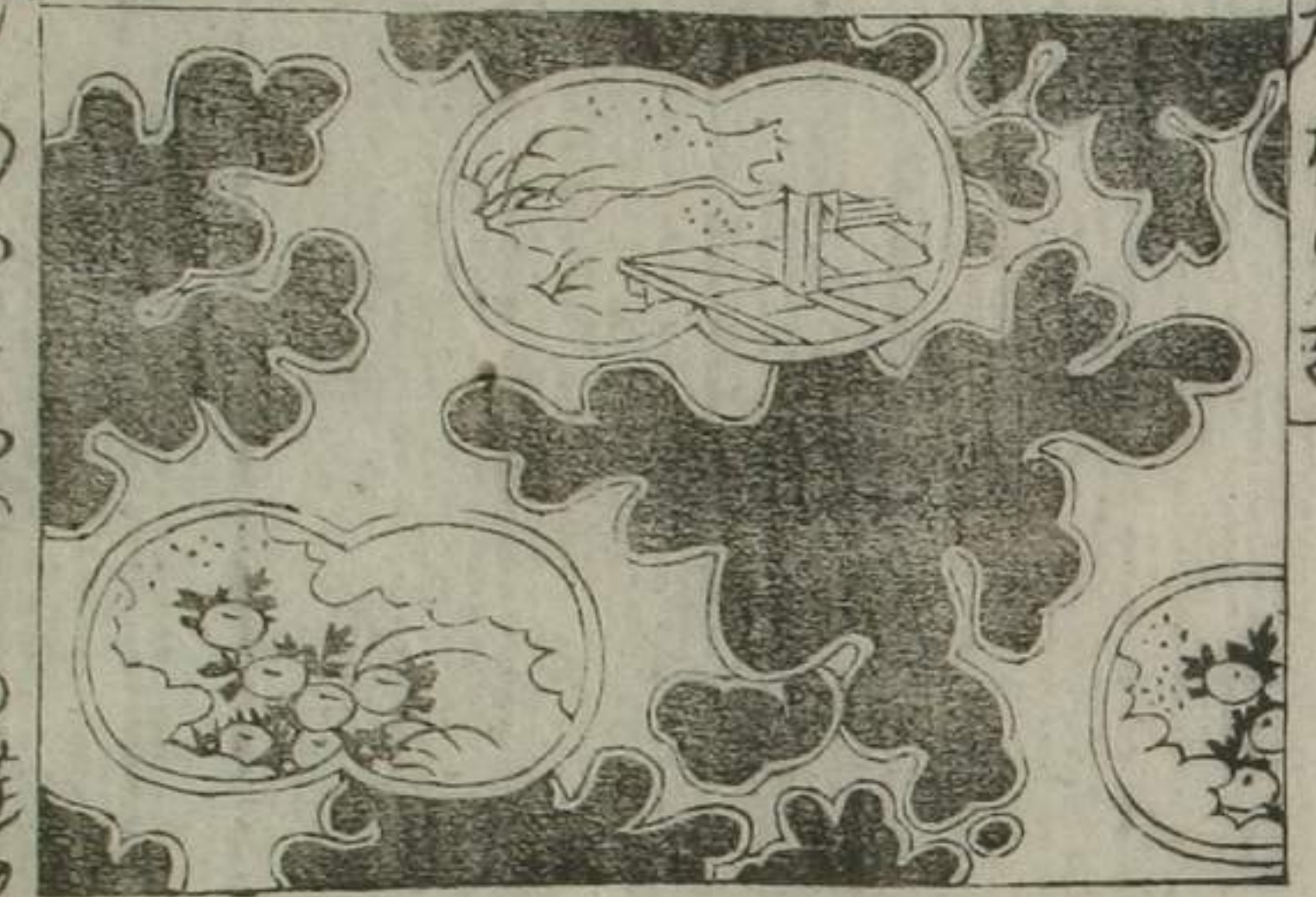
たう

あ



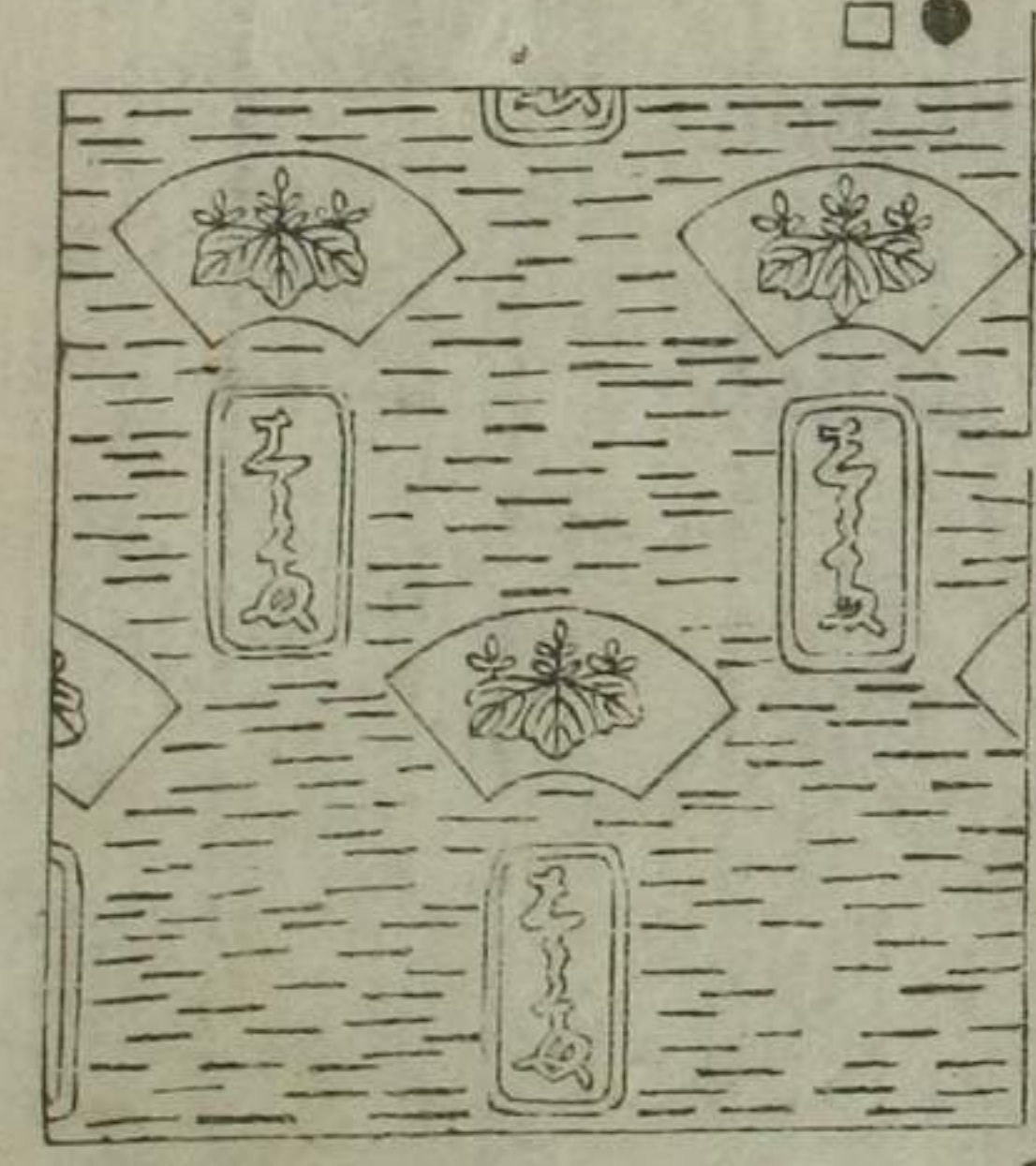
五明樓

大ちりり

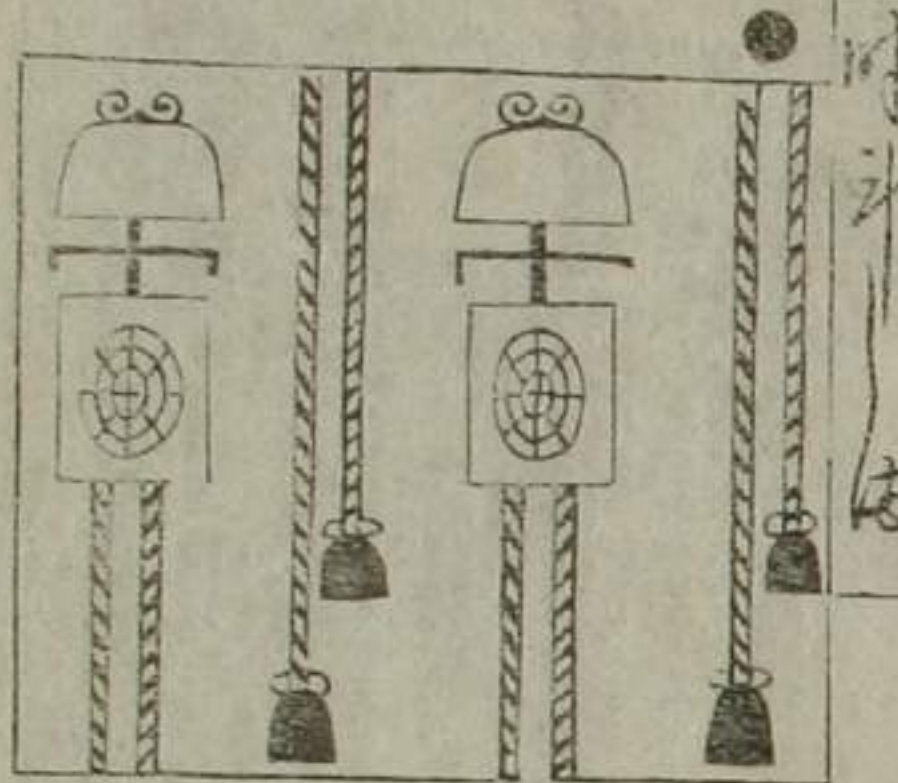


もあふき  
の  
継  
柄

大刺きり  
地山吹色  
は





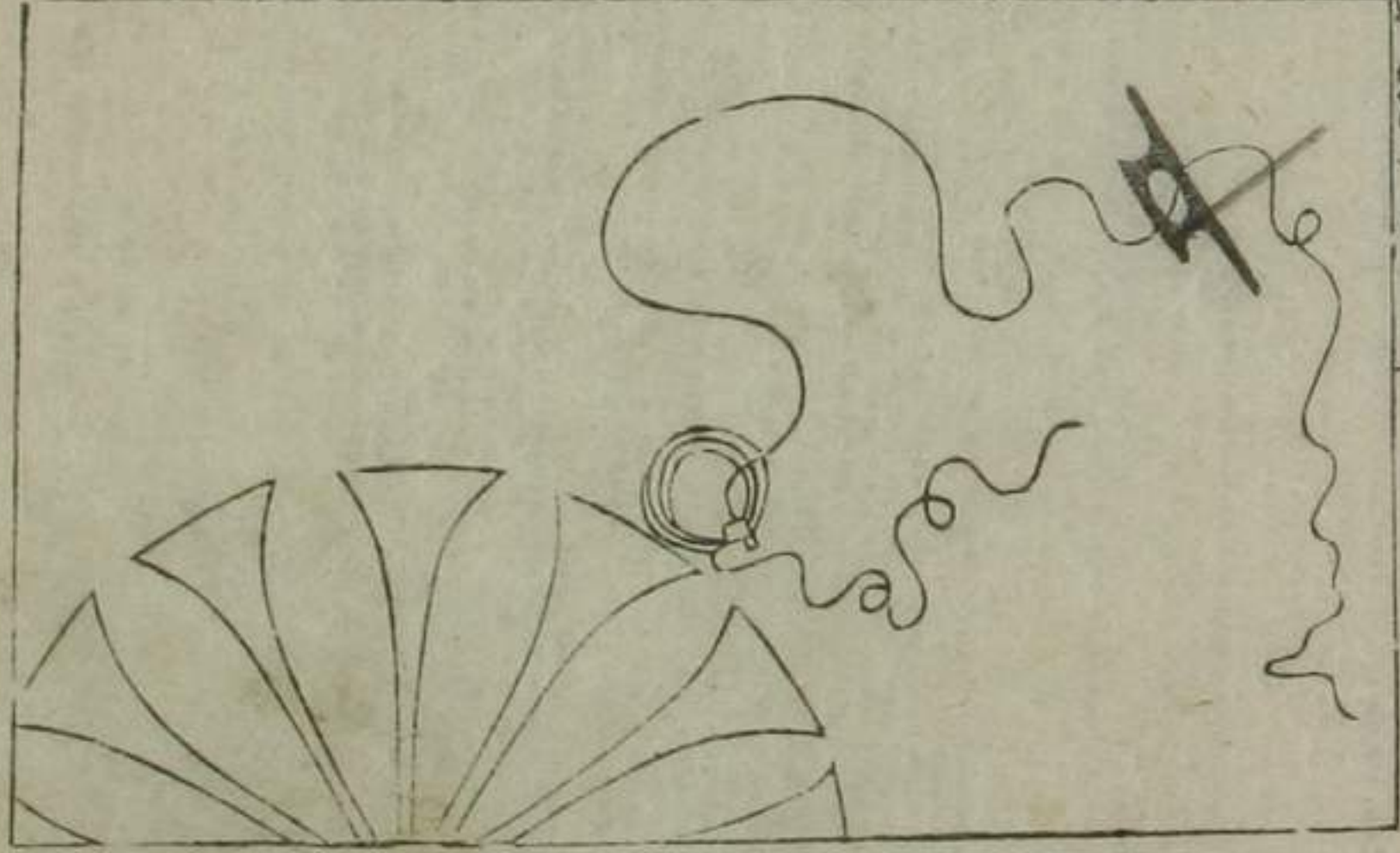


付斗



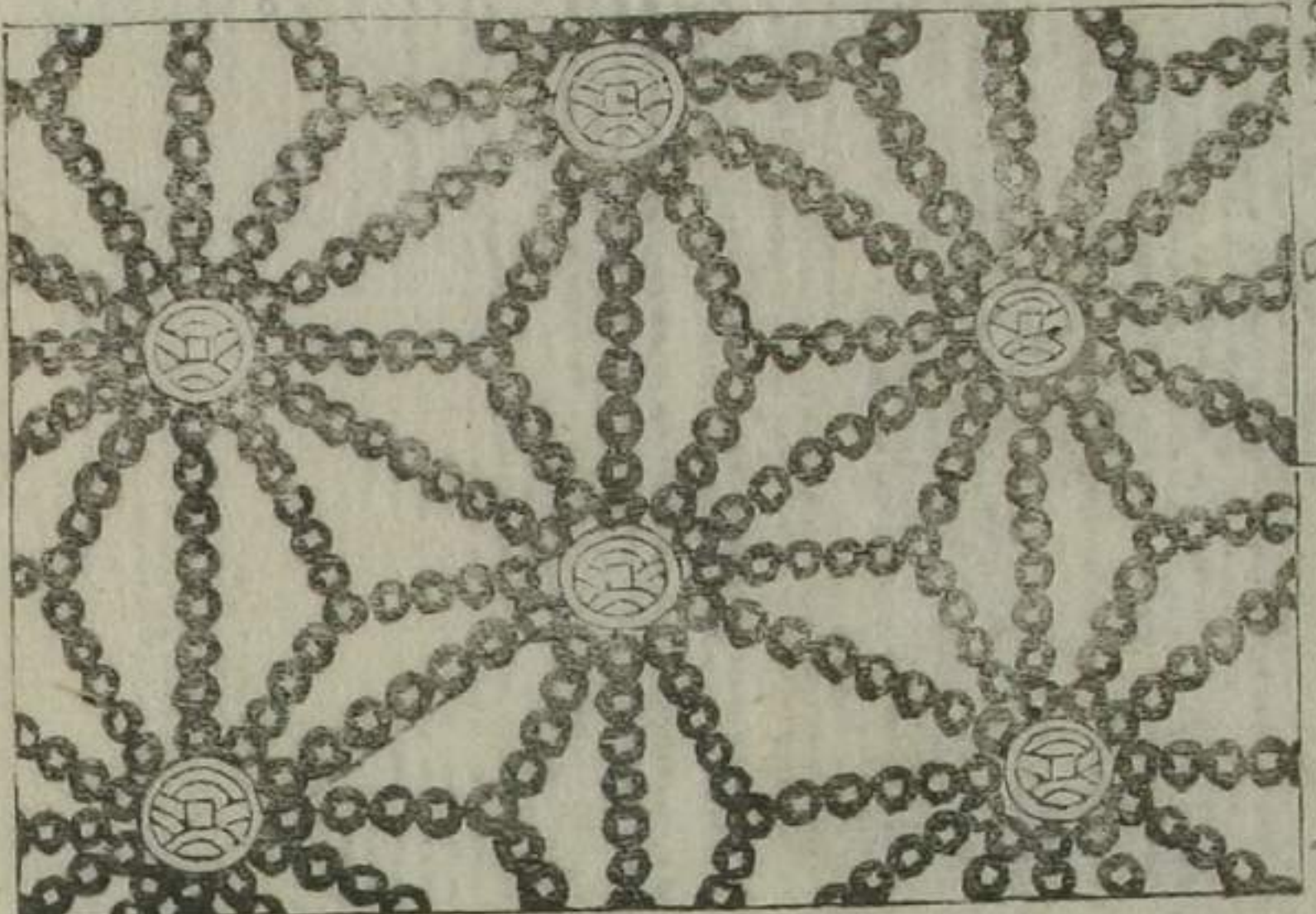
貝をよそへて又よそへて貝枚子  
貝をよそへて又よそへて貝枚子

ぬくす打赤や  
いんげんと原が女房も  
いんげん小きんあり  
ぬくす打地ま  
はめて  
よ



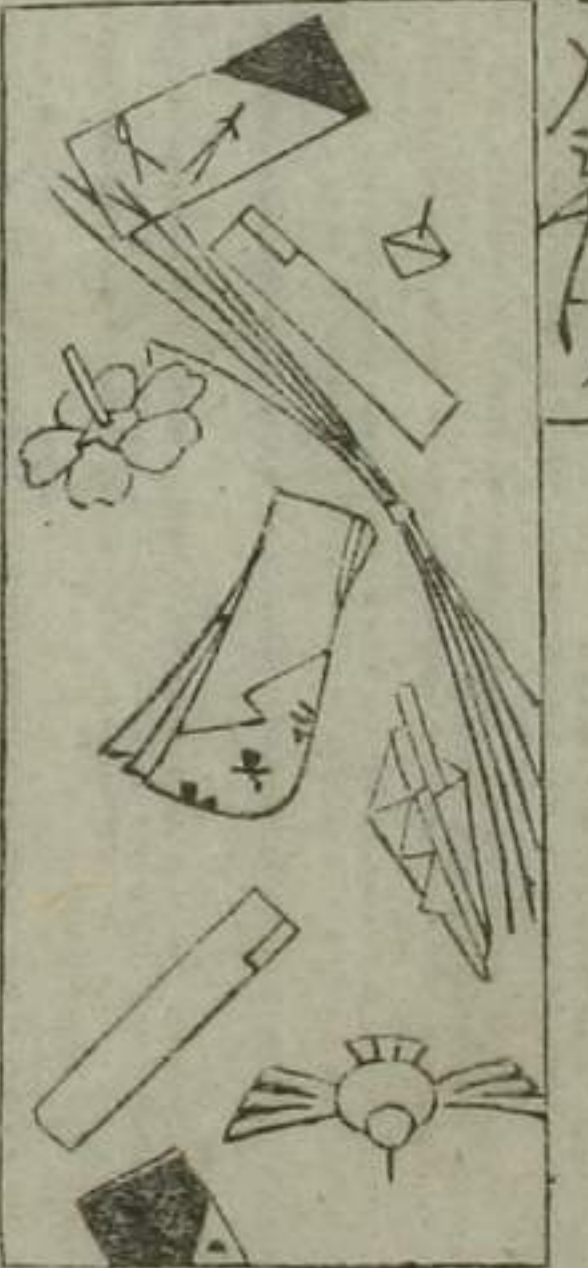
三味線

一名テッセン  
唐草

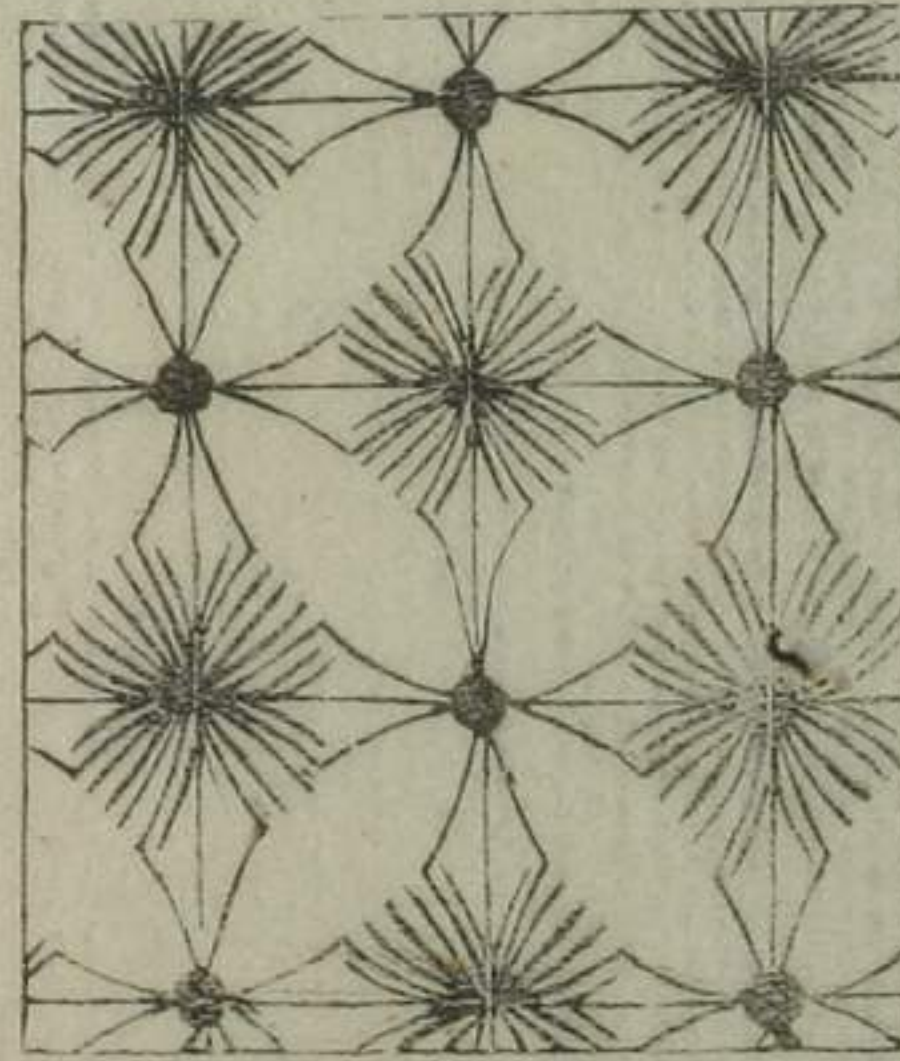


砂

紅うのこころあり



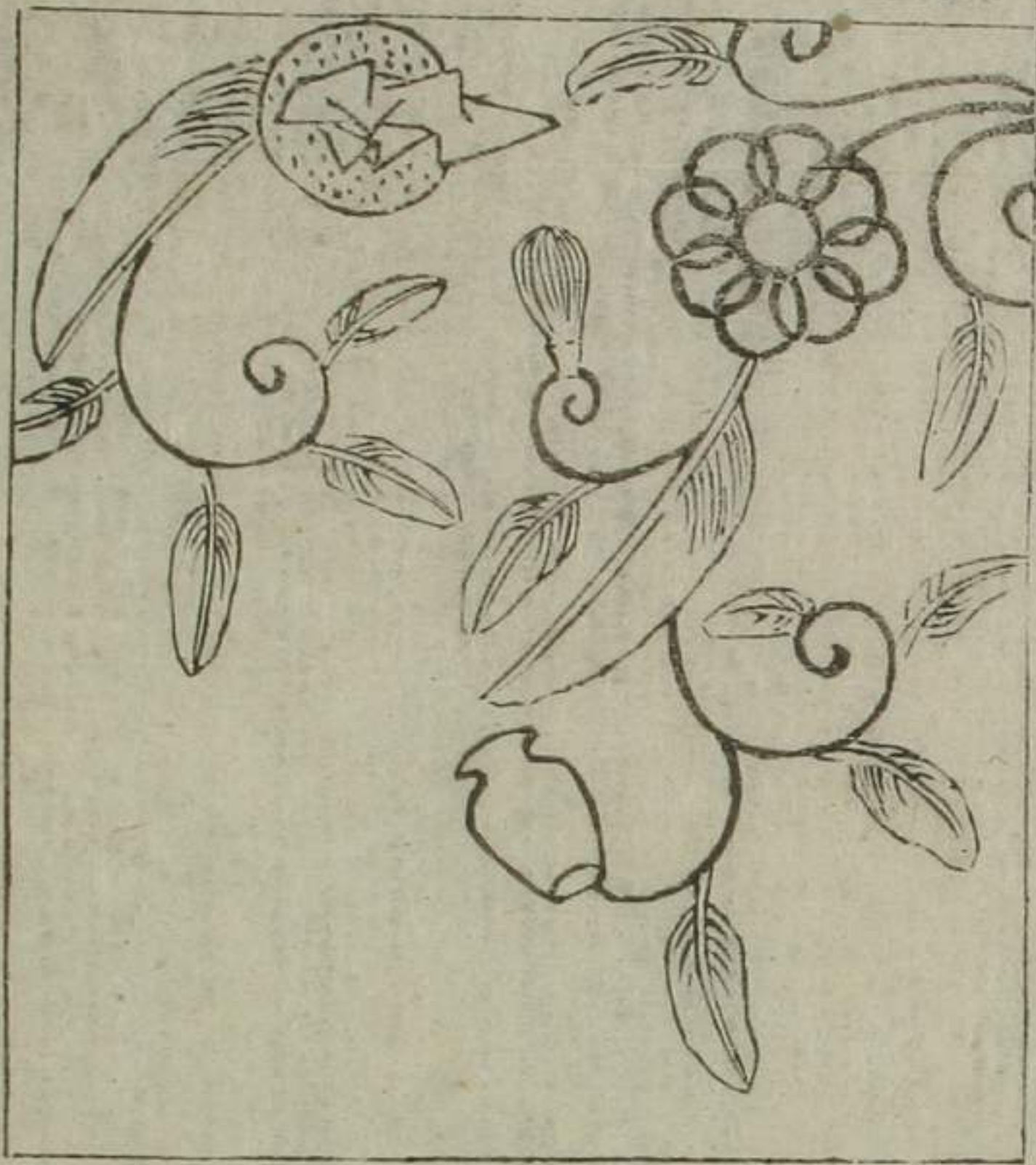
入る



ぬ子のこころ

つくと袖のこころ

す  
あり  
乃  
の川  
う  
る

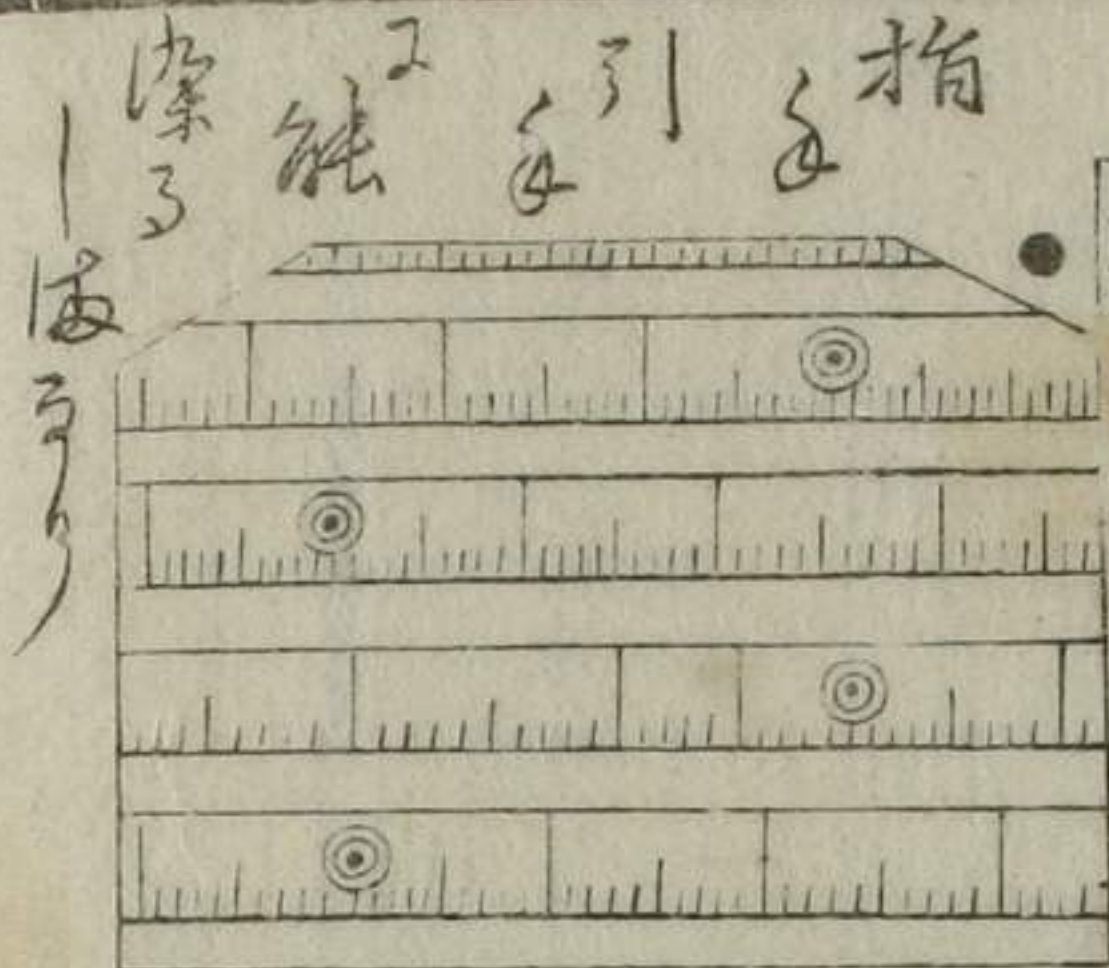


此種つるものなり一くちの  
 りんごに似たりとては  
 多分器つる

ちりふす  
 けられま  
 ちりふす  
 けられま

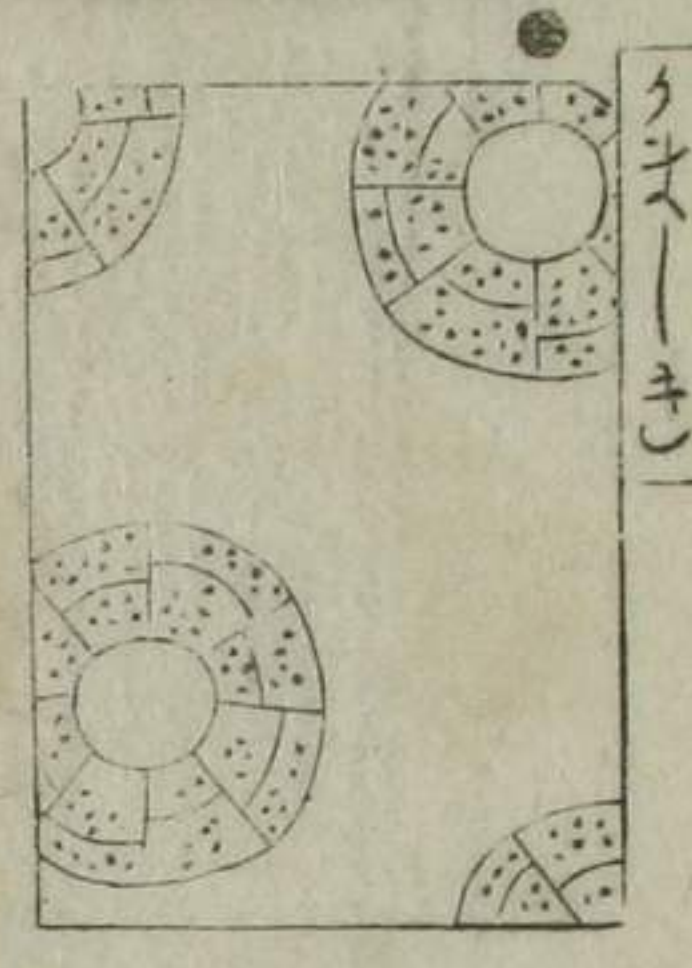


新造の  
 花の  
 ちりふす  
 けられま

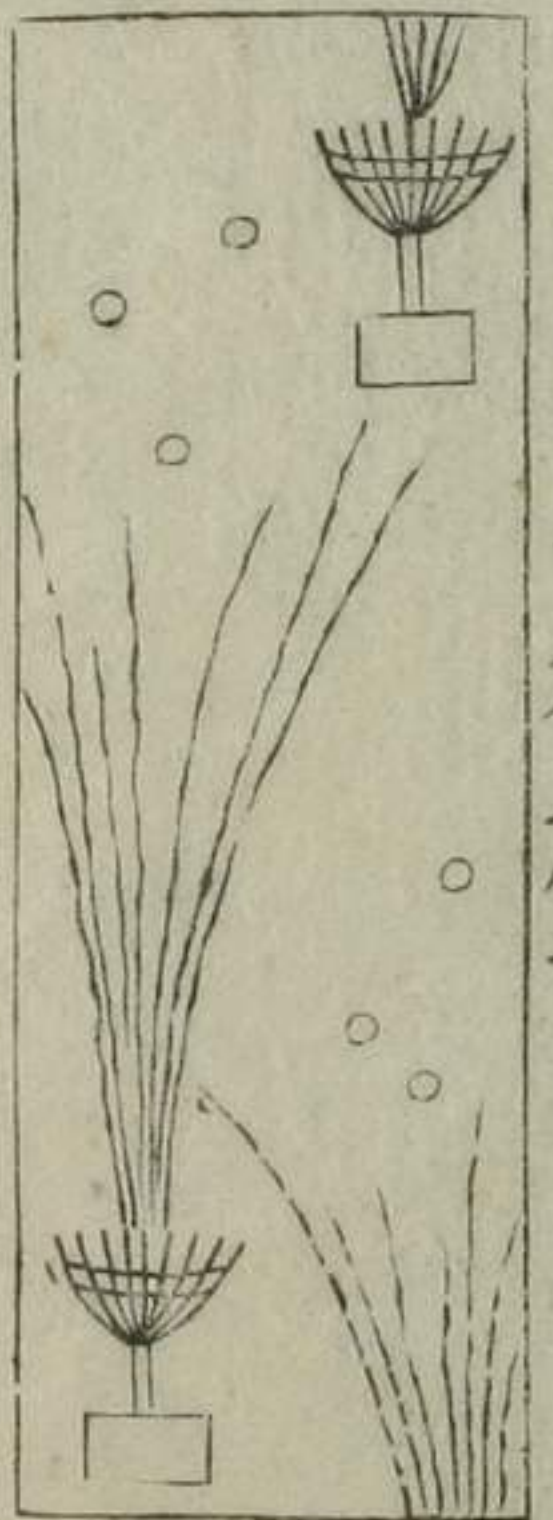


深さ  
 一ぼろり

合志  
 志ま



合志  
 志ま



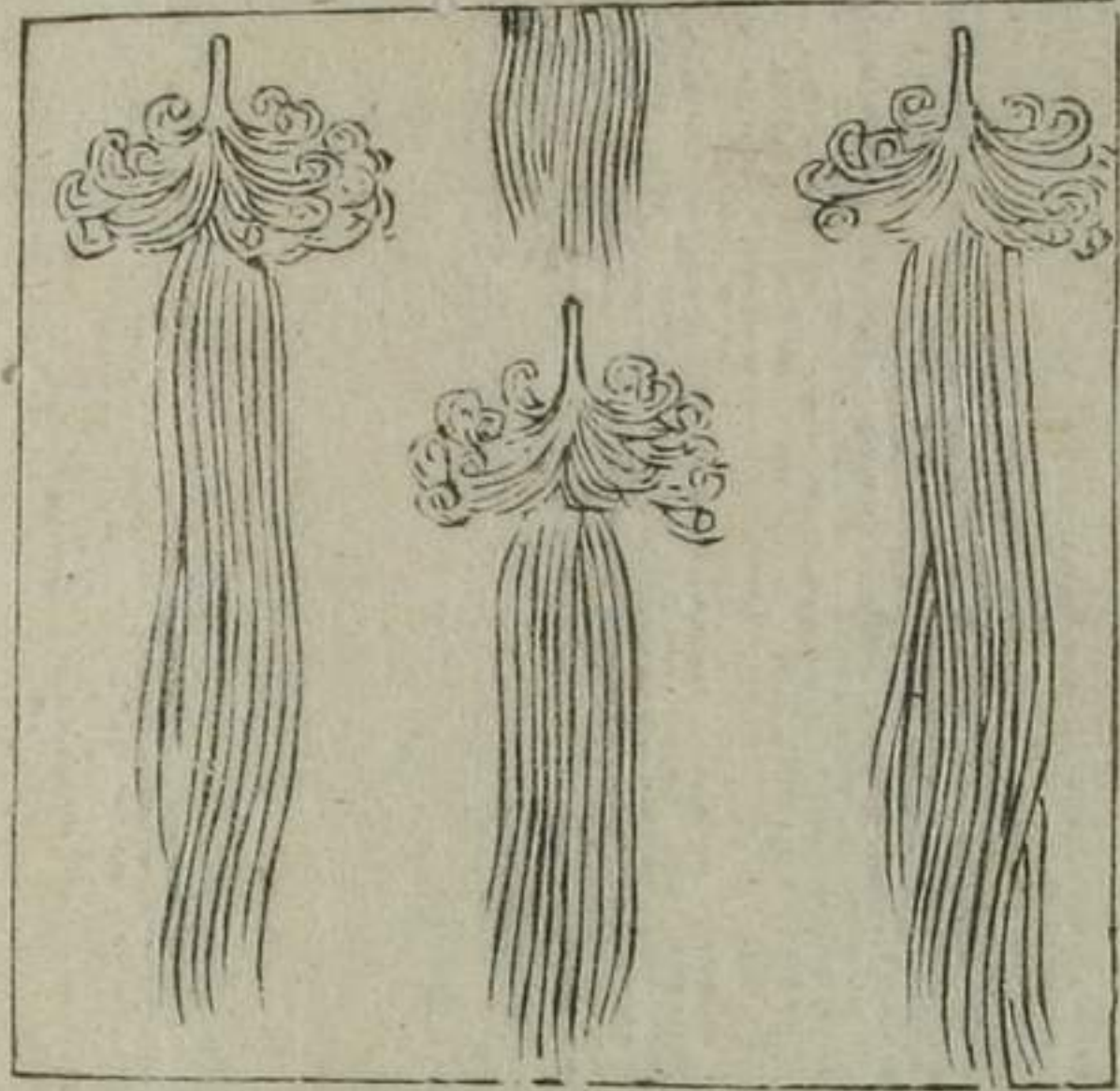
一各水か

かし  
 かし

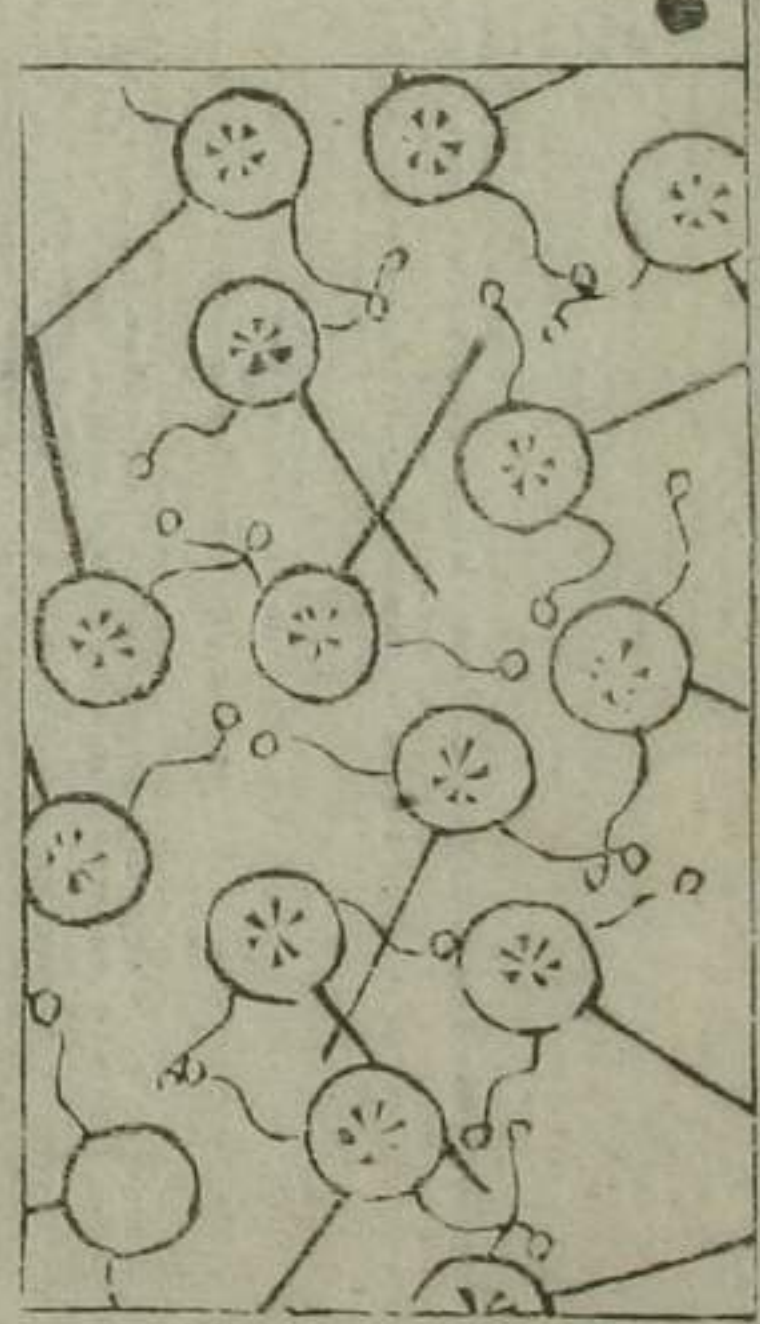
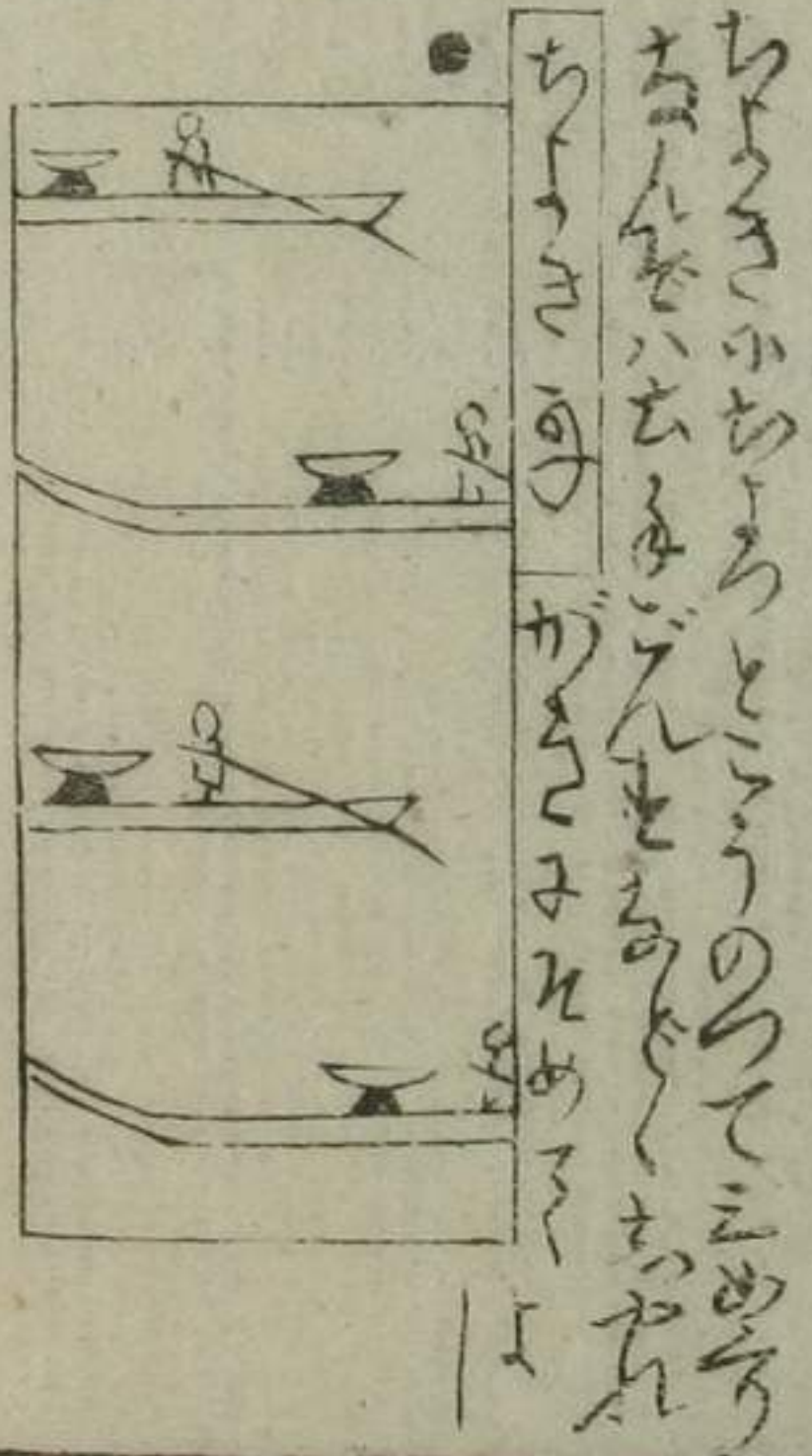


合志  
 志ま

文字部

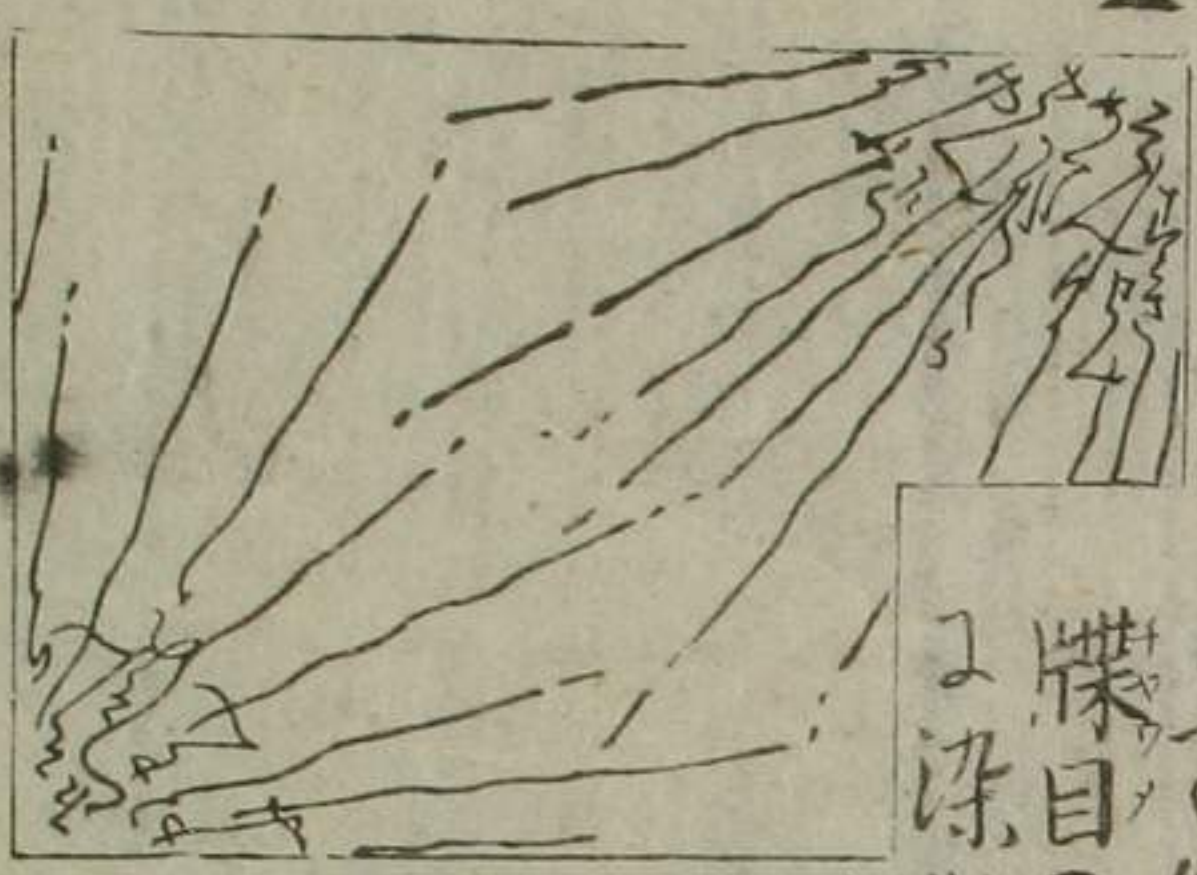


きつと糸糸  
けつろけ



まめたいこ  
夏たのこ

みちのり



かぶれのことちやうきん

林やの染

真言秘密の模様あり一名梵名深天竺



染紙の名あり

章白染

一名近松小紋

フシヨクリン  
ソレウヨクリン  
ノリウヨクリン  
カカリヨ  
ノリウヨクリン  
ノリウヨクリン  
ノリウヨクリン

又ふもりりふを又。

I LO HANI  
HO HE TO TI  
RINU LOW  
K A I LO HAN  
HO HE TO T

れき相名ぬらあねつりれ

いんごうはあうせ



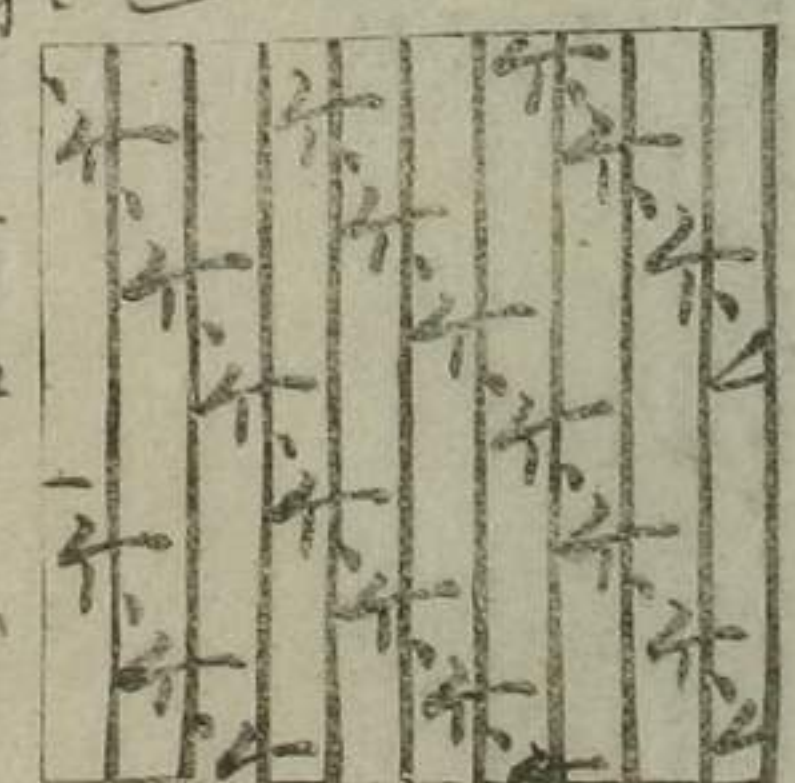
大のらまのり



名子  
ウ子

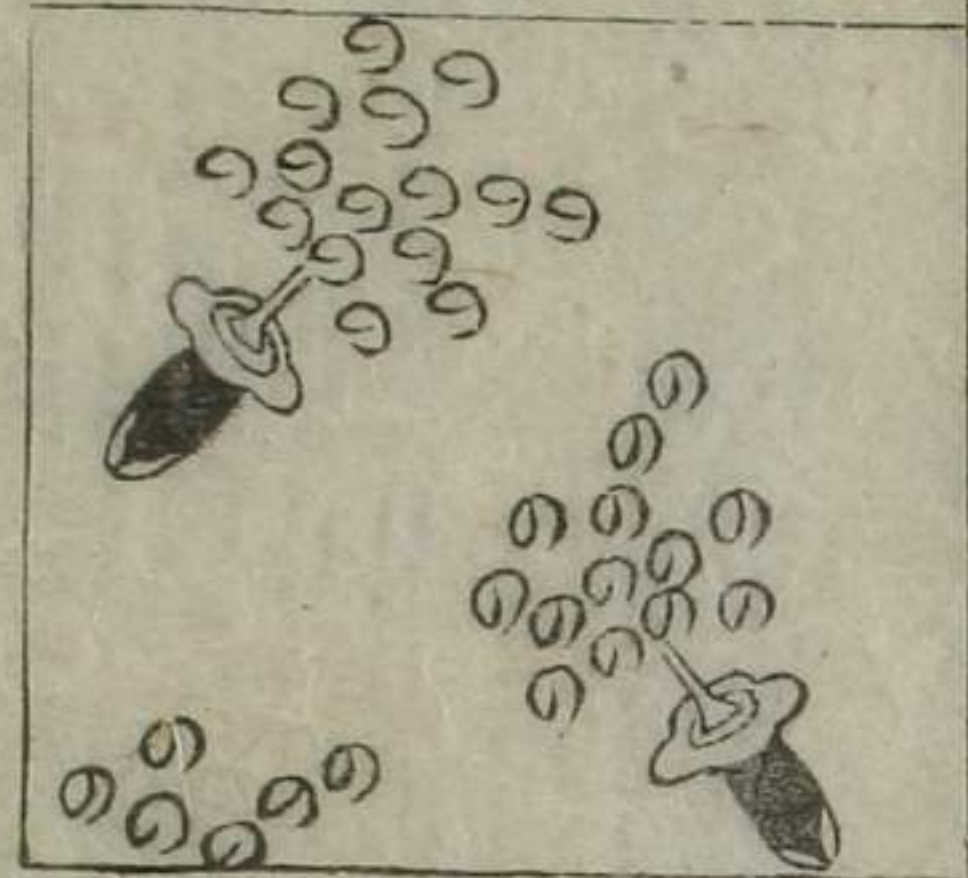
善手町より深出す

竹字



一名此君  
縞云  
け三色  
のきれ  
ハ亀  
白柏子のれで下之と云信

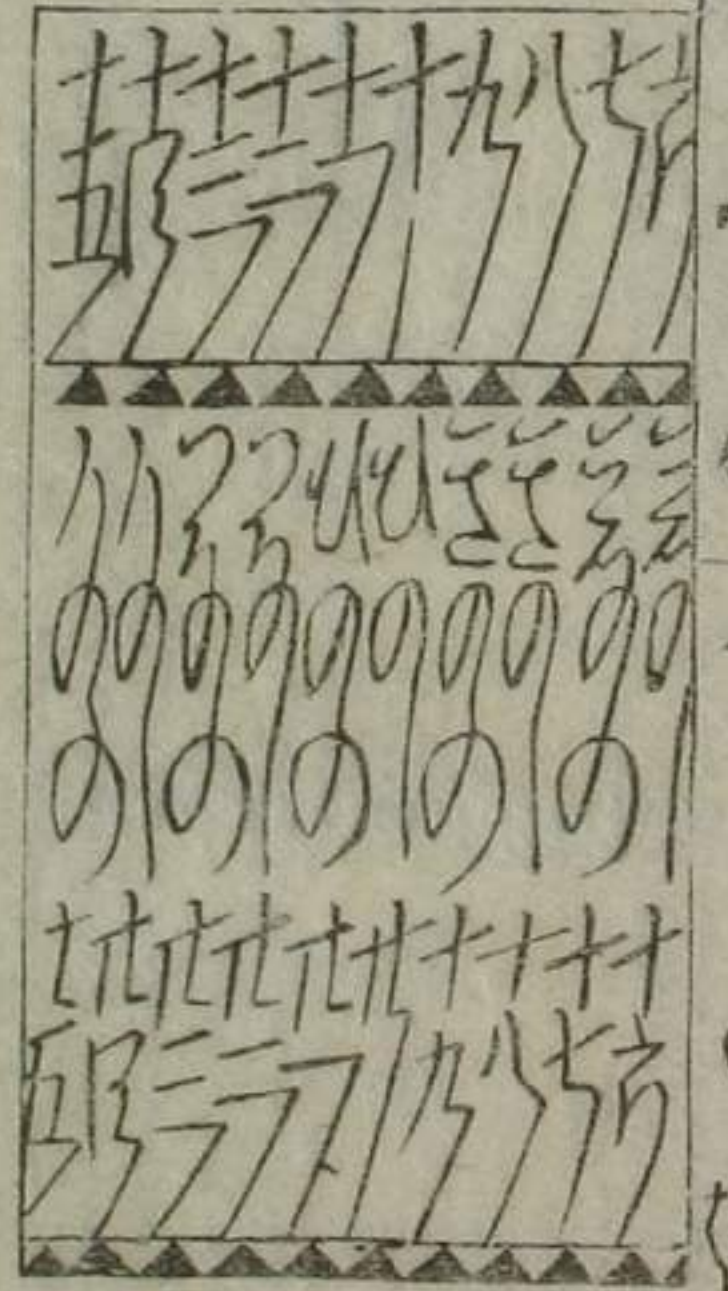
すびのまぶさろせせあつあ



まぶさろせ

まぶさろせ

あま  
むご  
ゆだん  
よきえ



こまがきれ

いせこいぬぞく  
際る用は又ハヤ

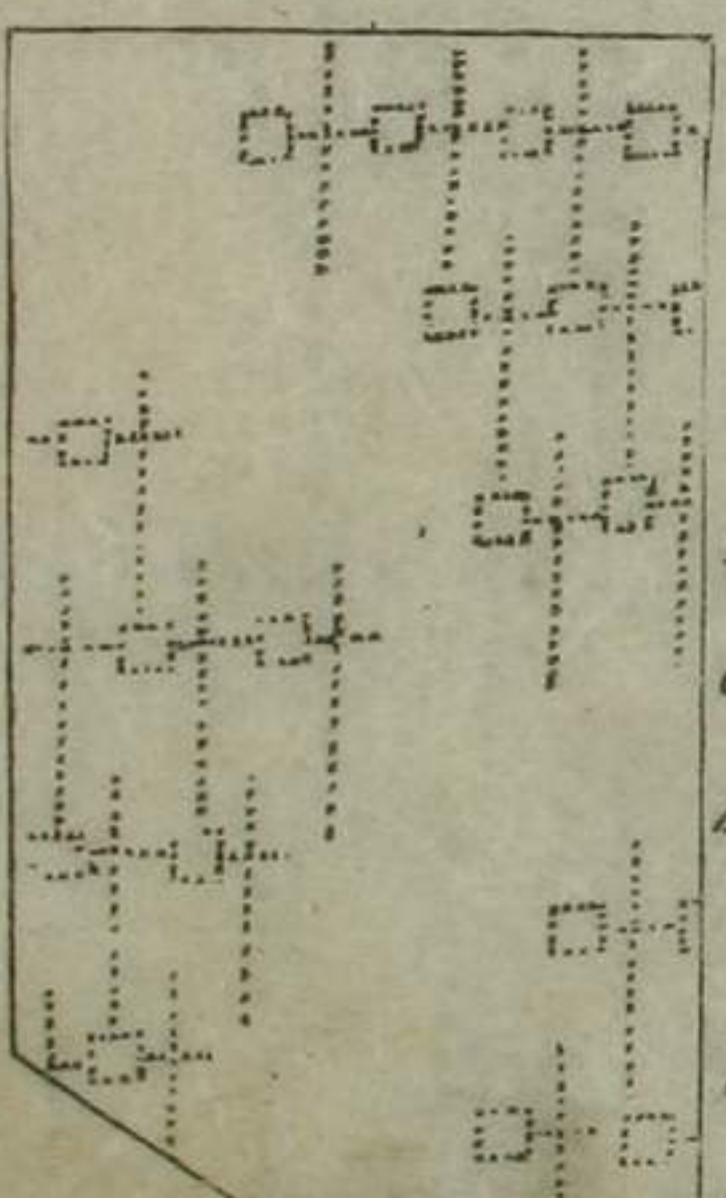
のむと

かりりのあれ



又尖ろくやききれに地合をよほし

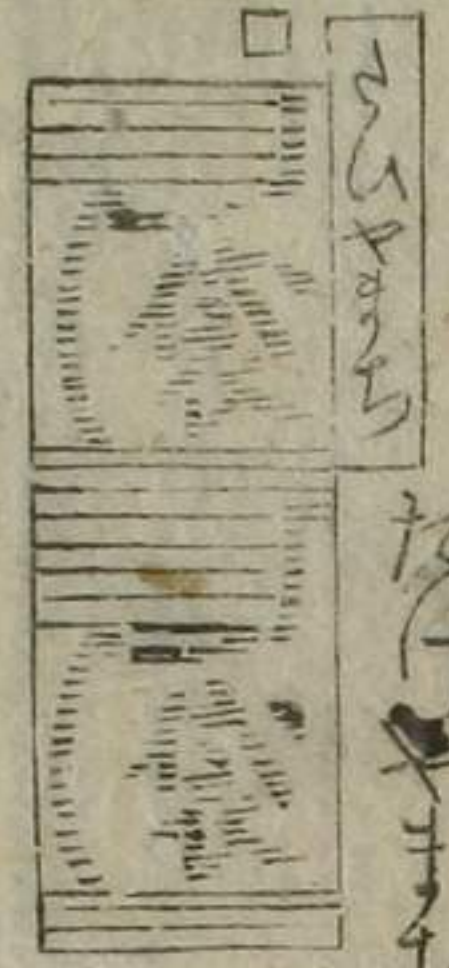
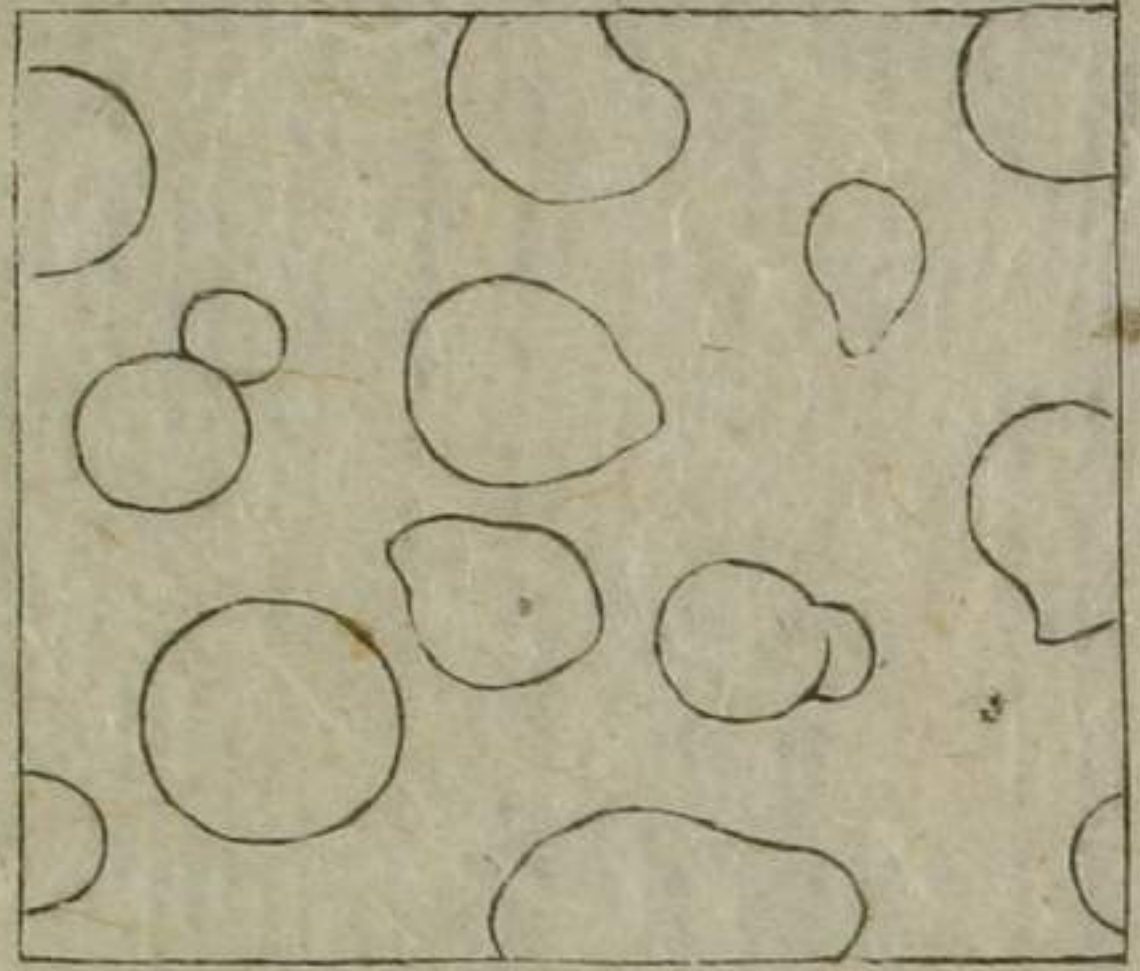
叶字あれ



ゆるもかの手し  
かろあドあふ

ふとこ

りてありきれぬ  
小兒丸 ● 志やん



部外

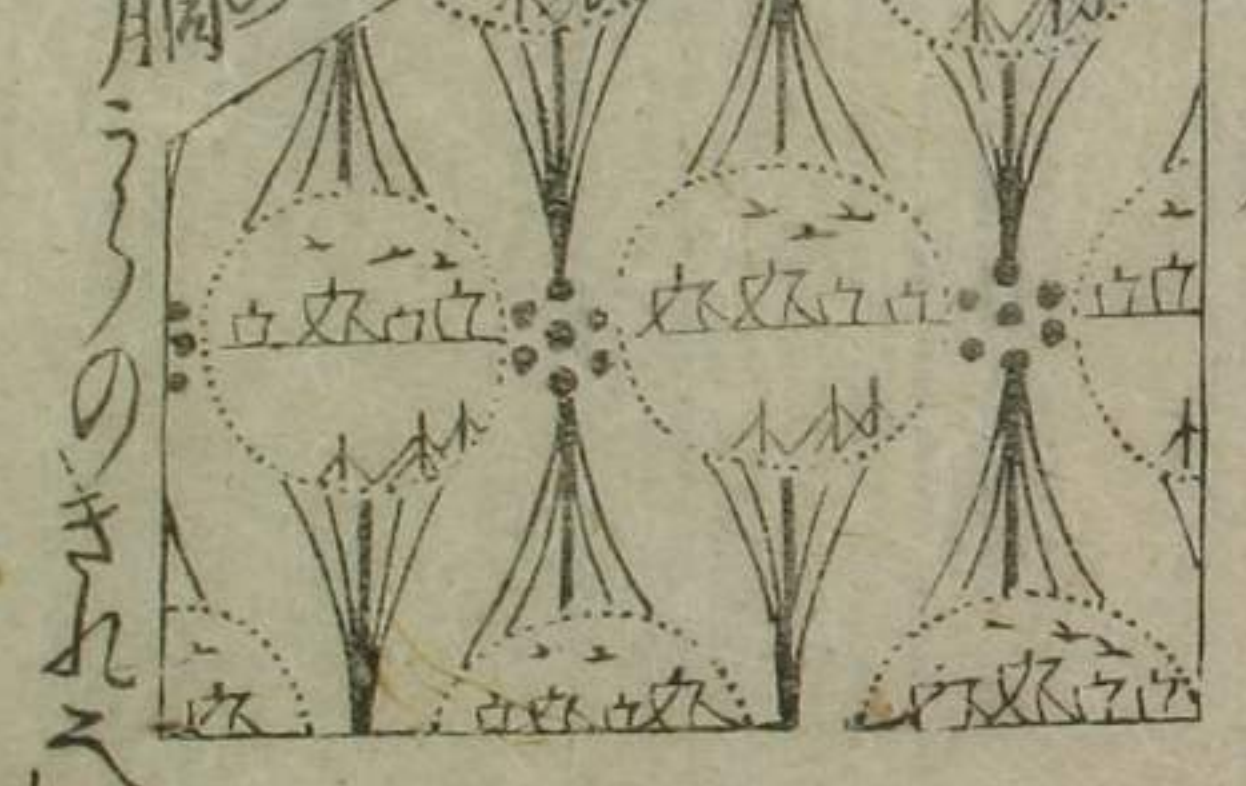
なげやまの  
い

光明遍照  
十方世界之流  
小紋也

えりま教



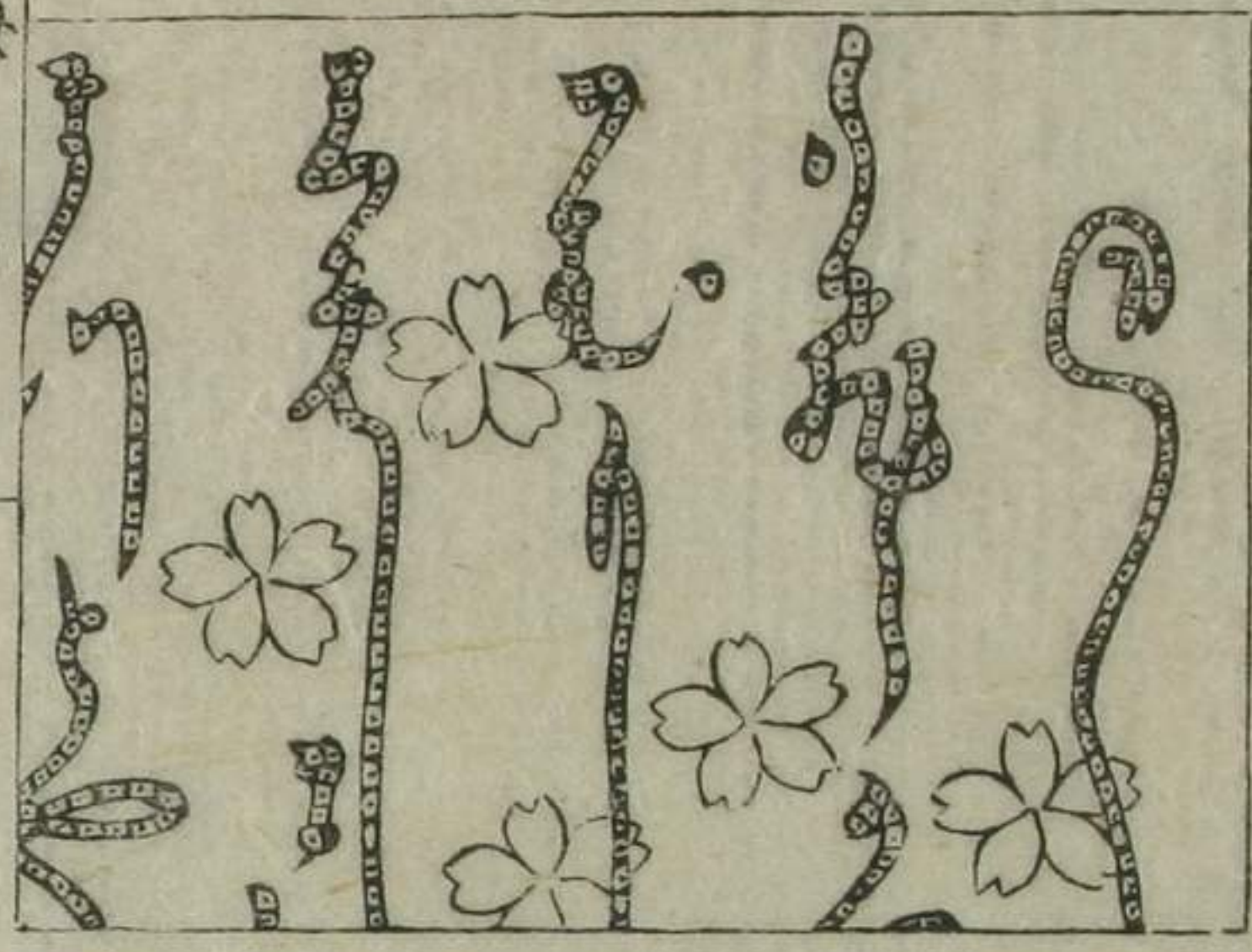
和の客の  
南



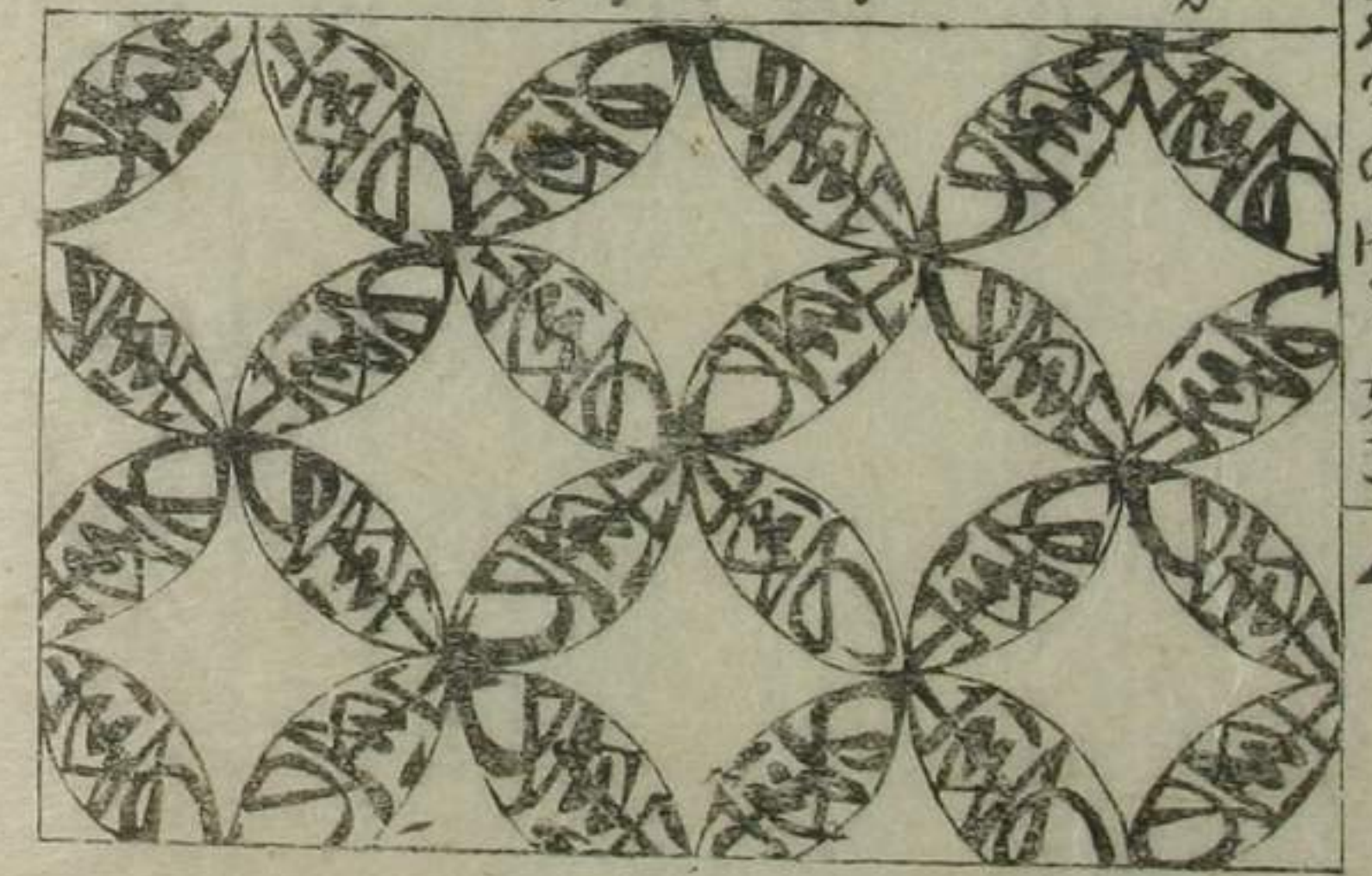
一名はつまと云

地はたご蓋まーてい○ふのいんをまの  
しとさうがぬのふりよはと川

ぬりのこ



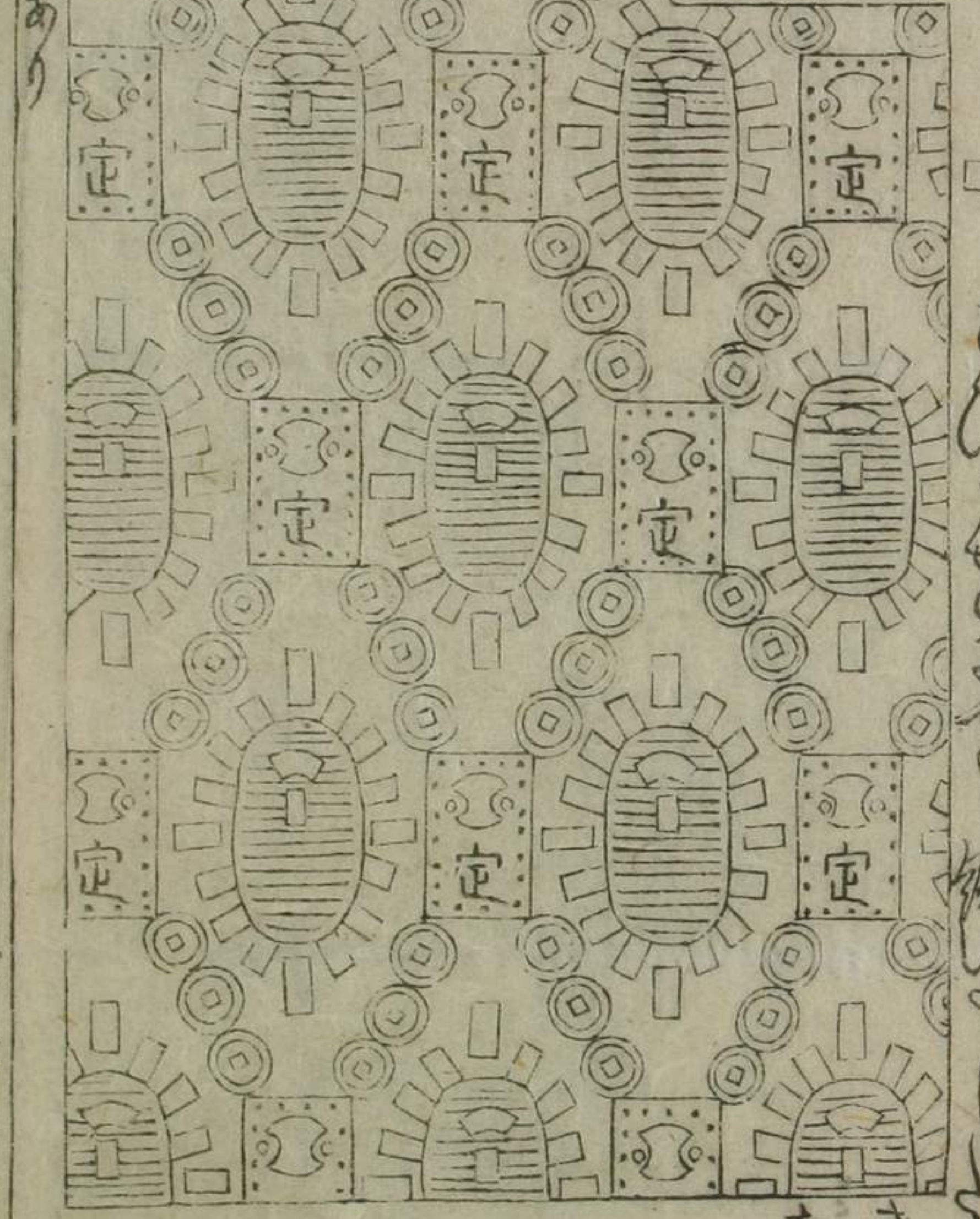
崩 騫 壽 文  
不 不 山



まの字のあき

一名はつまと云

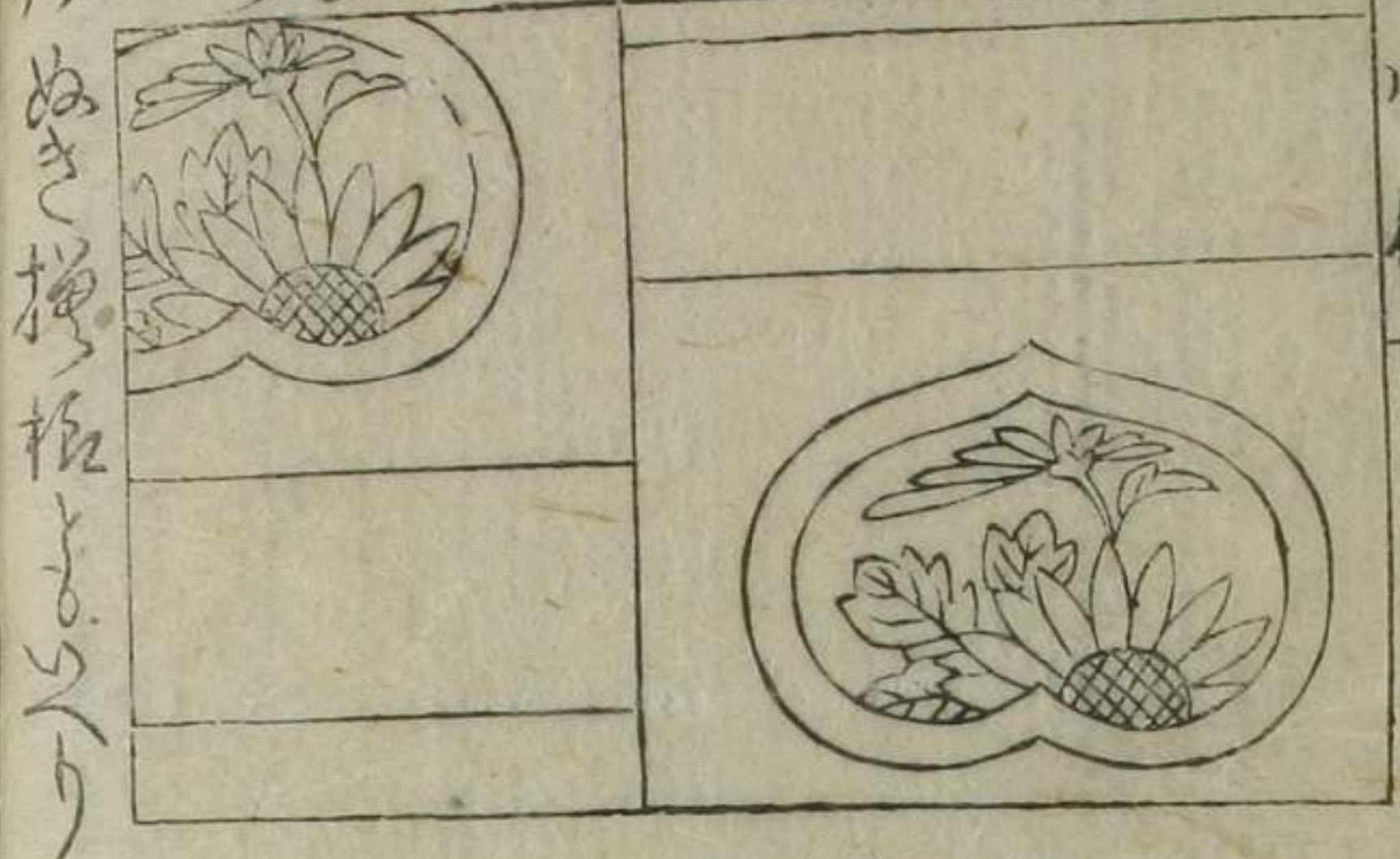
又キツキヤウ  
錦ト云  
いづらほろて  
もろもろも加  
物のある  
きん  
のく  
ら  
よ  
き  
と  
古  
ら  
の  
名  
あり



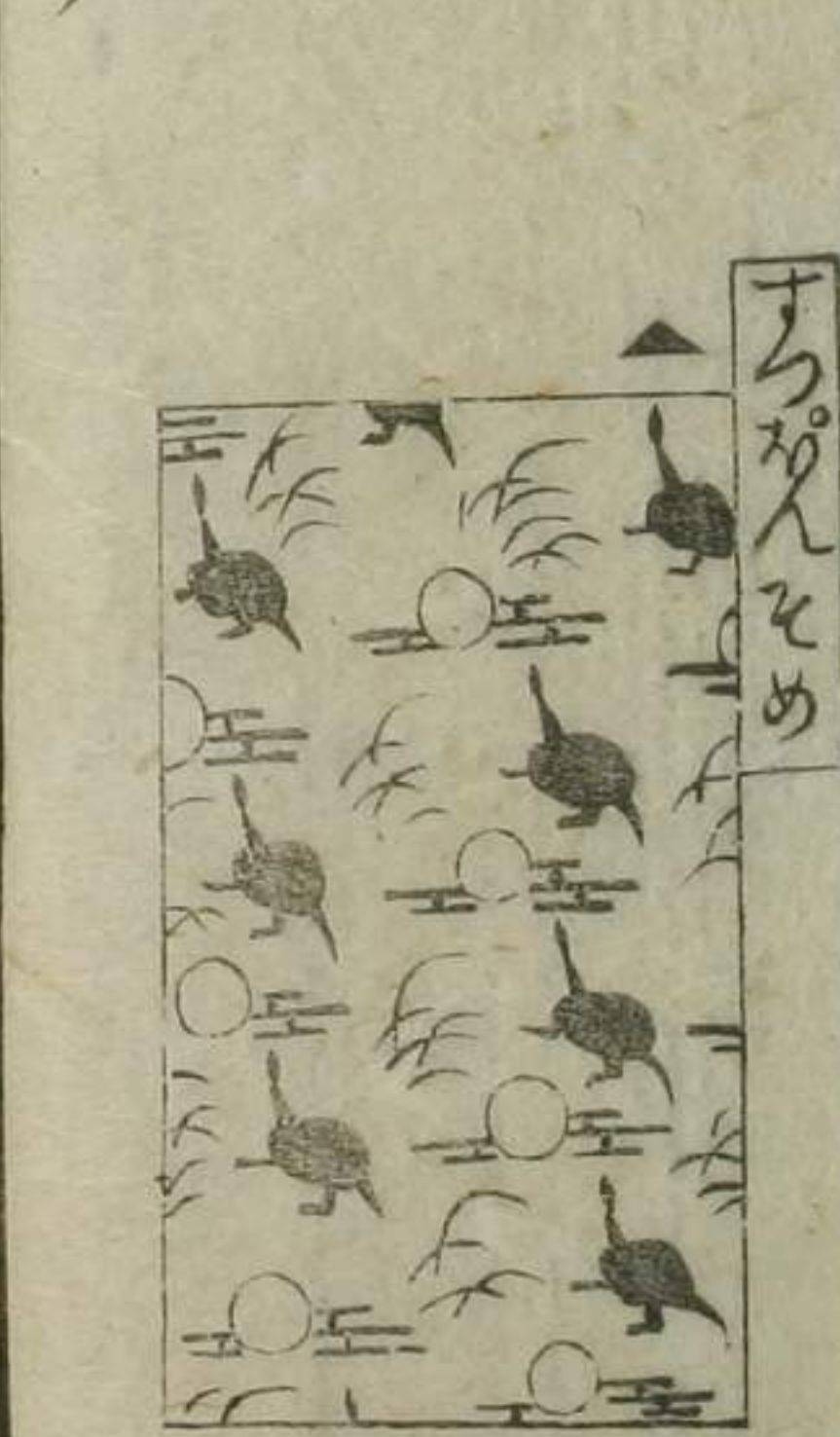
古  
金  
襪

通神天玉の御宇かよとりて  
そり勅をうけつくりし  
是をわ  
き  
り  
き  
り  
き  
り

又多しむの子格のせえ



トウ  
ル  
子



す  
ら  
ん  
を  
め



か  
び  
ち  
る  
り  
り

一名池之坊きりさと

龍又ふ

目録

下と自らく山脈と東一海  
地理と量と事と地脈と空方と事と  
少ゆれたたむといふと形と久之望と  
縦横をかちつと其味よあゆ人  
現強の土も甘かるとと嘗てこらら

ぶ〜米とま〜公同〜まげ〜まの  
 國こくに於おけりけりやや〜人ひとのの口くちはは鴨鴨舟舟  
 鴨鴨舟舟ちち〜いいのの人ひとをを肩かた〜  
 ぼ〜人ひとやや云云爾爾

天明丙午新

狂詩選きやうしせん詠解ぎやうかい

四よ方かた先生せんせい著しよ 全ぜん一いつ冊さく

狂歌きやうか評判へいはん詠優風ぎやうゆうふう

作者さくしや自作じやくさく 全ぜん二に冊さく

小紋新法こもんしんぽう

山東京傳やまとうきでん作さく 全ぜん一いつ冊さく

客衆肝照字きやくしゆかんしやうじ

作者さくしや同上どうじやう 全ぜん一いつ冊さく

天明新鑄ていめいしんしよ五拾人首ごじゆにんくび東都曲とうとまが狂歌文庫きやうかぶんく

出町でまち名なのの作者さくしや宿屋しゆくゑ飯盛いひもり撰せん 全ぜん一いつ冊さく

天明六歲丙午正月吉旦

耕書堂

御江戸通油町南側

葛屋重三郎



